

平成 2 2 年度公立高等学校
みやぎ学力状況調査
分析結果報告書

結果のまとめ P. 1

結果の概要 P. 2

第 2 学 年

国 語 P. 1 6
(調査実施人数：13,766人)

数 学 P. 2 4
(調査実施人数：13,753人)

英 語 P. 4 2
(調査実施人数：13,746人)

質問紙調査 P. 5 0
(調査実施人数：13,647人)

質問紙調査回答と正答率 P. 5 7

第 1 学 年

質問紙調査 P. 6 4
(調査実施人数：14,494人)

平成 2 2 年 7 月 8 日 ~ 1 6 日実施

宮 城 県 教 育 委 員 会

平成 22 年度公立高等学校「みやぎ学力状況調査」結果のまとめ

1 実施目的	生徒の学力状況及び学習に対する意識等を調査分析し、今後の教育行政及び各学校における学習指導の改善に役立てる。
2 実施調査	1 学年：質問紙調査 2 学年：国語，数学，英語，質問紙調査
3 実施対象	公立(県立・石巻市立)高校 1 年生 約 15,000 人 公立(県立・石巻市立)高校 2 年生 約 14,500 人
4 実施期間	平成 22 年 7 月 8 日(木) から 7 月 16 日(金)

5 2 学年教科別学力状況調査結果の主な特徴		
教科	分析結果	共通問題 正答率
国語	基本的知識は身に付いているが、活用力、論理的に読み解く力、表現力が不足 ・既習内容や日常生活レベルの語彙などは身に付いている。 ・細部を正確に読み取り、相互に関連付けながら展開をたどり、全体の要旨を的確に捉える力を問う問題の正答率は低い。	45.7
数学	基礎・基本の定着はみられるが、それを活用・応用する力が不足 ・公式や定理をそのまま用いて答えを求めることは身に付いている。 ・図形やグラフから必要な情報を読み取り、どのような公式や定理を用いるかを思考するような問題は正答率が低い。	38.1
英語	基本的な力は身に付いているが、応用的な力は不足 ・基礎的・基本的な語彙や文法、簡単な英文のリスニングについては正答率が高い。 ・複雑な情報整理や文脈を読み取るような発展的・応用的な分野の正答率が低い。	41.8

6 1 学年・2 学年意識調査結果の主な特徴		7 学校をあげての活動や取組
学年	分析結果(具体的な数値は 8 ページ以降)	
1 学年	大学進学希望者は増加 受たい授業は分かる授業，興味関心が持てる授業 「授業が概ね理解できる」は 3.1 ポイントの増加 ほぼ毎日学習する生徒は 4.8 ポイントの増加 学校での宿題・課題，小テストは顕著な増加 家庭学習での悩みは「集中できない」。原因は，「電話やメール」，「テレビやビデオ」。「部活動との両立」に悩む生徒も増加	「分かる授業」，「考える授業」を目標とした組織的な授業改善への取組 「過去の学習分野」の反復練習を徹底する取組 「学習の記録簿」の活用，「宿題や小テスト」等の家庭学習の習慣付けを徹底する取組 県の授業力向上を支援する事業等の活用 「朝学習」，「朝読書」や「放課後の学習会」等の学校での学習時間の確保 進路希望選択や学習における悩みに対する面談指導の充実
2 学年	大学進学希望者が増加 「授業が概ね理解できる」は前年より 1.6 ポイントの減少 家庭学習の時間は 1 年次より減少，前年よりは増加傾向 ほぼ毎日学習する生徒は前年より 0.4 ポイントの増加 学校での宿題・課題，小テストは前年より顕著な増加 家庭学習での悩みは「集中できない」。原因は，「テレビやビデオ」，「電話やメール」 正答率の高い生徒は，毎日一定の学習時間を確保。宿題や小テストで学習習慣を確立している。	

【考察】

2 年生の学力状況については、国語・英語における基礎的・基本的な力はある程度身に付いているが、それらを活用する力が不足している。数学については、1 年次に学習した基礎・基本の定着に、分野ごとにばらつきがあるため、応用的な力が不足している。

前年度と比較して、1 年生は、「家庭学習時間」・「授業を理解している」割合が増加している。しかし、2 年生になると 1 年次と比較して「学習していない」割合が増加傾向

学力・学習状況調査を活用し、組織的に授業改善等に取り組んだ結果、成果を上げている学校が多く、県の事業である授業力向上支援事業により、組織的に授業改善に取り組む学校が増加している。

平成22年度公立高等学校「みやぎ学力状況調査」 結果の概要

調査の概要等

第1学年

- (1) 第1学年における生徒の学習状況及び進路意識等を調査分析し、各学校における学習指導及び進路指導の改善並びに本県の教育行政に役立てる。
- (2) 公立(県立・石巻市立)高等学校の74校の1年生, 約15,000人を対象に, 平成22年7月8日(木)から7月16日(金)までの間, 各学校で実施

質問紙調査

生徒の学習に対する意識等についてのアンケート調査を実施

〔調査実施人数〕

意識調査回収人数 14,494人

第2学年

- (1) 学習指導要領に示された指導内容の定着状況並びに第2学年における生徒の学力状況及び学習に対する意識等を調査分析し、各学校における学習指導の改善並びに本県の教育行政に役立てる。
- (2) 公立(県立・石巻市立)高等学校の74校の2年生, 県内の約14,500人を対象に, 平成22年7月8日(木)から7月16日(金)までの間, 各学校で実施

学力状況調査

〔調査実施教科〕

- ・国語, 数学, 英語の3教科の学力状況調査
- ・国語, 数学, 英語の作問に当たっては, 高校1年次に学習した内容の基礎・基本と思考力・応用力を問う問題で構成し, 平均正答率を50%と設定して作成
- ・国語, 数学, 英語はそれぞれ共通問題に加え学校選択問題を設定
 - 学校選択型A問題(A問題)は基礎的・基本的な内容の設問
 - 学校選択型B問題(B問題)は思考力・表現力・応用力をみる設問

〔調査実施人数〕 学校数は全日制本校70校, 定時制9校, 分校3校, 岩ヶ崎鷺沢校舎を1校の計83として集計した。

国語 13,766人 (A問題選択56校7,000人, B問題選択27校6,766人)
数学 13,753人 (A問題選択64校8,979人, B問題選択19校4,774人)
英語 13,746人 (A問題選択59校7,706人, B問題選択24校6,040人)

質問紙調査

生徒の学習に対する意識等についてのアンケート調査を実施

〔調査実施人数〕

意識調査回収人数 13,647人

調査結果の概要と分析

1 2学年学力状況調査の教科別結果

国語

共通問題正答率は、45.7%

- 基礎的・基本的知識は身に付いているが、それを活用する力、論理的に読み解く力、表現力が不足
言語事項に関する設問のうち、日常生活でよく用いるレベルのものについては概ね良好
使用頻度の低い言葉、論理の展開をたどり要旨を的確に捉える力、登場人物の人間関係や心情を読み解く力を問う問題の正答率が低い。選択の漢文は今年度からの出題。古文・漢文ともに基本的な知識は身に付いている一方、知識の活用と、細部から全体を、全体から細部を正確に読み取る力はまだ不足している。

数学

共通問題正答率は、38.1%

- 1年次に学習した基礎・基本の定着度に、分野ごとのばらつきがあるため、応用力や活用力が不足
基礎・基本を問う問題については、数と式、方程式、二次関数の分野の基礎・基本の定着が窺えるが、扱う数が分数であったり、絶対値の記号の扱い、三角比などについての問題は、正答率が低く、計画的に1年次の内容を復習する機会や計算力を高めることが必要である。そのため、問題を考えるときに使用する公式や定理を選択したり、組み合わせるような応用力や活用力を問う問題を解く力は、まだ身に付いていない。

英語

共通問題正答率は、41.8%

基礎的な力は身に付いているが、応用的な力は不足

- 基礎的・基本的な語彙や文法、リスニングについては、概ねよく理解できている。正確な情報処理能力や文脈を読み取るような発展的・応用的な分野の理解力はまだ不十分である。多くの英文に触れることで身に付く実践的な英語力が不足しているものと思われる。

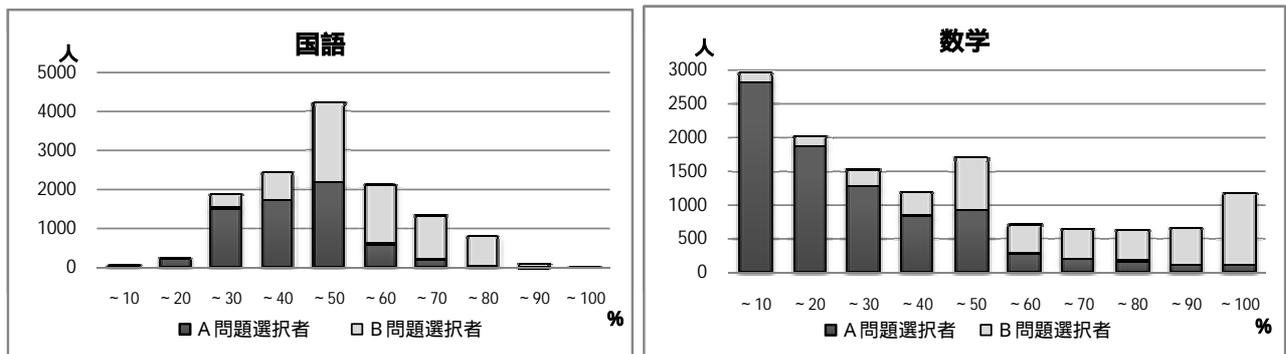
各教科の受験者数、共通問題の正答率等概要

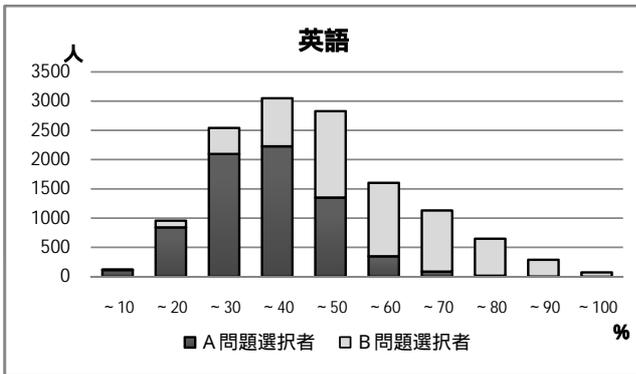
学校数は全日制本校70校、定時制9校、分校3校、岩ヶ崎篤沢校舎を1校の計83として集計した。

教科	国語		数学		英語	
	国語A	国語B	数学A	数学B	英語A	英語B
選択						
内容	基礎的・基本的な内容の設問	思考力・表現力・応用力をみる設問	基礎的・基本的な内容の設問	思考力・表現力・応用力をみる設問	基礎的・基本的な内容の設問	思考力・表現力・応用力をみる設問
学校数	56	27	64	19	59	24
調査人数	7,000	6,766	8,979	4,774	7,706	6,040
共通問題部分の正答率	38.5	53.2	23.7	62.7	32.5	53.6
A・B選択者別の全体正答率	38.5	50.4	18.8	44.6	31.4	50.0

図1 - 1 共通問題の正答率別度数分布

各教科における共通問題部分の正答率の度数分布についてA問題及びB問題を選択した生徒に分けて積算集計したもの





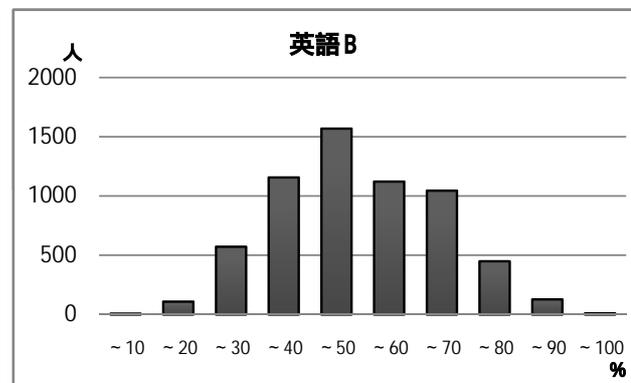
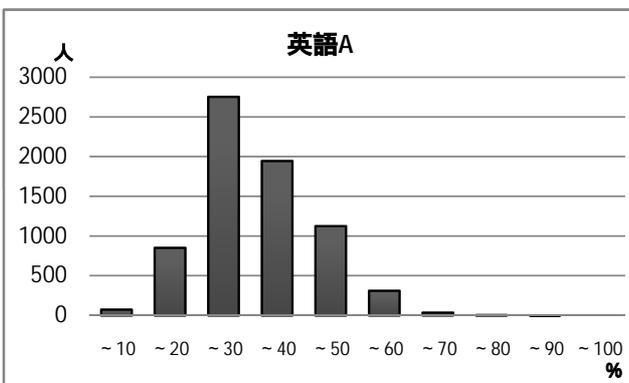
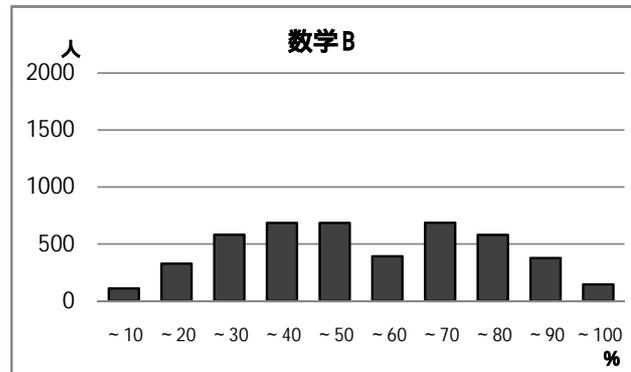
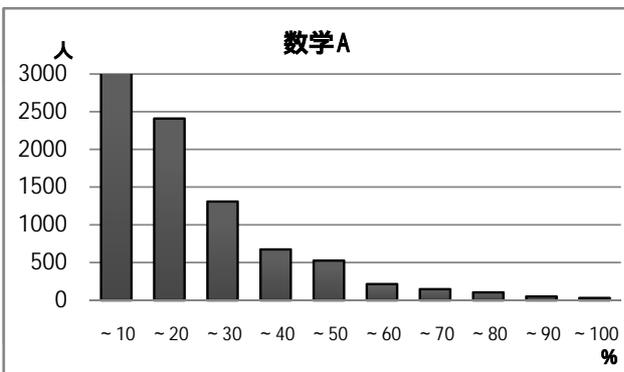
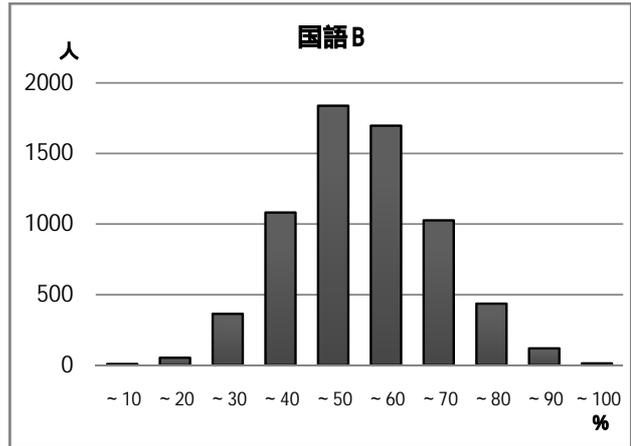
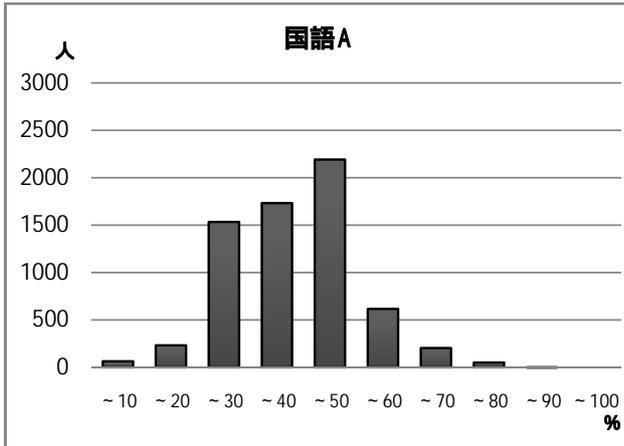
分析

数学は正答率の高い生徒と低い生徒に分散している。これは、1年次に学習した基礎・基本の定着度に分野別ごとのばらつきがあることが原因と考えられる。

英語も数学と同じような傾向があり、正答率に広がりが見られる。これは、一定の時間で情報を処理する練習が不足していたり、語数の多い英文に慣れていないことが原因と考えられる。

3教科ともB問題選択者は正答率が高く、基礎的・基本的な力がある程度身に付いていると考えられる。

図1 - 2 A問題, B問題別の正答率度数分布
各教科における共通問題部分を含めた全問題正答率の度数分布



2 2 学年学力状況調査の結果分析と改善の方向

国語

分析と課題

(…相当数の生徒ができています。 …課題がある。)

平易な漢字、身近な語句は正答率が高い。基本的な呼応表現もよく理解できている。
日常生活の中で使用頻度が低いが、国語学習上必要と思われる漢字の読み書きが不十分。慣用句、四字熟語に触れる機会も不足している。
敬語表現の正しい用法についての理解が不足。世間の誤用に流される面も見られる。

⇒ **課題 1：社会人として必要な言語能力の基礎となる知識が十分でなく、その習得機会の確保が急務である。**

論理的な文章では、文章中にある同様の表現をもとに内容の理解を深めることができる。
論理的な文章では、抽象的な表現を理解し、全体を把握する力が不足している。
文学的な文章について、登場人物の描写から心情を表す語句を抜き出し的確な言葉でまとめ上げる力が弱い。

⇒ **課題 2：部分的理解から全体的理解に発展しようとする動機付け、細やかな表現の丁寧な読み取りとそれを抽象概念に置き換えて表現する力を身に付けさせる指導の一層の工夫が必要である。**

基礎的な語句について、高校一年での既習事項は定着している。

古典を読むことに不慣れで、展開に即して内容を正しく読み取る力が不足している。

⇒ **課題 3：古典に親しませ、自分の力で読み解いていく楽しさに気付かせるような指導の工夫が求められる。**

改善の方向



基礎的・基本的な言語知識を定着させるために、言語事項を扱う時間、機会を意識的に確保する。言語事項の理解が社会への理解、適応力に結びつくよう、指導のステップや内容を工夫する。

- ・漢字は、生徒が日常生活で使う機会は少ないが、国語学習上必要と思われるものを特に重点的に取り上げ、活用の幅を広げる機会を工夫・確保する。
- ・慣用句、四字熟語については、それに触れさせる時間の確保が不可欠である。指導機会の設定を工夫する。
- ・敬語は、ケース・スタディと誤用の指摘、その裏付けとなる体系的な理解をバランスよく進めていくために、生徒の実生活、進路等を把握し、指導の機会を工夫し増やしていく。

論理的な文章では、対比的な内容を捉え、例示から導かれる主題を把握する力が付くよう、目を向けさせるための指導の手順を工夫する。また、文学的な文章では、登場人物の人間関係や時間軸を的確に把握し、細やかな心理描写を抽象的に捉えまとめ上げるための発問や指導法を工夫する。

- ・読解に向けた意欲的かつ能動的な姿勢を促し、文章内容をまとめ、図式化して文章を把握させるための指導の工夫を図る。
- ・抽象表現の理解には、抽象と具体の重ね合わせに多く触れることが不可欠である。用例を通して抽象語のイメージやニュアンスに触れさせる等、指導を工夫する。
- ・文学的な文章では、深みのある心理描写を丁寧に読み解くために「心理」「感情」を表す言葉に着目させ、それらの語を用いて登場人物の心情を文章にまとめさせたり、人間関係と時間軸を整理させたり、文章化して表現していく指導を意識する。

古典作品に触れる機会を増やし、古典に親しませる学習活動や教材を工夫する。基礎的・基本的知識が内容理解に大きく関わることに気付かせる教材や指導の工夫を図る。

- ・基礎的な語句や文法を確実に身に付けさせ、文章内容を理解させる指導の工夫を図る。
- ・現代でも使用されている語や古典特有の表現を足がかりにし、古典常識や身近に使用されている古典事項に触れさせる活動を意識的に行う。
- ・書き下し文や現代語訳を適宜活用し、文章内容を捉え、話の筋を楽しむとともに、学習が表面的な知識の暗記にとどまらないよう工夫する。
- ・音読や暗誦によって漢文・古文のリズムを感じながら、文章の雰囲気や話の展開を味わわせる。

数学

分析と課題

(…相当数の生徒ができています。 …課題がある。)

「数と式」、「方程式」、「二次関数」における基礎・基本を問う問題については、正答率が高いことから、基礎・基本の定着が窺える。

基礎・基本を問う問題でも、扱う数が分数であったり、絶対値の記号の扱い、三角比などについては、正答率が予想以上に低いことから、復習が必要である。

⇒ **課題 1：2年次の授業や家庭学習において、1年次に学習した基礎・基本を継続的に満遍なく復習させる指導が不足している。**

公式を用いて答えを求めることは比較的身に付いている。

結論から遡って考えるなど、新たな発想で解くことを1年次に経験した問題は、正答率が伸びている。

三角比の定義を用いることができるように図を移動して考える問題や、正弦定理や余弦定理など、どの公式を用いるかを考える問題の正答率が低い。

複数の文字を扱うことや問題文から式を立てる段階での誤りが多く、問題文が長い設問・文章が複雑である設問は正答率が急激に下がる。

⇒ **課題 2：公式や定理がなぜ成り立つのかを考えることや、様々な数学的活動を通して論理的に思考させる機会が少ないため、公式を活用する力や根気強く考える力が身に付いていない。**

基本的な計算の力、簡単な方程式・不等式の解法など、正しい式変形を確実に行えば必然的に正答が得られるような問題の正答率が高い。

二次関数の値がどのように変化するかを、グラフを通して調べる姿勢が身に付いていないため、定義域の両端に対する y の値を感覚的に最大・最小としている。

グラフから通る点を読み取り二次関数の式を求める問題は、頂点がすぐ読み取れるにもかかわらず正答率が低い。

⇒ **課題 3：数学の用語や記号を用いて書かれた文章を、式やグラフ・図を用いて表現することや、式やグラフ・図から必要な情報を読み取り、それを活用する力が不足している。**

改善の方向

- 1年次に学習した内容の復習による基礎・基本の定着を目指す計画的な学習計画で指導する。
- ・1学年末、1学年から2学年へ移行する春休みの期間、2学年での学習内容に、1学年で学習した内容を計画的に復習させる機会を設定する。
- ・2学年の学習内容と1学年で学習した内容との関連性を系統的に整理させる。

数学を活用する態度を育成するために、数学を学習する楽しさや意義、数学的な見方や考え方のよさを実感させる授業を工夫する。

- ・日常生活で体験する事柄を数学化するなど、現実の生活を反映した問題を多く扱い、生徒がその内容の必要性を感じられるような授業展開を考える。

論理的に思考する力・表現する力を育成するために、思考力を互いに高め合い、自分の考えを表現しあう指導を工夫する。

- ・授業中の発問を工夫し、生徒に気付かせたり、生徒のつまずきを生かす視点をもつ。
- ・一般化することを急がず、公式や定理を導く過程を具体的な場合で振り返る。
- ・問題の解法が公式や定理を導く過程と一致しているものを扱い、公式や定理が役に立つことに気付かせる指導を工夫する。
- ・発表や検討（練り合い）などの様々な数学的活動を授業に取り入れて、自分の考えを論理的に思考させ表現する機会を設定する。

数学の用語や記号を用いて書かれた文章などを理解し処理するために、グラフや図を活用しながら、常に具体化させて思考させることを重視する。

- ・ICTを活用するなどして、文字を含む式で与えられた図形やグラフが、文字の値の変化にもなっていくように変化していくかを視覚的に捉えさせたりするなど、変化や動きを実感させる様々な指導を工夫する。
- ・与えられた条件式を、式変形だけで思考させず、グラフや表を利用して変化の様子や成り立つ関係を思考させる工夫をする。

英語

分析と課題

(……相当数の生徒ができています。 ……課題がある。)

簡潔で基本的な表現については概ねよく理解できている。

中学校後半に学習する文法・語法を使った英文にもかかわらず、情報整理が要求される英文では、内容を理解できていない。

⇒ **課題 1：それぞれの学習段階で英文を聞く機会が足りず、文の構造を理解する力が不足している。**

中学レベルの基本的な語彙、文法・語法については、一定の定着が図られている。

高校で初めて学習する語彙・熟語・文法を正しく使用できるレベルまで到達していない。

⇒ **課題 2：高校段階で学習する語彙・熟語・文法の知識が正確に身に付いていない。**

中学校英語の基本的な定型表現はある程度身に付いている。

高校で初めて学習する文法・構文はある程度活用できつつあるが、語彙・語法レベルを上げながら活用できるレベルまでは到達できていない。

⇒ **課題 3：高校段階で学習する文法や構文を豊富な語彙を用いて英文を構成する力の育成が必要**

基本的な単語から類推し、長文の大まかな内容を把握することはできる。

語彙力や基本的な文法事項の習得が不十分で速読に対応できていないため、短時間で正確に内容を読みとり、必要な情報を整理することができない。

⇒ **課題 4：英文の内容を正確に理解し、必要な情報を読みとり、書き手の意向を理解するために必要な読解力が不足している。**

改善の方向



聞き取りの力を向上させるため、理解の土台となる語彙や基礎的な文法・語法の定着を図るとともに、英語を聞かせる機会を多く設ける。

・生徒のつまずきの段階を把握するとともに、必要に応じて「中学校の学習内容」も含めて、基礎的な語彙や文法・語法の定着を図る。

・英語を聞く機会を多く設ける。

・聞き取りの際に注意させたい文法・語法または内容など、ポイントやヒントを適宜与え、目的を持ったリスニング活動を多く行う。

・正確な聞き取りや情報整理を助けるための要点のまとめ方を身に付けさせる。

正確な語彙力、文法・語法力を養うとともに、読む・書く・聞く・話すの4技能をバランスよく使用しながら、反復練習を繰り返してその定着を図る。

・練習問題や小テストなどのトレーニングを何度も繰り返すことにより、高校レベルの語彙・文法の知識の定着を図る。

・生徒の実態を考慮しながら、オーラル・コミュニケーション以外の授業でも英語使用の機会を増やし、学習内容が運用レベルに到達するよう目指す。

・ALTを活用した会話中心の授業においても、既習の単語・文法事項を仲立ちとして、語彙力・文法力の向上を目指す。

語彙力を高めながら表現する力を育成するために、英語で読む・書く・聞く・話すためのタスクの活用を図る。

・新出の文法や構文は理解させるだけでなく、説明した後に整序作文や自由英作文などの練習問題に取り組みせ、実際に使う機会を与える。

・コミュニケーション活動において、身に付けさせたい文法・構文を何度も使うようなタスクを工夫する。

・単語や熟語はできる限り文または句の単位で練習させ、語法を理解するとともに英語運用能力が向上することを図る。

・宿題や小テストで単語・熟語だけでなく、新出の文法や構文を使った簡単な英文も書かせるなどにより、表現する能力のより確実な定着を図る。

読解力及び情報処理能力を養成するために、語彙と基本的な文法事項の定着を強化するとともに、言語材料の理解だけにとどめず、内容の把握を重視して指導する。さらに文章や段落の構成、文脈の展開などを踏まえて読みとるように指導することが大切である。

・語彙指導と文法事項を定着させるための具体的な取り組みを強化する。

・Q and A や T or F 等により、日本語を介さず英語による理解を促す。

・英語特有の論理構造の理解を促すために、スキミングやスキミング、パラグラフ・リーディング等の様々な読解指導を体系的に行う。

・英文を読んだ後に要約させたり、意見や感想を書かせる等の情報を整理しまとめさせる活動を取り入れる。

・精読だけではなく短時間で必要な情報と概要を把握できるよう速読の指導を計画的に行う。

・スラッシュリーディングやCDを使用した eye-shadowing を行い、黙読・音読のレベルを向上させる。

3 1学年意識調査の結果と分析

過去の1年生との比較

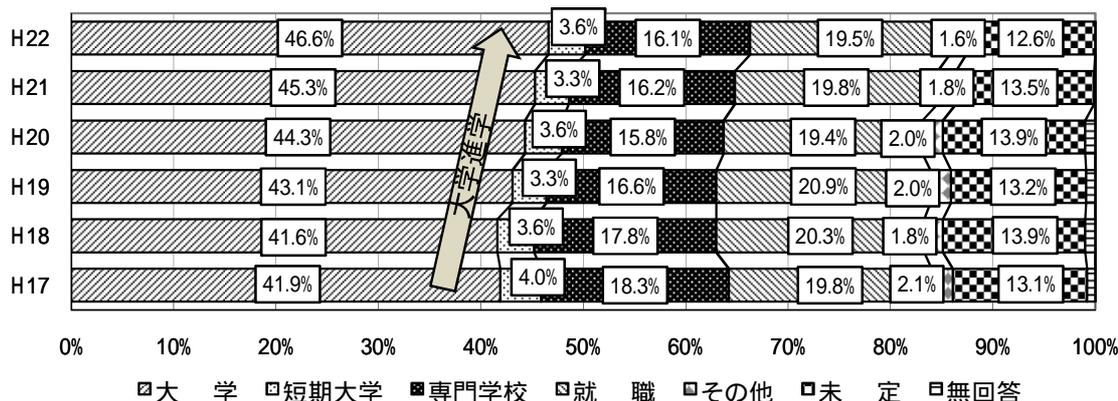
(1) 「現在最も強く希望している進路は」

大学進学希望者が増加傾向

	大学	短期大学	専門学校	就職	その他	未定
H22	46.6%	3.6%	16.1%	19.5%	1.6%	12.6%
H21	45.3%	3.3%	16.2%	19.8%	1.8%	13.5%
H20	44.3%	3.6%	15.8%	19.4%	2.0%	13.9%
H19	43.1%	3.3%	16.6%	20.9%	2.0%	13.2%
H18	41.6%	3.6%	17.8%	20.3%	1.8%	13.9%
H17	41.9%	4.0%	18.3%	19.8%	2.1%	13.1%

<分析> 大学進学希望者が昨年度より1.3ポイント増加。就職希望者は微減

図2 進路希望別の割合の推移



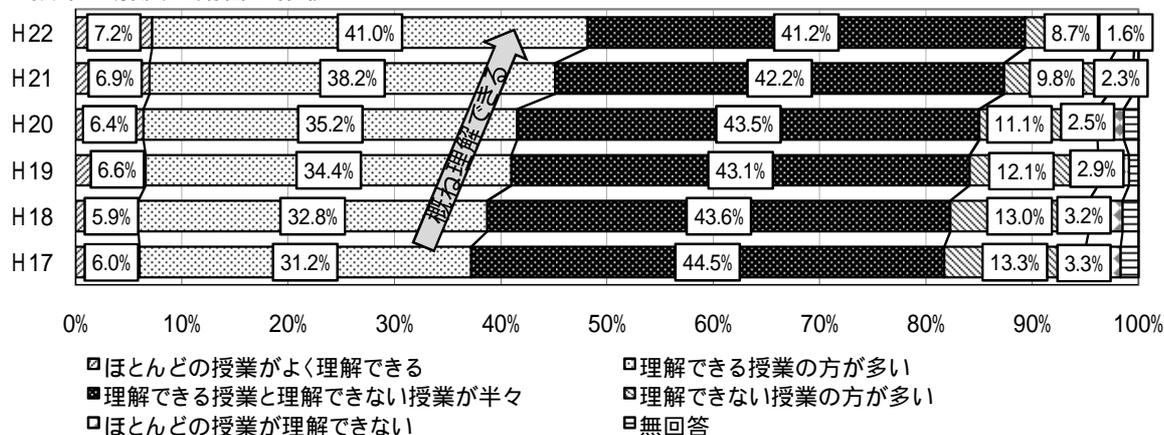
(2) 「授業がどのくらい理解できるか」

「授業が理解できる」が増加

	ほとんどの授業がよく理解できる	理解できる授業の方が多い	理解できる授業と理解できない授業が半々	理解できない授業の方が多い	ほとんどの授業が理解できない
H22	7.2%	41.0%	41.2%	8.7%	1.6%
H21	6.9%	38.2%	42.2%	9.8%	2.3%
H20	6.4%	35.2%	43.5%	11.1%	2.5%
H19	6.6%	34.4%	43.1%	12.1%	2.9%
H18	5.9%	32.8%	43.6%	13.0%	3.2%
H17	6.0%	31.2%	44.5%	13.3%	3.3%

<分析> 「授業が概ね理解できる」と回答した生徒が48.2%で昨年度より3.1ポイントの大幅増加

図3 授業理解度の割合の推移



(3) 「受けた授業はどんな授業か」

「分かる授業」「興味関心がもてる授業」を期待

	基礎・基本から分かるまで教えてくれる授業	発展的な内容まで教えてくれる授業	興味や関心がもてる授業	進路希望達成につながる授業	資格取得につながる授業
H22	37.3%	7.5%	37.3%	13.2%	4.4%
H21	35.4%	6.3%	38.9%	13.9%	5.3%
H20	35.1%	6.6%	39.0%	12.9%	5.3%
H19	36.5%	6.5%	38.2%	13.1%	4.8%
H18	35.6%	6.5%	38.5%	12.7%	5.5%
H17	35.1%	6.1%	39.8%	12.5%	5.9%

<分析> 前年まで受けた授業1位「興味関心がもてる授業」に「基礎・基本から分かるまで教えてくれる授業」が並んだ。発展的な内容まで教えてくれる授業も増加

(4) 「平日の学習時間」

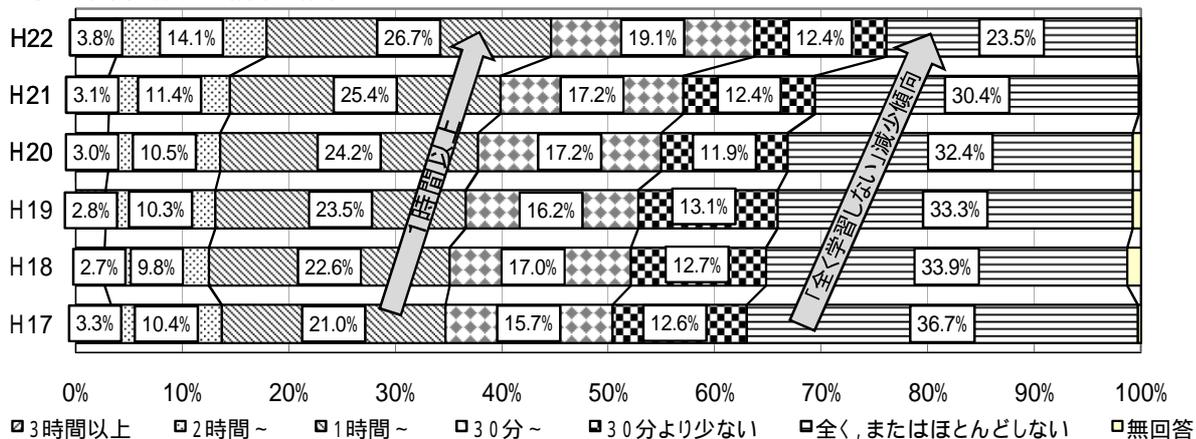
学習時間は全体的に増加傾向、2～3時間集中した学習が効果的

平日（テスト期間や長期休業中などを除く通常の月曜日から金曜日）に、家庭学習（塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含む。）をどの程度しているか。

	5時間以上	4時間～	3時間～	2時間～	1時間～	30分～	30分より少ない	全く、またはほとんどしない
H22	0.2%	0.5%	3.1%	14.1%	26.7%	19.1%	12.4%	23.5%
H21	0.3%	0.5%	2.3%	11.4%	25.4%	17.2%	12.4%	30.4%
H20	0.3%	0.5%	2.3%	10.5%	24.2%	17.2%	11.9%	32.4%
H19	0.3%	0.4%	2.1%	10.3%	23.5%	16.2%	13.1%	33.3%
H18	0.2%	0.4%	2.1%	9.8%	22.6%	17.0%	12.7%	33.9%
H17	0.3%	0.5%	2.5%	10.4%	21.0%	15.7%	12.6%	36.7%

<分析> 平日の学習時間は昨年度よりも「2時間から3時間」が2.7ポイント増加、「全く、ほとんどしない」は6.9ポイントの大幅な減少

図4 家庭学習時間の割合の推移



(5) 「どんなときに家庭学習をするか」

「ほぼ毎日学習する」生徒は増加

	ほぼ毎日	主に平日	主に休日	考査前	宿題・課題があるとき	宿題・課題や考査前	塾・予備校がある時や家庭教師がくるとき	気が向いたとき	ほとんどしない	その他
H22	20.5%	5.7%	8.4%	22.9%	7.9%	11.7%	1.3%	12.9%	7.6%	0.8%
H21	15.7%	5.1%	7.0%	15.5%	5.9%	25.8%	1.5%	13.3%	8.7%	1.5%
H20	15.8%	4.4%	6.6%	15.3%	5.5%	24.8%	1.5%	13.7%	10.4%	1.2%
H19	14.1%	4.5%	6.8%	7.2%	4.4%	36.0%	1.5%	13.3%	10.5%	1.0%
H18	13.0%	4.5%	6.0%	7.6%	5.1%	36.1%	1.6%	13.3%	10.8%	1.1%
H17	12.8%	4.3%	6.6%	8.1%	4.4%	34.8%	1.8%	13.7%	12.0%	1.0%

<分析> 「ほぼ毎日」学習しているは昨年度より4.8ポイント増加し、調査開始以来初めて20%を超えた。

(6) 「学校での宿題・課題、小テストの割合」

宿題・課題、小テストが家庭学習習慣に好影響

<学校からの宿題・課題の割合>

<学校での小テストの割合>

	ほとんど毎日	週に2～3回	週に1回ぐらい	ほとんど出ていない
H22	23.1%	36.9%	32.1%	7.7%
H21	17.4%	34.4%	33.9%	14.1%
H20	15.4%	33.5%	36.7%	13.6%
H19	14.9%	36.2%	31.1%	16.5%

	ほとんど毎日	週に2～3回	週に1回ぐらい	ほとんどない
H22	13.3%	35.9%	33.9%	16.7%
H21	11.9%	31.2%	31.5%	25.1%
H20	11.1%	31.1%	32.6%	24.3%

H20に新設した質問

<分析> 宿題・課題、小テストが増えている。このことが家庭学習習慣に好影響を与えていると考えられる。

(7) 「家庭学習をする上で悩んでいること」

「方法が分からない」、「集中できない」は減少

	方法が分からない	集中できない	計画が長続きしない	部活動との両立	成績が伸びない	その他	特になし
H22	14.5%	26.7%	15.2%	20.7%	6.3%	3.2%	13.2%
H21	14.8%	27.3%	15.1%	18.5%	6.7%	3.4%	14.1%
H20	14.4%	26.4%	14.5%	18.6%	6.6%	3.7%	14.8%
H19	13.7%	25.2%	14.5%	21.2%	5.9%	3.5%	15.0%
H18	14.2%	25.3%	14.2%	21.1%	5.6%	3.6%	14.1%
H17	15.3%	26.0%	13.9%	20.9%	5.2%	3.5%	14.2%

<分析> 学習上の悩みは「集中できない」が最も多く、「部活動との両立」が増加

(8) 「平日に家庭で最も時間をかけて行っていること」

家庭学習増加、テレビ・ビデオ、ゲーム・パソコンは減少

	家庭学習	テレビやビデオ	ゲームやパソコン	電話やメール	読書	自分の趣味	家族との対話	手伝い	その他
H22	9.8%	19.7%	12.4%	20.5%	3.9%	16.3%	4.5%	1.3%	11.4%
H21	6.4%	25.1%	14.0%	18.3%	3.6%	16.1%	4.3%	1.3%	10.7%
H20	6.3%	24.3%	12.1%	19.7%	3.5%	16.4%	3.9%	1.4%	11.1%
H19	5.5%	23.9%	10.7%	22.0%	3.9%	16.5%	3.7%	1.2%	10.7%
H18	5.5%	23.4%	4.3%	20.3%	3.8%	23.2%	3.7%	1.3%	11.8%
H17	5.6%	28.8%	4.5%	16.9%	3.8%	22.3%	3.5%	1.3%	11.4%

*「ゲームやパソコン」の項目は、H18までは「ゲーム」のみでの調査である。

<分析> 「家庭学習」は3.4ポイントの大幅増加。「電話やメール」(20.5%)が2.2ポイント増加し、昨年まで1位だった「テレビやビデオ」を抜いて初めて1位になった。携帯電話への依存が高まっている可能性がある。

(9) 「学校に行く前に朝食をとるか」

朝食をとる生徒は増加傾向

	必ずとる	たいていとる	とらないことが多い	全くとらない
H22	77.4%	13.4%	5.4%	3.7%
H21	77.2%	13.0%	5.1%	4.4%
H20	74.0%	14.5%	5.9%	4.9%
H19	71.6%	15.4%	6.2%	5.0%

<分析> 朝食を「必ずとる」生徒は0.2ポイント増加で、「全くとらない」生徒は0.7ポイント減少

4 2学年意識調査の結果と分析

1年次・前年の2年生との比較

(1)「現在最も強く希望している進路は」

進路希望が1年次より一層明確化

	大 学	短期大学	専門学校	就 職	その他	未 定
H22(2年)	50.3%	2.8%	15.8%	23.1%	1.4%	6.2%
1年次	45.3%	3.3%	16.2%	19.8%	1.8%	13.5%
前年2年	48.2%	3.2%	15.7%	23.9%	0.2%	7.2%

<分析> 前年2年生より未定者が減少し、大学進学希望者は2.1ポイント増加。1年次より未定者が半減
 図5 進路希望別の割合の推移

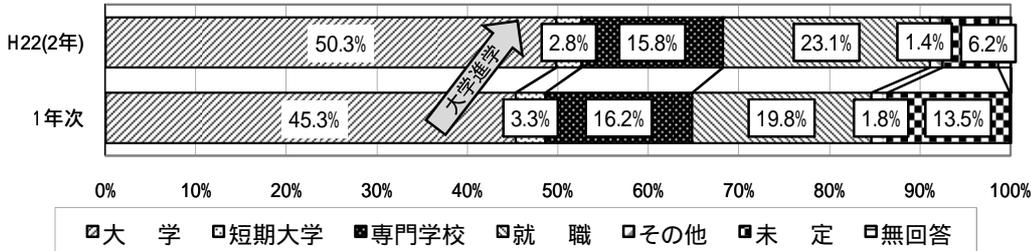


図6 - 1 進路希望別の国語・数学・英語の正答率(共通問題)

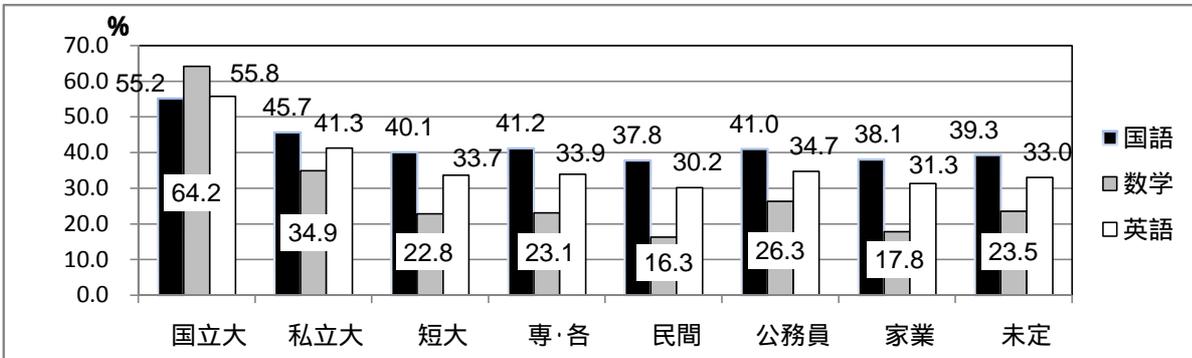


図6 - 2 進路希望別の国語・数学・英語の正答率(A問題)

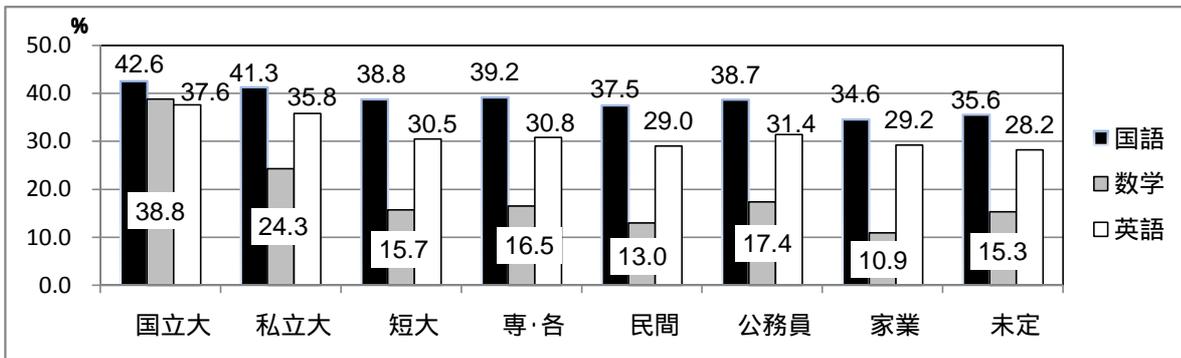
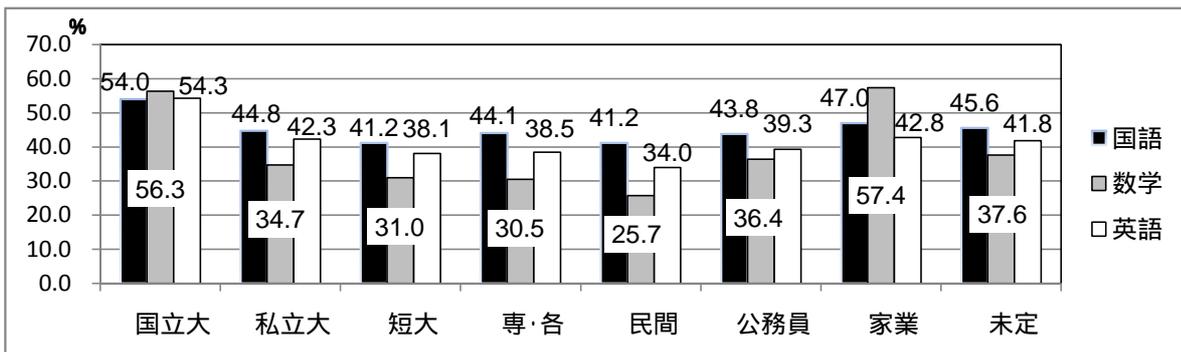


図6 - 3 進路希望別の国語・数学・英語の正答率(B問題)



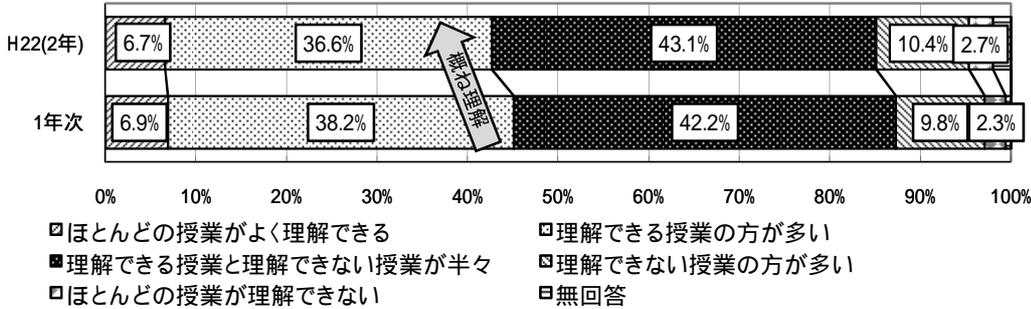
(2) 「授業がどのくらい理解できるか」

「授業が理解できる」が1年次よりも減少

	ほとんどの授業がよく理解できる	理解できる授業の方が多い	理解できる授業と理解できない授業が半々	理解できない授業の方が多い	ほとんどの授業が理解できない
H22(2年)	6.7%	36.6%	43.1%	10.4%	2.7%
1年次	6.9%	38.2%	42.2%	9.8%	2.3%
前年2年	7.3%	37.6%	41.4%	10.9%	2.4%

<分析> 「理解できる授業の方が多い」と回答した生徒が1年次より1.6ポイント減少。前年2年生よりも減少

図7 授業理解度の割合の推移



(3) 「平日の学習時間」

2～3時間集中した学習が効果的

平日（テスト期間や長期休業中などを除く通常の月曜日から金曜日）に、家庭学習（塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含む。）をどの程度しているか。

	5時間以上	4時間～	3時間～	2時間～	1時間～	30分～	30分より少ない	全く、またはほとんどしない
H22(2年)	0.3%	0.3%	2.0%	10.4%	23.3%	16.7%	12.3%	34.4%
1年次	0.3%	0.5%	2.3%	10.5%	25.4%	17.2%	12.4%	30.4%
前年2年	0.3%	0.5%	2.4%	10.3%	21.5%	15.0%	12.3%	37.6%

<分析> 「全く、またはほとんどしない」は前年2年生よりは3.2ポイント減少ながら1年次より4.0ポイント増加、「2時間以上」はほぼ固定化

図8 家庭学習時間の割合の推移（上図：前年2年生との比較，下図：1年次との比較）

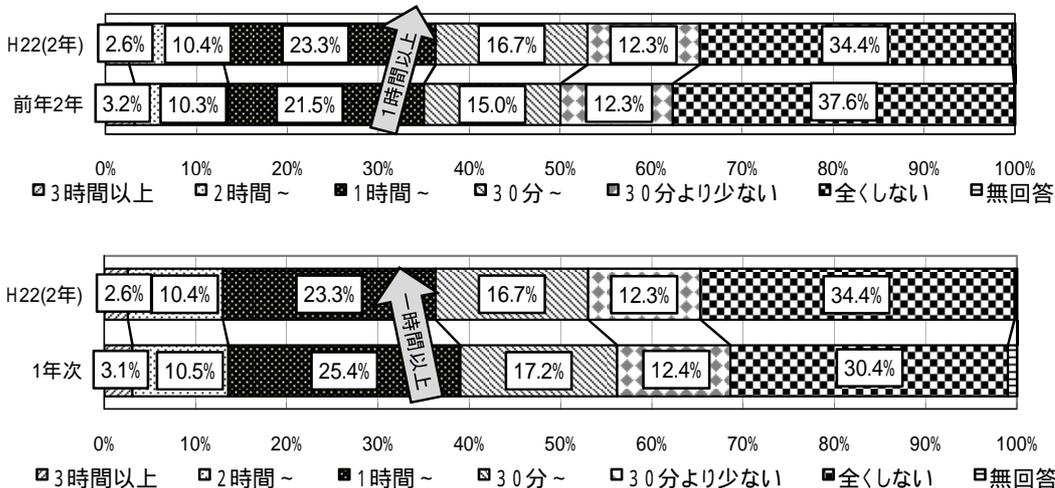
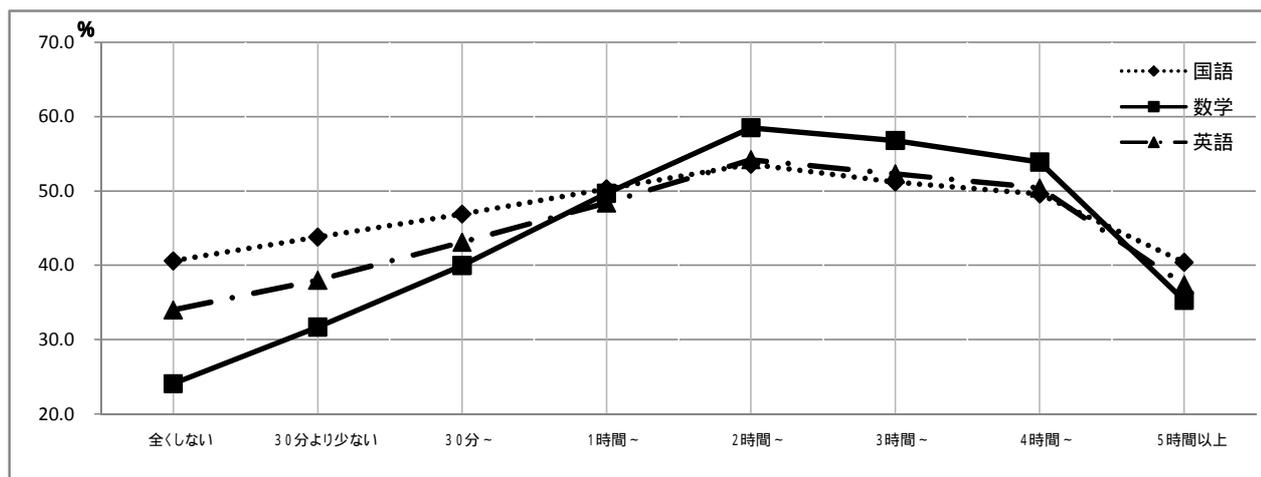


図9 家庭学習時間と各教科の共通問題正答率との関係



(4) 「どんなときに家庭学習をするか」

「ほぼ毎日学習する」生徒が1年次と比べ減少傾向

	ほぼ毎日	主に平日	主に休日	考査前	宿題・課題があるとき	宿題・課題や考査前	塾・予備校がある時や家庭教師がくるとき	気が向いたとき	ほとんどしない	その他
H22(2年)	15.4%	4.7%	6.6%	23.5%	5.7%	18.4%	1.3%	12.0%	11.1%	1.1%
1年次	15.7%	5.1%	7.0%	15.5%	5.9%	25.8%	1.5%	13.3%	8.7%	1.5%
前年2年	15.0%	4.4%	5.6%	19.2%	4.8%	24.9%	1.3%	11.4%	12.1%	1.4%

<分析> 「ほぼ毎日」学習しているは前年2年生より0.4ポイント増加したが、1年次より0.3ポイント減少

(5) 「学校での宿題・課題、小テストの割合」

1年次より宿題・課題が減少、小テストは増加傾向

<学校からの宿題・課題の割合>

<学校での小テストの割合>

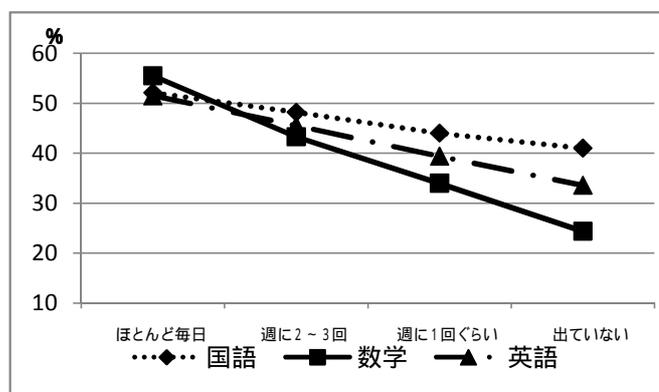
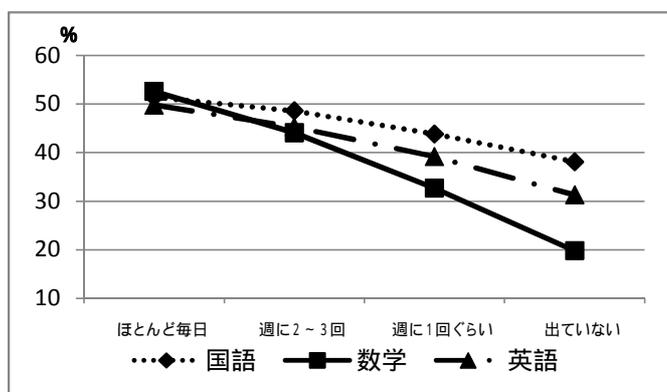
	ほとんど毎日	週に2～3回	週に1回くらい	ほとんど出ていない
H22(2年)	16.1%	33.1%	37.9%	12.6%
1年次	17.4%	34.4%	33.9%	14.1%
前年2年	11.9%	28.3%	39.1%	20.4%

	ほとんど毎日	週に2～3回	週に1回くらい	ほとんどない
H22(2年)	12.1%	36.6%	30.6%	20.2%
1年次	11.9%	31.2%	31.5%	25.1%
前年2年	12.1%	31.4%	28.3%	28.1%

<分析> 「ほとんど毎日」または「週に2～3回」宿題・課題が出されるのは、1年次より2.6ポイント減少。「ほとんど出ていない」「ほとんどない」が前年2年生より減少。宿題・課題、小テストの実施率が高いほど正答率が高い。

図10 宿題・課題の割合と共通問題の正答率との関係

図11 小テストの割合と共通問題の正答率との関係



(6) 「家庭学習をする上で悩んでいること」 **1年次に比べ「集中できない」が増加、「部活動との両立」「方法が分からない」は減少**

	方法が分からない	集中できない	計画が長続きしない	部活動との両立	成績が伸びない	その他	特になし
H22(2年)	14.6%	29.7%	15.1%	15.6%	6.4%	3.5%	14.8%
1年次	14.8%	27.3%	15.1%	18.5%	6.7%	3.4%	14.1%
前年2年	13.4%	29.5%	15.7%	14.8%	6.9%	3.7%	15.9%

<分析> 「集中できない」が1年次より2.4ポイント、前年2年生より0.2ポイント増加。
「部活動との両立」は1年次より2.9ポイント減少

(7) 「平日に家庭で最も時間をかけて行っていること」 **1年次に比べ「電話やメール」は減少、家庭学習は増加傾向**

	家庭学習	テレビやビデオ	ゲームやパソコン	電話やメール	読書	自分の趣味	家族との対話	手伝い	その他
H22(2年)	6.6%	23.2%	14.4%	17.8%	3.1%	17.2%	4.3%	1.3%	11.6%
1年次	6.4%	25.1%	14.0%	18.3%	3.6%	16.1%	4.3%	1.3%	10.7%
前年2年	6.1%	26.3%	15.0%	16.0%	3.2%	16.6%	3.9%	1.5%	11.1%

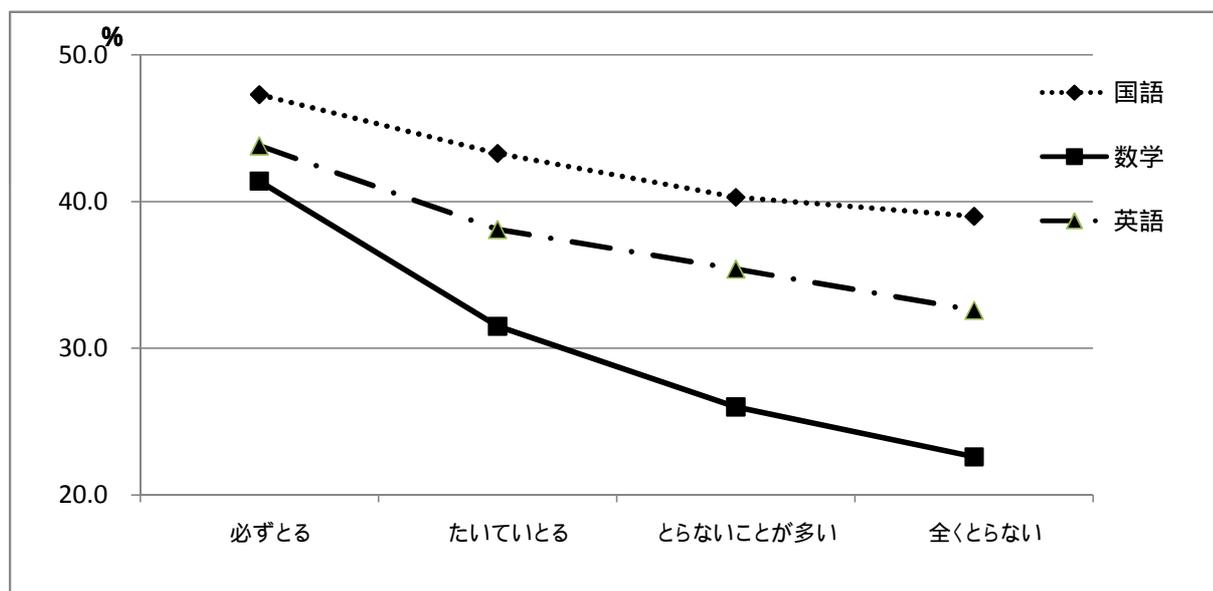
<分析> 「テレビやビデオ」、「電話やメール」は1年次より減少しているが、「電話やメール」については前年2年生より1.8ポイント増えている。家庭学習は増加傾向。

(8) 「学校に行く前に朝食をとるか」 **朝食をとる生徒は前年より増加、1年次からは減少**

	必ずとる	たいていとる	とらないことが多い	全くとらない
H22(2年)	74.3%	14.4%	5.5%	5.4%
1年次	77.2%	13.0%	5.1%	4.4%
前年2年	73.5%	14.3%	6.1%	5.9%

<分析> 朝食を「必ずとる」は前年2年生より増加しているが、1年次より2.9ポイント減少している。

図12 朝食習慣と共通問題の正答率



学力向上に向けた今後の取組

【各学校】

各学校では、新しい高等学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、必要に応じて義務教育段階及び高校1年生の学習内容の確実な定着を図る指導を2年次にも適宜取り入れるなどの工夫をした上で、授業の質の向上と家庭学習の充実に向けた取組を行い、「確かな学力」の育成を目指す。

授業改善の推進

「授業が理解できる」と回答した1学年生徒の割合が過去5年連続して増加しており、各学校とも授業改善に努めてきた結果が表れている。ただし、「授業が理解できる」と回答した2学年生徒の割合は1学年次より減少傾向にある。また、「理解できる授業と理解できない授業が半々」、「理解できない授業の方が多い」、「ほとんどの授業が理解できない」と回答した生徒は1・2学年とも約50%を超えており、分かる授業実現に向け、一層授業改善が望まれる。

家庭学習の記録簿や宿題・小テストを利用した学習時間の確保

「ほぼ毎日勉強する」と答える生徒が1年次で初めて20ポイントを超えた。ただし、1・2年とも勉強するのは「宿題・課題がある時や考査前」と答える生徒が多いことから、家庭学習の習慣付けのため、休日も含めた家庭学習の計画を立てることの指導や、適度な量と質の宿題を課すこと・授業においてより一層小テストを実施することなどを指導計画に取り入れる工夫をする。

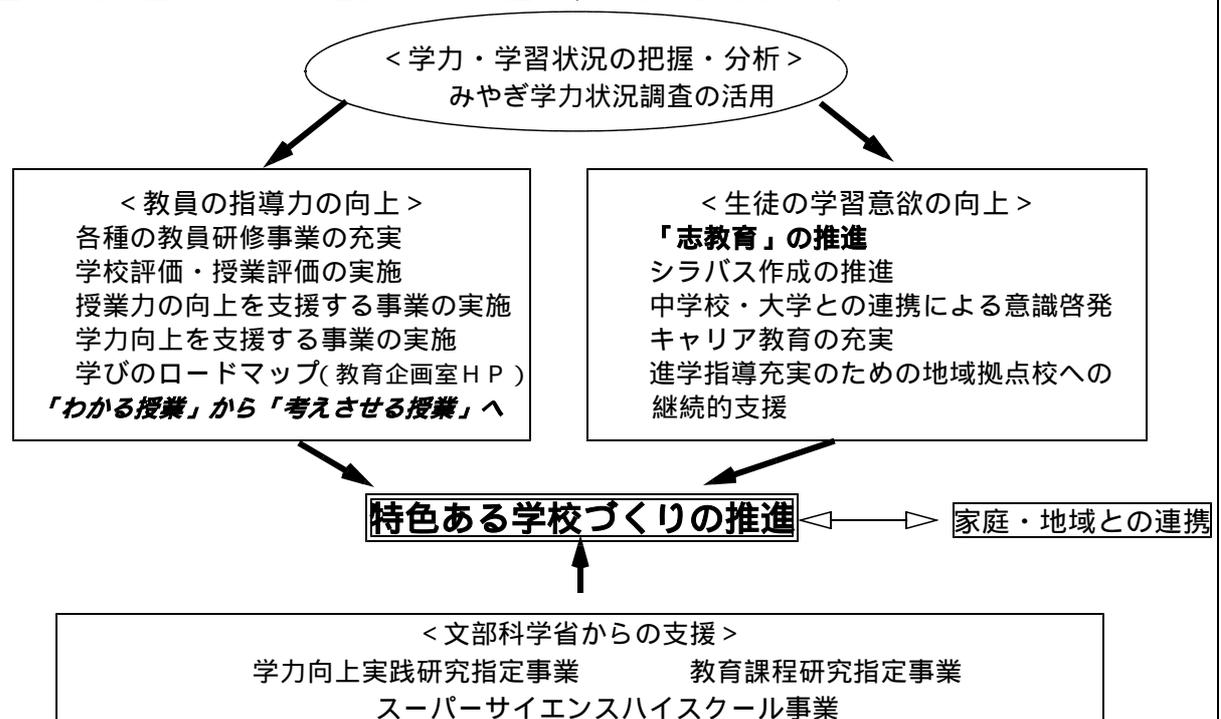
学校と家庭の連携

家庭学習上の悩みとして「家庭学習に集中できない」と答える生徒の割合が多いことから、家庭学習を推進する上で、より一層学校と家庭の連携が必要である。



【教育委員会】

宮城県教育委員会では、新高等学校学習指導要領の趣旨の周知に努めるとともに、高校生の学力向上に向けて各種事業に取り組み、各高校を支援する。



「国語」ペーパーテスト結果と考察

1 出題のねらいと内容

本調査は、生徒の国語の学力状況を調査・分析することにより、今県の今後の各学校における学習指導の改善を図ることを目的としている。

国語科の領域は「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」、「C読むこと」及び〔言語事項〕の3領域・1事項から構成されているが、本調査では、そのうちの「C読むこと」及び〔言語事項〕について、中学校までの学習内容を基礎に高校2年前半までの学習内容を、選択問題形式により問うものとなっている。

2 設問ごとのねらい、結果の分析と考察

□ 漢字・語句・文法

問1は「漢字」の読み書きに関する問題で、(1)～(3)は適切な漢字を、(4)、(5)は読みを選ぶもの。問2は「慣用句」、問3は「四字熟語」、問4は「敬語」についての理解を問うもの。問5は「品詞」の識別、問6は副詞の呼応について理解をみるもの。

問題番号	解答記号	正解	正答率	誤答率	記入ミ 無答率	選択肢ごとの誤答率(%)			
問1	(1)	ア	80.6	19.0	0.4	1.1		17.3	0.6
	(2)	イ	86.2	13.4	0.4	1.1	2.6	9.6	
	(3)	ウ	53.9	45.6	0.5	6.5	2.5		36.6
	(4)	エ	11.8	87.7	0.5		7.8	68.8	11.1
	(5)	オ	45.1	54.4	0.5	16.1	22.9	15.4	
問2		カ	47.0	52.4	0.6	23.6	14.6		14.2
問3		キ	23.5	75.9	0.6		15.6	37.1	23.1
問4		ク	46.3	53.1	0.6	14.5		12.2	26.4
問5		ケ	52.6	46.8	0.6	29.4	6.0	11.3	
問6		コ	76.8	22.7	0.5	4.8		5.1	12.8

【考察】

問1(1),(2)については概ね高い正答率といってよい。とくに(2)「運賃をセイ(精)算する」については、商業科の正答率が他学科の正答率を上回った。(3)「木に竹をツ(接)ぐ」の正答率は53.9%にとどまった。「木を」「骨を」と用例が少ないことも理由の一つであろう。「接ぎ木」などの表現が身近にあるせいか、この問題における農業科の正答率が相対的に高かった。(4)「ページを繰(く)る」の正答率は11.8%と極めて低く、68.8%が「めく(る)」を選んだ。文脈による推測と思われる。「繰り返す」という表現で「くる」という読みは知っているはずだが、「繰る」という語そのものになじみがないようだ。(5)「勝負に拘泥(こうでい)する」も45.1%と低かった。誤答率はどの選択肢も15%を超えており、この言葉そのものを知らない生徒が多いようである。

漢字に関する問題からは、漢字力だけでなく語彙力に問題があることがうかがわれる。昨年同様の傾向である。言葉に触れる機会の少なさ、言葉に対する関心の低さが影響していると言えそうだ。

問2の慣用句「胸襟を開く」では、誤答である「くよくよせずに」、「未来へ向かって」を合わせた誤答率が40%近くに上った。心に関する表現と類推できてはいるが、逆に言えば慣用表現としては触れたことがないということである。問3の四字熟語での正答率は23.5%と意外なほど低かった。「潔白」という一部から全体の意味が分かる「清廉潔白」は誤答

率が低く、逆に四字全体で意味をなすものは基本的なものでも理解、定着が遅れるようだ。問4の敬語表現は正答率が46.3%と、昨年の46.9%（一昨年から32.3%減少）と同程度にとどまった。「次のバス停でお降りの方はございませんか。」の誤答率が高く、尊敬語と丁寧語の違いを理解できていない。問5は紛らわしい語を識別する問題。正答率は52.6%と半数を超えた。厳密には品詞の理解（断定の助動詞の連用形）が必要な問題だが、「である」「でない」というつながりの形から判断した嫌いがあり、「ようである」（比況の助動詞）の誤答率が29.4%と高い。問6は副詞の呼応を問う問題で、正答率は76.8%と高かった。「たぶん 食べない。」の誤答率が12.8%と高いのは、昨今の日本語事情（「たぶん 断定」に違和感を感じない）と符合している。

□ 現代文 評論

問1、問2、問3は文脈を踏まえて内容を正しく理解できているか、問4は本文全体の内容を正しく捉えられているかをみる問題。

問題番号	解答記号	正解	正答率	誤答率	記入ミ 無答率	選択肢ごとの誤答率（%）			
□	問1	サ	52.0	47.4	0.6	17.1	13.0		17.3
	問2	シ	59.2	40.1	0.7	15.3		13.7	11.1
	問3	ス	46.0	53.2	0.8	10.4	20.4	22.4	
	問4	セ	38.8	60.3	0.9		19.7	28.1	12.5

【考察】

問1は、傍線部の理解から、特に短い範囲での読解力を問うもの。正答率は52.0%と半数を超えた。しかし誤答・無答と差はわずか4%である。傍線部A「偉大な果実」は表現追求の成果を表すもので、同段落中に「このような日本語表現の成果」とまとめられているが、誤答が各選択肢に分散している。丁寧に文脈を把握しようという意識、抽象的な表現と具体的な内容を関連づけようとする意識の不足を懸念させる。問2は、傍線部の理解から、特にやや長い範囲の読解力を問うもの。キーワードとなる「言語の罨」を問う。傍線部B「言語が私たちに仕掛けた罨」は、3つ後ろの段落で「。そのような言語の仕掛けた罨」とまとめられており、正答率は59.2%と大問の中で最も高い。誤答の生徒は、その手前のやや抽象的な内容につかまって混乱が先に立ったようで、段落をまたがる範囲での意味の対応や文脈の展開にも意識を向けさせたい。問3は、傍線部の理解から、特に論旨の把握力を問うもの。傍線部C「別種の言語の罨」で、もう1つの「罨」を問う。これは傍線部A、Bほど言い換えの箇所が明確でなく、正答率も46.0%にとどまった。「往々にして を当然だとみなす。」（2つ後ろの段落）、「は、案外見落とされがちである。」（最終段落）という表現が「罨」を示す言い方で、この2カ所は“普遍項の立て方”で結び付くのだが、この両者を関連付けすることは難しかったようだ。問4は、全体を通した本文の主旨の理解を問うもの。キーワードである「言語の罨」2つとも触れているのは のみで、これ以外に正解はないが、正答率は38.8%と低く、前回比-12.9%である。傍線部B、Cでそれぞれの「言語の罨」について問われたにもかかわらず、特に本文の後半だけをまとめた の誤答率が高いなど、全体を構成的に把握する意識と能力の不足が気になる。昨年、全体の理解が概ねできていたのとは対照的であり、文章が抽象的であればあるほど、読解力の向上が追い付いていない感がある。（昨年の調査対象は1年生で今回の対象と同一）

全体を通しては、まず、大局的な理解の不足が気にかかる。全体の理解は細部の理解が支えとなるわけだが、同時に“つまり何を言っているのか”を理解したいという読解への意欲こそがその端緒でもある。細部の印象や不明な箇所に気を取られすぎて全体像に近付けないのかもしれない。また、細部の意味や意味のつながりを把握しかねる要因として、抽象的、比喩的表現に対する力不足が考えられる。さまざまな言説を自分の身に即した実感として重ね合わせると工夫を考えたい。

三 現代文 小説

問1は人間関係が押さえられるか、問2, 3は登場人物の心情を正しく読み取れるかをみるもの。問4は本文全体の内容と表現の特徴を正しく捉えられているかをみる問題。

問題番号	解答記号	正解	正答率	誤答率	記入ミ 無答率	選択肢ごとの誤答率			
問1	ソ		61.0	38.1	0.9	10.3	14.7		13.0
問2	タ		59.2	39.9	0.9	6.8		15.5	17.6
問3	チ		51.0	48.0	1.0		17.4	24.2	6.5
問4	ツ		35.6	63.3	1.1	29.1	12.8	21.3	

【考察】

主人公の「僕」、名カメラマンの祖父、祖父に師事した娘婿の父、また祖父が期待していながら戦死した実の息子の真一。本文では、この四人の登場人物の人間関係が複雑であったことや、時間軸が入り組んでいたためか、昨年度正答率が70%を超えた小説分野の正答率が、今年度は51.7%とあまりふるわない結果となった。四人の人間関係は本文中に細やかに描写されていると言えるため、生徒の読解をどう導くかが課題となる。

問1は、正答率が61.0%で、娘婿である「父」の目に名カメラマンの「祖父」がどう映っていたかをよく読み取っていたことを示している。ただ、誤答については各選択肢に均等に分散しており、読みにおける迷いが表れているとも言える。問2は、正答率59.2%、問3は51.0%とやや落ちる。問2は、祖父の独白部分、特に「真一が死んじまう。真一が死んじまう(略)」という下りから、祖父の動揺にたどり着ける。問3は、問2を足がかりに、傍線部直前の「父のペンタックスには、ほんのりと薄い色の『嫉妬』というフィルターがかかっていたかもしれない」という表現に着目し、選択肢の「一抹の寂しさと妬ましさ」という抽象化された説明にたどり着いてほしい設問であった。問2, 3は、場面全体から人間関係を整理し、祖父と父という対比をもって各々の心理に迫りたい設問である。また、そこに迫るだけの語彙力も必要であろう。問4は、もっとも誤答率が高く、選択肢を選んだ生徒が29.1%、を選んだ生徒も21.3%いたが、いずれも本文に記載のない「和解の過程」や「心の交流を図った」など誤りが含まれている選択肢であった。

全体的には、小説を自分なりに楽しみ読み進める態度が見られたと言える。しかしながら、小説を読む際、ことに本作品のように現在と過去、真一と「父」、「僕」がオーバーラップするような小説は、読み手の経験則や既知の事柄のみに頼ることなく、登場人物のセリフや事件の因果関係を整理しながら読み進めることが重要であろう。その上で、人物の「心情」や「感情」があぶり出された「原因」と「結果」を抽象的な概念にまとめ上げる力(問2, 3, 4)が求められていると言える。

四 古文

問1は暦法の知識、問2は基本的な古語の知識、問3は敬語と、古文の基礎的な知識を問う問題。問4, 問5は文脈を正確に捉えているか、問6は本文全体の内容を正しく把握しているかをみる問題。

問題番号	解答記号	正解	正答率	誤答率	記入ミ 無答率	選択肢ごとの誤答率(%)			
四	問1	テ	24.2	74.6	1.2	33.1	24.0		17.4
	問2	ト	29.0	69.6	1.4	20.7	31.0	17.8	
	問3	ナ	34.3	64.1	1.6		25.5	22.1	16.5
	問4	ニ	31.9	66.2	1.9	18.1		16.5	31.5
	問5	又	28.7	69.0	2.3	16.7	20.8		31.4
	問6	ネ	23.1	74.2	2.7		30.3	29.2	14.7

【考察】

正答率は全体的に低い。各設問での解答率が分散していることから、生徒にとって問題の難度が高かったようである。登場人物の人物関係が捉えにくく、展開の把握が困難であったようである。

全体としては、基本的な古語や文法事項の知識はあり、全体の概略は把握しているが、知識の運用と細部を正確に読み取る力は今後の課題である。

問1の暦法の知識は古典常識であり、知識の有無のみによって正答率に明確な差が出る。古典常識が読解の補助となり、文章の読解上、重要な情報になる場合もあり、軽視できない。古典常識は古文の授業以外にも、触れることが可能なものである。問2は、の解答率が最も高く、次いで正解のの解答率が高い。がそれに続く。「あはれ」「ゆゆし」の意味自体に該当する選択肢を選んでおり、単語の知識はあるものの、文脈が捉えられておらず、細部の読み取りができていないため、その中で最も適切なものを選ぶことができていない。こうしたことから、解答が分散したと思われる。問3は、基本的な敬語の用法であるが、正解であるの解答率が最も高く、次いでの解答率が高い。直前の会話文を手がかりに敬意の対象が絞り込まれており、またがそれに続くことから、敬語の種類が「尊敬」であることの判断はできている。より正確な運用を身に付けさせたい。問4は、とに解答率が分散した。文章全体から「装いを凝らす」「大事」が行われることは読み取れるものの、その「大事」の内容が読み取れていないため、選択肢を絞り切れていない。問5は、を選んだ場合、「『参りて見て来』と仰せ候へ、…」からの判断、は直前の「ゆゆしかりつる」「をかしかりつれ」からの判断と思われる。3行目の「おのおの錦、唐綾を着て」直前の「錦」「縫物、金の文」を見落としている。文脈から「ゆゆし」を「みごと、すばらしい」、「をかし」を「趣がある、美しい(見もの)」と読み取れば、を選ぶことができる。問6は、解答率が分散し、正答のよりも、の解答率が高い。問5でを選択した場合、問6でを選択したくなり、また、問5でを選択すると、またはを選択するかと思われる。選択肢に頼って解答しようとする、読み誤って一問の解答を誤った場合、後に続く設問でも誤ってしまう。

全体の解答率もからに分散することから、「凝った装いをする大事が行われている」中で、「誰が、何を、なぜ、どうしたのか」が読み取れておらず、選択肢の表現に惑わされている。

㊦ 漢文（選択B問題）

問1は語句の読み、問2は文脈を正確に捉えているか、問3は訓読の基本的な知識を問うもの。問4と問5は文脈の把握、問6は本文全体の内容を正しく読み取れているかをみるもの。

問題番号	解答記号	正解	正答率	誤答率	記入ミ 無答率	選択肢ごとの誤答率(%)					
㊦	問1	(1)	ノ		66.9	28.4	4.7	9.4		9.6	12.6
		(2)	ハ		48.2	46.8	5.0	18.1	14.4	17.5	
	問2		ヒ		44.4	50.0	5.6	12.6	27.1		13.6
	問3		フ		36.1	58.4	5.5		28.8	22.3	10.6
	問4		ヘ		25.5	67.9	6.6		26.0	26.5	18.5
	問5		ホ		26.3	67.2	6.5	15.4	27.0		28.1
	問6		マ		38.0	55.1	6.9	17.3		19.4	21.8

【考察】

今年度初めて選択問題として漢文を加えた。本問は高校二年生のこの時期には長文であり、設問もやや難しめであった。漢文は各学校によって扱い方に差があると見られ、問1(1)を除いてすべて正答率が50%を切るという結果となった。

問1(1)「所以」の読みは最も正答率が高く、既習事項として定着しつつあると思われる。(2)「爾」は約半数が読めていない。解答が他の誤った選択肢にほぼ均等にわかれていることから、覚え違いというよりもむしろ知識不足であると考えられる。問2は、靈公の「何以知之」に対する夫人の言(本文約4行分)の内容を正確に読み取ることが必要であるが、正答率は44.4%。27.1%が誤答で「車」を選択しており、文中の「声」を車の音(車声)ではなく人声ととらえたことが原因と思われる。問3は、訓読を問うもの。「闇味の礼」と誤読したもので、「以」の誤った用法を選択してしまったものが多く、基本的な文型の理解がなされていない。問4と問5は、文脈を捉える読解問題であるが、その正答率はともに25%前後であった。問4は、夫人が靈公を祝った理由が読み取れていない。問2と同様に、夫人の言の直前にある靈公の問いがヒントとなるが、誤答の状況を見ると、本文後半部についてほとんど内容は理解されていないと思われる。問5は指示語を明らかにする問題。Dの「子」を子供の意味と解した誤答が合わせて42.4%。問6は、本文全体について合致しているものを選択するもの。問4、問5と内容読解の部分が正確に読めていなかったことから、文章全体が把握されていないことは明らかである。問6の正答率は38.0%。

全体を通して言えることは、漢文における基本的な語句の読みや意味、文型の理解が不十分であるということである。高校一年生で学習した基礎的な事項をきちんと定着させることが必要である。

3 分析のまとめと指導上の改善

<分析のまとめと課題>
(1)言語事項について

平易な漢字はできている。身近な語ほど正答率が高い。基本的な呼応表現もよくできている。

単語そのものの使用頻度が低いものは、漢字の読み書きも不十分である。慣用句、四字熟語にも触れる機会が不足している。

敬語表現は、正しい用法について理解が不足しており、世間の誤用に流されている面もある。

課題1：社会人として必要な言語能力の基礎となる知識が十分でなく、その習得機会の確保が急務である。



<指導改善のポイント>

基礎・基本的な言語知識を定着させるために、言語事項を扱う時間、機会を意識的に確保する。身近な場면을基点としながらも、言語事項の理解が社会への理解、適応力に結びつくよう、指導のステップや内容を工夫する。

漢字については、生徒の日常生活では使う機会が少なくても、社会生活においては使用頻度が高いというものを特に重点的に取り上げていく。少しでも身近なものや場面に関連づけ、適切な文例、用例とともに示したり、音・訓を結びつけたりするなどして、言葉に対する興味関心を促したい。漢字への理解と言葉への理解が、社会への理解へとつながっていくことを意識させたい。

慣用句、四字熟語については、それに触れさせる時間の確保が不可欠である。それらの指導に特化した時間を設ける、あるいは日々の活動の中でタイムリーに紹介するなど、指導機会の設定を考えたい。

敬語は、ケース・スタディと誤用の指摘、その裏付けとなる体系的な理解をバランスよく進めていくのが

(2) 現代文 (評論) について

論理的な文章では、文章中にある同様の表現をもとに、内容の理解を深めることができる。

論理的な文章では、抽象的な表現を理解し、全体を構成的にとらえる力が不足している。

(3) 現代文 (小説) について

複数の人物が登場する文学的な文章について、人物関係を整理しながら、物語の展開を読み取ることができる。

文学的な文章について、登場人物の描写から心情を表す語句を抜き出し、的確な言葉でまとめ上げる力が弱い。

課題 2 : 部分的理解から全体的理解に発展しようとする動機付け、細やかな表現の丁寧な読み取りとそれを抽象概念に置き換えて表現する力を身に付けさせる指導の一層の工夫が必要である。

よい。生徒の実生活、進路等を把握し、指導のアプローチを工夫したい。

論理的な文章では、対比的な内容をとらえ、例示から導かれる主題を把握する力がつくよう、目を向けさせるための指導の手順を工夫する。

細部の理解が大意の把握へ、大意の把握が細部の理解へと、読解は双方向の思索により深まる。読解に向けた意欲的、能動的な姿勢を促すとともに、小さな理解が大きな理解へつながるという実際体験を提供するよう意識したい。

対比、並列、例示、言い換えなどの内容をまとめ、図式化して文章を把握させるアプローチは有効であろう。その際、ヒントとなりうる表現(「一方」、「ことでもある。」等)を指摘し、細かな表現がもつ働きにも目を向けさせたい。

抽象表現の理解には、抽象と具体の重ね合わせに多く触れることが不可欠である。用例を通じて抽象語のイメージやニュアンスに触れさせるなどの他、具体的な内容を抽象・一般化させて作文させるといった逆のアプローチなども検討したい。

文学的な文章では、登場人物の人間関係や時間軸を的確に把握し、細やかな心理描写を抽象的に捉えまとめ上げるための発問や指導法を工夫する。

文学的な文章では、行動の描写やセリフを足がかりに「心情」「感情」を表す言葉・表現に着目することが重要である。その上で、抽象概念に置き換える工夫を重ねれば、語彙も増え、深い読解力につながる。

生徒の実態に応じて、読書などの言語活動を、ブックレビューや感想文などの文章表現としてまとめることも、人間関係と時間軸を整理するのに役立つ。

(4) 古文について

基本的な古語や文法の知識は身につけてきている。

文章の概略を把握することができる。

古文を読むことに不慣れで、基本事項を活用して文章を正確に読み取ることができない。

(5) 漢文について

基礎的な語句について、高校一年での既習事項の定着が見られる。

文章の展開に即して内容を理解する力が不足している。

主語や動作主を特定する意識が低く、話の筋を楽しむ力が身に付いていない。

課題3：古典に親しませ、自分の力で読み解いていく楽しさに気付かせるような指導の工夫が求められる。

古典作品に触れる機会を増やし、古文・漢文に親しませる学習活動や教材を工夫する。基礎的・基本的知識が内容理解に大きく関わることに気付かせる教材や指導の工夫を図る。

現代でも使用されている語や古典特有の表現を足がかりにしたり、古典常識や身近に生きる古典事項に触れさせたりする活動を意識的に行う。

古文に表れる内容を、身近な場面に置き換えさせ、具体的にイメージさせる。その際、文章や絵での表現活動を取り入れたりする。

古典常識や基本的な古語・文法等の暗記のみにならないよう、その知識を活用して読解・鑑賞させたり、現代語訳や具体的な身近な場面との対応に気づかせたりして、読解のおもしろさを感じさせる。

知識の暗記に偏ることなく、文章の内容を捉え、話の筋を楽しむために、適宜書き下し文や現代語訳の利用を図る。

音読や暗誦によって漢文のリズムを感じながら、文章の雰囲気や話の展開を味わわせる。

内容の理解を深めるために、物語の登場人物の視点から作品を書き換えるなど、教材に応じて発展的に書く活動を取り入れる。

生徒に優れた言語感覚と総合的な国語力を身に付けさせるために、3領域1事項を有機的に関連付けながら、生徒がバランスよく主体的に学習するように工夫する。

学 科 群 別 正 答 率 一 覧

問題番号	記号	正答	全体正答率	国語A				国語B				
				全体	普通科	職業系 専門学科	その他 の学科	全体	普通科	職業系 専門学科	その他 の学科	
全体平均正答率			45.7	38.5	39.9	37.1	38.4	50.4	50.2	43.1	54.8	
第1問 漢字・ 語句・ 文法	問1	ア	2	80.6	77.4	78.0	76.3	78.3	83.9	83.8	87.2	85.5
		イ	4	86.2	84.4	85.3	83.1	86.4	88.1	88.1	94.9	86.8
		ウ	3	53.9	47.0	48.8	44.0	52.7	61.1	60.8	69.2	64.2
		エ	1	11.8	7.3	8.3	7.0	3.8	16.5	16.5	38.5	14.8
		オ	4	45.1	34.2	38.8	29.5	33.3	56.3	56.2	53.8	59.3
	問2	カ	3	47.0	37.8	40.7	35.1	36.7	56.6	56.3	56.4	61.7
	問3	キ	1	23.5	21.4	21.4	22.8	17.1	25.8	25.5	15.4	30.8
	問4	ク	2	46.3	37.0	39.4	34.8	35.3	55.9	55.7	48.7	60.1
	問5	ケ	4	52.6	42.0	42.3	41.2	44.9	63.6	63.3	48.7	68.9
問6	コ	2	76.8	70.0	72.5	66.8	72.0	83.8	83.9	79.5	83.4	
第2問 現代文 評論	問1	サ	3	52.0	42.2	44.3	40.9	39.8	62.1	61.9	48.7	67.1
	問2	シ	2	59.2	45.8	46.9	44.6	45.5	73.2	72.9	69.2	78.2
	問3	ス	4	46.0	34.9	36.4	33.5	33.7	57.4	57.1	35.9	65.8
	問4	セ	1	38.8	33.9	35.5	32.4	34.0	43.8	43.3	51.3	51.0
第3問 現代文 評論	問1	ソ	3	61.0	53.2	55.9	50.3	54.4	69.1	68.8	66.7	74.4
	問2	タ	2	59.2	48.1	50.5	46.5	46.5	70.7	70.4	48.7	77.2
	問3	チ	1	51.0	41.1	42.9	40.1	38.8	61.2	60.9	61.5	66.6
	問4	ツ	4	35.6	29.7	31.4	28.4	28.3	41.7	41.2	38.5	49.0
第4問 古文	問1	テ	3	24.2	15.8	17.7	14.0	15.0	32.9	33.0	15.4	33.2
	問2	ト	4	29.0	22.3	22.2	22.3	23.2	36.0	35.6	12.8	44.8
	問3	ナ	1	34.3	23.4	24.2	22.1	25.1	45.6	45.1	35.9	54.4
	問4	ニ	2	31.9	26.3	25.7	26.4	27.6	37.8	37.4	35.9	43.8
	問5	ヌ	3	28.7	27.0	26.2	27.8	27.3	30.4	30.4	25.6	31.3
	問6	ネ	1	23.1	21.7	21.8	21.4	21.8	24.4	24.2	25.6	28.5
第5問 漢文(選 択型B)	問1	ノ	2						66.9	67.4	15.4	63.7
		ハ	4						48.2	47.9	12.8	57.0
	問2	ヒ	3						44.4	43.8	33.3	56.2
	問3	フ	1						36.1	35.8	25.6	41.5
	問4	ヘ	1						25.5	25.2	33.3	28.5
	問5	ホ	3						26.3	26.3	25.6	27.5
	問6	マ	2						38.0	37.7	25.6	44.3

「数学」ペーパーテスト結果と考察

1 出題のねらいと内容

数学 で学習する「方程式と不等式」、「二次関数」、「図形と計量」について、共通問題では、基礎的・基本的事項の理解をみることを中心とし、学校選択型問題では、複数項目を組み合わせた問題や数学的な読解力をみる問題も出題した。作成にあたり、学習指導要領「数学」の目標とねらいの達成状況が把握できるように、目標とねらいを分析し、参考とした。

共通問題の1～4は、「方程式と不等式」についての問題、5～7は、「二次関数」についての問題、8～10は、「図形と計量」についての問題、学校選択型A用問題の11、18は、「方程式と不等式」についての問題、12～15は、「二次関数」についての問題、16、17は、「図形と計量」についての問題、学校選択型B用問題の11は、「方程式と不等式」についての問題、12～15は、「二次関数」についての問題、16～18は、「図形と計量」についての問題であるが、各問の内容とねらいは、それぞれ次のとおりである。

< 共通問題 >

設問	内容 と ね ら い
1	指数法則の理解度と計算力をみる問題である。
2	無理数についての計算力と分母の有理化ができるかをみる問題である。
3	絶対値の記号の意味と無理数と整数の大小関係が理解しているかをみる問題である。
4	因数分解を利用して二次方程式を解くことができるかをみる問題である。
5	二次関数を標準形に変形する計算力と、その結果からグラフの頂点の座標が読み取れるかをみる問題である。
6	定義域の意味を理解し、二次関数の最大値及び最小値を求めることができるかをみる問題である。
7	二次不等式を解くことができるかをみる問題である。
8	三平方の定理を用いて直角三角形の辺の長さを求め、三角比の定義から三角比の値を求められるかをみる問題である。
9	正弦定理を用いて三角形の辺の長さを求めることができるかをみる問題である。
10	余弦定理を用いて三角形の辺の長さを求めることができるかをみる問題である。

< 学校選択型A用問題 >

設問	内容 と ね ら い
11	二つの文字を含む整式の因数分解を正確に処理できるかをみる問題である。
12	二次関数のグラフとx軸との位置関係から、二次関数の係数に関する条件を考察する力をみる問題である。
13	グラフから通る点を読み取り、二次関数を求める問題である。
14	二次関数の平行移動についての理解をみる問題である。
15	問題文から三角形の面積を二次関数を用いて表し、面積が最大となることを求めることができるかをみる問題である。
16	三角比の相互関係を用いて残りの三角比の値を求めることができるかをみる問題である。
17	三辺の長さが与えられた三角形の面積を求めることができるかをみる問題である。
18	問題文の内容を理解し、不等式を用いて立式する力をみる問題である。

< 学校選択型B用問題 >

設問	内容 と ね ら い
1 1	因数分解を利用して、与えられた二次方程式を満たす点の集合を求める問題である。
1 2	二次関数のグラフと x 軸との位置関係から、二次関数の係数に関する条件を考察する力をみる問題である。
1 3	グラフから通る点を読み取り、二次関数を求める問題である。
1 4	二次関数の平行移動と対称移動についての理解をみる問題である。
1 5	二次関数のグラフが x 軸を切り取る長さの最小値を求めることができるかをみる問題である。
1 6	立体の展開図を用いて、二つの線分の長さの和の最小値を求めることができるかをみる問題である。
1 7	三角形の面積を用いて角の二等分線の長さが求められるかをみる問題である。
1 8	正四面体に内接する球の半径と外接する球の半径との比から、2つの球の体積比を求めることができるかをみる問題である。

2 結果と考察

【共通問題】

$$1 \quad (-ab^2)^3 \times (-3)^2 = \boxed{\text{ア}} a^{\boxed{\text{イ}}} b^{\boxed{\text{ウ}}}$$

ア:	- 3	3	- 6	6	- 9	9	- 12	12
イ:	1	2	3	4	5	6	7	8
ウ:	1	2	3	4	5	6	7	8

指数法則の理解度と計算力をみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
1	ア		50.1	48.7	1.2	$9a^3b^6$ (9.4%), $-9a^3b^8$ (5.8%), $-9a^3b^5$ (4.5%) など
	イ					
	ウ					

【考察】1年次に出题した問題 $a \times (-2a^2)^3$ の正答率は 50.3% で、今回もほぼ同程度の正答率であった。誤答例をみると、 $9a^3b^6$ のように係数部分の符号を誤った生徒が多かった。また、 $-9a^3b^8$ や $-9a^3b^5$ のように $(b^2)^3$ の指数の計算を $2 \times 3 = 6$ とせず、 $2^3 = 8$ や $2 + 3 = 5$ と計算した生徒も多い。指数法則の意味を理解させるとともに指数の計算においても丁寧な指導が必要である。

2 $\frac{\sqrt{6}-\sqrt{2}}{\sqrt{6}+\sqrt{2}}$ の分母を有理化すると である。

エ: $\frac{1}{2}$ $1-\sqrt{3}$ $2-4\sqrt{3}$ $2-\sqrt{3}$
 $2-2\sqrt{3}$ $8-\sqrt{3}$ $\frac{\sqrt{2}}{2}$ $\frac{2-\sqrt{3}}{2}$

無理数についての計算力と分母の有理化ができるかをみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
2	エ		47.5	51.5	1.0	(14.6%), (7.8%), (7.8%) など

【考察】最も多かった誤答については、有理化するとき分母・分子に分母と同じ $\sqrt{6}+\sqrt{2}$ をかけて、さらに $(\sqrt{6}+\sqrt{2})^2=6+2$ と安易に計算してしまったものと考えられる。有理化や平方根の計算について正しい理解が得られていないために、 $\frac{1}{2}$ や $2-\sqrt{3}$ のような誤答も多く、根号を含む式の計算を含め、有理化や約分の計算の仕方について同じ問題の計算過程を複数の生徒に板書させ、誤りがある場合は、誤った理由も一緒に考えさせる指導が必要である。

3 $|\sqrt{6}-3|$ の値は である。

オ: 3 -3 $\sqrt{3}$ $-\sqrt{3}$
 $3-\sqrt{6}$ $-3+\sqrt{6}$ $3+\sqrt{6}$ $15-6\sqrt{6}$

絶対値の記号の意味と無理数と整数の大小関係が理解しているかをみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
3	オ		42.2	56.7	1.1	(19.9%), (15.7%), (5%), (5%) など

【考察】誤答例については1年次と同様な傾向がみられた。「プラスはプラスに、マイナスはプラスに」という安易な覚え方のために一つ一つの項にそのような考えを適用させた $3-\sqrt{6}$ の誤答が最も多かった。また、 $\sqrt{6}$ と 3 の大小関係がわからずに、絶対値の記号をそのままはずした生徒も目立った。平方根の意味を考えず、 $\sqrt{6}-3=3$ などと安易に計算してしまう生徒がいることにも注意したい。数の表記や無理数と整数の大小関係を丁寧に確認し、粘り強く指導していく必要がある。

4 2次方程式 $15x^2+4x-4=0$ の解は である。

カ: $x=-\frac{6}{5}, \frac{14}{15}$ $x=-\frac{4}{5}, \frac{1}{3}$ $x=-\frac{4}{5}, \frac{14}{15}$
 $x=-\frac{2}{3}, \frac{2}{5}$ $x=-\frac{2}{5}, \frac{2}{3}$ $x=-\frac{1}{3}, \frac{4}{5}$

因数分解を利用して二次方程式を解くことができるかをみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
4	力		58.2	39.9	1.9	(13.7%), (8.0%), (7.7%) など

【考察】1年次に出題した2次方程式の問題では、符号を逆にした誤答が12.8%であったが、今回は13.7%に増加した。因数分解の段階で定数の符号を誤ったり、解を答えるときに因数の中の定数の数字をそのまま解として読み取ってしまった誤答が多いことから、たすきがけの計算を正確にできるようにして、数の性質「 $AB=0$ ならば $A=0$ または $B=0$ 」の意味を再確認させるなどの丁寧な指導を行うことによって、解き方を確実に定着させる必要がある。

5 2次関数 $y = x^2 - 3x + 3$ のグラフの頂点の座標は $\left(\begin{array}{|c|} \hline \text{キ} \\ \hline \text{ク} \\ \hline \end{array}, \begin{array}{|c|} \hline \text{ケ} \\ \hline \text{コ} \\ \hline \end{array} \right)$ である。

二次関数を標準形に変形する計算力と、その結果からグラフの頂点の座標が読み取れるかをみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
5	キ	3	35.8	53.9	10.3	$\left(\frac{3}{3}, \frac{3}{3} \right)$ (2.3%), $\left(\frac{1}{3}, \frac{1}{3} \right)$ (1.7%)
	ク	2				
	ケ	3				
	コ	4				

【考察】1年次は $y = 2x^2 - 8x - 1$ の問題で正答率は64.7%であったが、今回は頂点の座標が分数で表される場合の完全平方式を問われたため正答率は35.8%で、無答率も10.3%と高く、生徒にとって抵抗感が強かったと考えられる。誤答例には式の係数をそのまま読み取ったと思われるものが多く、また y 座標を $\frac{3}{2}$ にしているのが1.4%いることを含めて考えると、2年次においても平方完成を用いて標準形へ変形することを再度指導し、定着させる必要がある。

6 2次関数 $y = -2x^2 + 4x + 7$ ($-1 \leq x \leq 2$) の最大値は $\boxed{\text{サ}}$, 最小値は $\boxed{\text{シ}}$ である。

定義域の意味を理解し、二次関数の最大値及び最小値を求めることができるかをみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
6	サ	9	26.8	69.5	3.7	7 (31.7%), 2 (9.9%), 1 (7.9%)
	シ	1	55.2	40.8	4.0	2 (10.6%), 7 (8.2%), 4 (3.9%)

【考察】最小値の正答率と比べると、最大値の正答率が非常に低い。この理由としては、定義域の両端の値に対する y の値を最大値・最小値としていて、定義域内の2次関数のグラフの概形や頂点の座標が

活用できていないことによるものと考えられる。最大値で最も多かった誤答の7の割合が、正答率を約5ポイントも上回る残念な結果であった。関数の最大値・最小値を求めるときは、定義域内でグラフをかいてから考えさせる徹底した指導が必要である。

7 2次不等式 $(x+1)^2 > 2x^2 + 7x + 7$ の解は ス である。

ス: $x < -3, -2 < x$ $-3 < x < -2$ $-3 < x$ $-2 < x < -3$
 $-2 < x$ $2 < x < 3$ $x < 2, 3 < x$

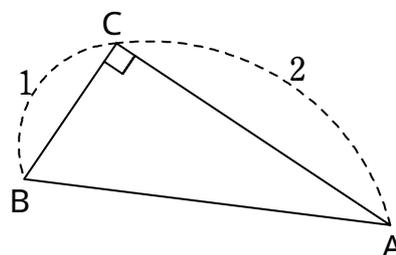
二次不等式を解くことができるかをみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
7	ス		40.1	57.0	2.9	(14.7%), (12.3%), (12.2%) など

【考察】式変形をした上で、2次不等式の解き方をみる問題である。式変形が確実にできれば因数分解を用いて解ける易しい問題であり、正答率も比較的高かった。しかし、や の誤答も多いことから、負の数の大小関係や因数分解を用いた2次方程式の解法が理解できていない様子が窺える。2次不等式を解くためには2次方程式を確実に解くことや、2次関数のグラフとx軸との位置関係を読み取る力も必要であるが、それよりも基本的に、数の大小関係についての理解が乏しいのではないかと感じさせる誤答が依然として多い。2次不等式の指導の際は、2次方程式や2次関数の基礎事項及び数の大小関係も必ずフィードバックして指導することが重要であると思われる。

8 右の図のような $BC = 1$, $CA = 2$, $\angle C = 90^\circ$ の直角三角形ABCにおいて、

$$\sin A = \frac{\sqrt{\text{セ}}}{\text{ソ}}, \cos A = \frac{\text{タ} \sqrt{\text{チ}}}{\text{ツ}}$$



である。

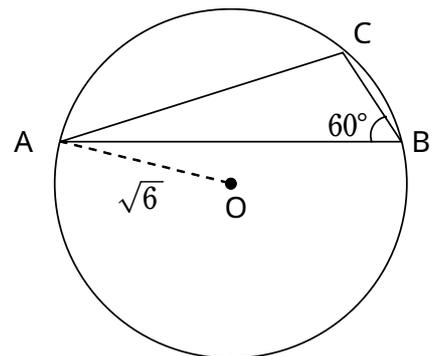
三平方の定理を用いて直角三角形の辺の長さを求め、三角比の定義から三角比の値を求められるかをみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
8	セ	5	25.3	70.0	4.7	$\frac{\sqrt{3}}{2}$ (18.1%), $\frac{\sqrt{5}}{2}$ (9.7%), $\frac{\sqrt{1}}{2}$ (9.7%) など
	ソ	5				
	タ	2	28.0	63.3	8.7	$\frac{2\sqrt{3}}{3}$ (8.0%), $\frac{2\sqrt{3}}{2}$ (5.2%), $\frac{1\sqrt{3}}{2}$ (3.8%) など
	チ	5				
	ツ	5				

【考察】三角比の値を求める基本的な問題であるが、正答率は低かった。辺ABの長さを三平方の定理を用いて求めてから、定義に基づいて三角比の値を求めなければならないが、他の辺の長さが1と2

であったためか $A = 30^\circ$ の直角三角形であると誤解し、分母を 2 又は 3 とする誤答が多かった。 30° 、 45° 、 60° のような代表的な角に対する三角比の値は覚えているようだが、図の向きが変わると定義に基づいて求めることができない生徒が多いようである。また、 $\frac{\sqrt{1}}{2}$ や $\frac{1\sqrt{3}}{2}$ のような誤答は平方根の意味や分数の表し方のルールからは考えられない誤答であり、このような答え方をする生徒も依然として多いことを認識しておきたい。

9 右の図のような円 O の周上にある 3 点 A 、 B 、 C を頂点とする三角形 ABC において $\angle ABC = 60^\circ$ である。 $OA = \sqrt{6}$ のとき、 $CA = \boxed{\text{テ}} \sqrt{\boxed{\text{ト}}}$ である。



正弦定理を用いて三角形の辺の長さを求めることができるかをみる問題

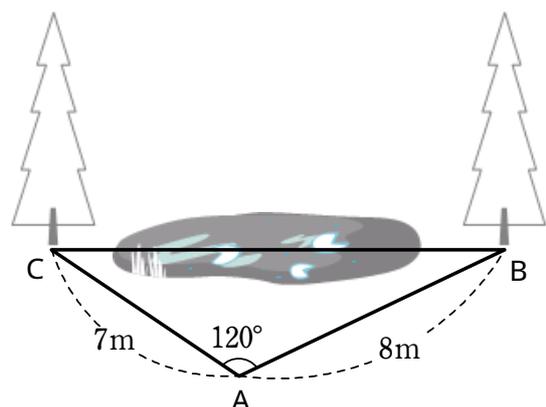
問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
9	テ	3	21.2	67.7	11.1	$2\sqrt{3}$ (16.6%), $2\sqrt{6}$ (14.7%), $3\sqrt{6}$ (4.0%) など
	ト	2				

【考察】正弦定理をそのまま用いて解が得られる問題であるが、誤答率とともに無答率も高かった。正弦定理を用いなくとも円周角と中心角の関係から $\angle AOC = 120^\circ$ であることを用いて求めようとしたものも少なくなかったと思われる。その際、三角形の形状及び辺の比から $AC = 2\sqrt{3}$ とした誤答になったのではないかとと思われる。いずれにしても無答数の多さから、与えられた条件から三角比に関するどの定理を活用するかを判断する力が定着していない様子が窺える。

10 沼を隔てた 2 地点 B 、 C 間の距離を求めるために、地点 A をとって、 AB と AC の距離および $\angle A$ の大きさを測ったところ、 $AB = 8\text{m}$ 、 $AC = 7\text{m}$ 、 $\angle A = 120^\circ$ であった。

このとき、2 地点 B 、 C 間の距離は

$\boxed{\text{ナニ}}$ m である。



余弦定理を用いて三角形の辺の長さを求めることができるかをみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
10	ナ	1	25.4	63.6	11.0	12 (14.5%), 15 (8.1%), 10 (5.3%) など
	ニ	3				

【考察】余弦定理をそのまま用いて解が得られる問題であるが、正弦定理の問題と同様に無答率が高かった。解を求めるためには余弦定理を用いて丁寧に計算することとなるが、誤答の多くは定理を用いず感覚的に求めたと思われる。また、15mの他に 56mや 28mのような三角形が成立しなくなること気付かない誤答も多かった。余弦定理を用いると、この問題のように実際には計測が難しい距離でも求めることができるという有用性を指導の中で伝える工夫が必要な分野であると思われる。

【学校選択型 A 用問題】

11-A 整式 $x^2 + ax - 6a^2 - 3x + a + 2$ を因数分解すると、

$$\left(x + \boxed{\text{又}} a - \boxed{\text{ネ}} \right) \left(x - \boxed{\text{ノ}} a - \boxed{\text{ハ}} \right) \text{ である。}$$

二つの文字を含む整式の因数分解を正確に処理できるかをみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
11-A	又	3	15.3	73.2	11.5	$(x + 2a - 1)(x - 3a - 2)$ (5.2%), $(x + 3a - 1)(x - 2a - 2)$ (4.9%) など
	ネ	2				
	ノ	2				
	ハ	1				

【考察】二つの文字を含む整式の因数分解であるが、一つの文字に着目して整理するとき生徒にとっては定数として扱いやすい a の文字を使用したことにより、 x について整理するという発想は出やすかったのではないと思われる。このように、一つの文字に着目して整理することを指導するとき、問題の文字の種類を変えて指導することも工夫の一つである。誤答の多くは、 x について整理した場合の定数項 $-6a^2 + a + 2$ の因数分解ミスや $x^2 + (a-3)x - (2a+1)(3a-2)$ まで変形した後のたすきがけでの間違いであろう。複雑な因数分解にも対応できるようにするため、一つの文字に着目して整理することのよさや、その先の見通しをもって因数分解することを十分に理解させる指導が必要である。

12-A 2次関数 $y = x^2 + 3kx + 2k^2 + 2k - 3$ のグラフが x 軸と共有点をもたないような

定数 k の値の範囲は $\boxed{\text{ヒ}} < k < \boxed{\text{フ}}$ である。

二次関数のグラフと x 軸との位置関係から、二次関数の係数に関する条件を考察する力をみる問題

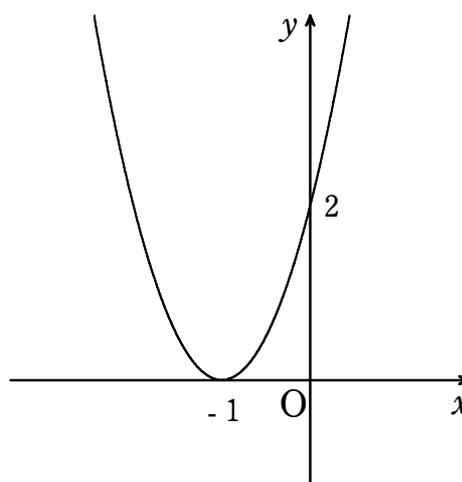
問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
12-A	ヒ	2	12.5	73.3	14.2	$2 < k < 3$ (12.7%), $3 < k < 2$ (5.7%) など
	フ	6				

【考察】2次関数のグラフと x 軸が共有点をもたないようにするための条件を考えさせる問題である。無答率が高く、頂点の y 座標の符号を考えるか $b^2 - 4ac$ の符号を利用すればよいということに気付かなかった生徒が多かったのではないだろうか。また、誤答例をみると2または3という数を答に書き入れた生徒が多いが、条件式である k の2次不等式を誤って解いたか、与えられた方程式の k^2 あるいは k の係数や定数項などをみて適当に書き入れただけである可能性も大きい。グラフと x 軸との共有点の個数と $b^2 - 4ac$ の符号との関係について今一度整理する必要がある。また、 $3 < k < 2$ などの誤答も多く、不等号の意味や使い方についても確実に身に付けさせたい。

13 - A 右の図が2次関数のグラフであるとき、

その式は、 $y = \boxed{\text{へ}} x^2 + \boxed{\text{ホ}} x + \boxed{\text{マ}}$

である。



グラフから通る点を読み取り、二次関数を求める問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
13-A	へ	2	5.2	82.5	12.3	$y=2x^2+x+2$ (7.5%), $y=x^2+2x+2$ (6.4%) $y=2x^2+2x+2$ (5.6%), $y=x^2+x+2$ (5.1%) など
	ホ	4				
	マ	2				

【考察】グラフから頂点の座標や通る点を読み取り、放物線の方程式を導く問題である。誤答も含め、グラフと y 軸との交点の座標から $\boxed{\text{マ}}$ は正しく求められた生徒が多い。その一方で誤答例をみると、点 $(-1, 0)$ を通ることは読み取れても、頂点が $(-1, 0)$ であると読み取れなかった生徒は多かったように思われる。また、 $y = 2(x+1)^2$ まで求められたものの、この式を展開して一般形に変形することができなかったと思われる誤答もあった。グラフから得られる情報を的確に表現する方法を身に付けさせるとともに、式の展開についてもより一層の定着が図られるべきである。

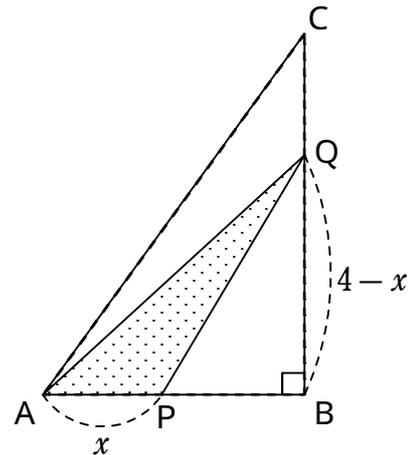
14 - A 放物線 $y = x^2 + 2x + 3$ を x 軸方向に $\boxed{\text{ニ}}$, y 軸方向に $\boxed{\text{ム}}$ だけ平行移動すると , $y = x^2 - 4x + 8$ に重なる。

二次関数の平行移動についての理解をみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
14-A	ニ	3	11.8	80.4	7.8	6, 5 (19.0%), 2, 5 (14.3%) 2, 3 (10.0%) など
	ム	2				

【考察】2次関数のグラフの平行移動を頂点の移動から正しく判断する力が求められる問題である。誤答として最も多かったものに注目すると、移動前の放物線と移動後の放物線、2つの方程式における x の係数や定数項を単純に比較し、 $2 - (-4) = 6$ 、 $8 - 3 = 5$ などと計算したための誤りと考えられる。また、標準形に変形しグラフの頂点まで求めたものの、その頂点の座標が誤っていたものや「 x 軸方向」、「 y 軸方向」という用語の理解が不十分なために正しく答えられなかった生徒もいたのではないだろうか。放物線を平行移動する際の頂点の移動の様子を的確に捉え、それを正しく表現できるように指導していく必要がある。

15 - A $\angle B = 90^\circ$ の直角三角形 ABC において、
 $AB = 3$, $BC = 4$ とする。辺 AB 上に点 P ,
 辺 BC 上に点 Q を $AP = QC$ となるように
 とり、 $AP = x$ ($0 < x < 3$) とおく。
 三角形 APQ の面積が最大となるのは、
 $x = \boxed{\text{メ}}$ のときである。



問題文から三角形の面積を二次関数を用いて表し、面積が最大となることを求めることができるかをみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
15-A	メ	2	22.4	68.2	9.4	3 (25.3%), 4 (10.2%), 7 (7.3%) など

【考察】2次関数を用いて三角形の面積を表現し、面積が最大になるときの x の値を求める問題である。辺 AP を底辺と考えたとき、線分 QB の長さが高さとなり、三角形の面積を x を用いて表すことができるが、誤答となったものの多くは、面積を x の式で表現できなかつたり、問題文にある数値をそのまま利用して、 $x = 3$ や $x = 4$ などを答えとしたものが多い。与えられた条件から面積や体積を文字で表し、その最大値や最小値について考える問題は、関数の応用として重要な問題であり、重視して指導してほしい。

16-A $0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ$, $\tan \theta = -2$ のとき, $\sin \theta =$, $\cos \theta =$ である。

モ:	$\frac{2\sqrt{3}}{3}$	$-\frac{2\sqrt{3}}{3}$	$\frac{2\sqrt{5}}{5}$	$-\frac{2\sqrt{5}}{5}$	$\frac{2}{3}$	$-\frac{2}{3}$
ヤ:	$\frac{\sqrt{3}}{3}$	$-\frac{\sqrt{3}}{3}$	$\frac{\sqrt{5}}{5}$	$-\frac{\sqrt{5}}{5}$	$\frac{1}{3}$	$-\frac{1}{3}$

三角比の相互関係を用いて残りの三角比の値を求めることができるかをみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
16-A	モ		18.1	72.4	9.5	(14.8%), (14.3%), (14.2%)
	ヤ		15.3	74.8	9.9	(16.1%), (14.6%), (14.5%)

【考察】三角比の相互関係を用いて残りの三角比の値を求める問題である。正接の値から正弦, 余弦の値を求める問題であるが, 数学で学習した三角関数で, 扱う角の範囲が広がっているため, \sin の値では, 角の範囲を十分に吟味しないで符号の違うと解答する誤答が多かった。また, , は相互関係を用いず, 直角を挟む2辺が1と2の直角三角形を用いて求めようとして, 斜辺の長さを誤ったものと考えられる。 \cos においては, 符号の誤りであるの解答よりもと解答した割合が高いことから, $1 + \tan^2 \theta = \frac{1}{\cos^2 \theta}$ の公式を正しく活用できなかったものが多かったと考えられる。

17-A 三角形ABCにおいて, $AB=2$, $BC=3$, $CA=\sqrt{7}$ であるとき,

$$\cos B = \frac{\text{ユ}}{\text{ヨ}} \text{ であり, 三角形ABCの面積 } S = \frac{\text{ラ} \sqrt{\text{リ}}}{\text{ル}} \text{ である。}$$

三辺の長さが与えられた三角形の面積を求めることができるかをみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
17-A	ユ	1	4.6	84.8	10.6	$\frac{3}{2}$ (27.7%), $\frac{2}{3}$ (26.6%) など
	ヨ	2				
	ラ	3	2.5	80.9	16.6	
	リ	3				
	ル	2				

【考察】三角形の三辺の長さから, 余弦定理を用いて1つの内角の大きさに対する余弦の値を求める問題である。教科書にもある基本問題であり, ヘロンの公式にもつながる大切な基礎事項であるにも関わらず, 正答率が4.6%, 誤答率が84.8%と残念な結果になっている。誤答例として多かった $\frac{3}{2}$ や $\frac{2}{3}$ は, Bを挟む2組の辺の長さを用いて三角比の定義で導いたものであると考えられる。また, 三角形の面積についても \cos の値にCAの長さを掛けたもので, 面積の公式も定着していないことが分かる。

18-A 電話を設置したいと考えた太郎くんは、ある電話会社に問い合わせたところ、次の2つのプランを紹介されました。

Aプラン：初期費用は37000円で、月当たりの使用料は1700円。

Bプラン：初期費用は2000円で、月当たりの使用料は2000円。

初期費用とは、電話を設置する際に一度だけ支払う料金です。

使用料は、1ヶ月単位で支払います。

「太郎くんは、初期費用と使用料の合計金額がBプランよりもAプランの方が安くなるのは何ヶ月以上利用したときかを不等式を使って考えることにしました。」

太郎くんが使う最も適当な不等式は、利用した期間を x ヶ月とすると、 である。

レ：
$$37000 + 1700x > 2000 + 2000x$$

$$37000x + 1700 > 2000x + 2000$$

$$(37000 + 1700)x > (2000 + 2000)x$$

$$37000 + 1700x < 2000 + 2000x$$

$$37000x + 1700 < 2000x + 2000$$

$$(37000 + 1700)x < (2000 + 2000)x$$

問題文の内容を理解し、不等式を用いて立式する力をみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
18-A	レ		29.6	63.0	7.4	(18.3%), (14.1%) など

【考察】不等号の向きが異なる誤答の が最も多いことから、文章から状況を正確に把握できなかった生徒も多いことが窺われる。身近な題材を数式を用いて表現することやそれを用いて解決することは、数学に対する興味や理解を向上させる意味で重要であり、より高い正答率になるよう指導したい。

【学校選択型B用問題】

11-B 2次方程式 $6x^2 + 5xy - 6y^2 + 3x + 11y - 3 = 0$ を満たす点 (x, y) は、

直線 $x +$ $y - 1 = 0$ 上または直線 $x -$ $y + 3 = 0$ 上にある。

因数分解を利用して、与えられた二次方程式を満たす点の集合を求める問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
11-B	ヌ	2	28.0	44.8	27.2	$3x + 2y - 1 = 0$ (7.3%), $3x + 3y - 1 = 0$ (4.4%) $2x + 2y - 1 = 0$ (4.3%) など
	ネ	3				
	ノ	3	24.8	47.4	27.8	$2x - 2y + 3 = 0$ (5.2%), $2x - 3y + 3 = 0$ (4.6%) $3x - 3y + 3 = 0$ (3.4%) など
	ハ	2				

【考察】因数分解を利用して、2次方程式を満たす点の集合を求める問題である。無答率が高く、因数分解をした式が2直線を表すことに気付かなかった生徒が多かったと思われる。また、符号の誤りによ

るものが最も多く、たすきがけを用いての因数分解を指導する際に、改めて注意させることが必要である。特に、 $6x^2 + (5y+3)x - (3y-1)(2y-3)$ まで式変形できたものの、その後のたすきがけができていない生徒が多いことが窺える。また、このような x と y の 2 次式を因数分解した際に、その方程式のもつ図形的な意味を考えさせることも必要であろう。複雑な因数分解にも対応できるようにするため、一つの文字に着目して整理するよさや、その先の見通しをもって因数分解することを十分に理解させたい。

12-B 2 次関数 $y = x^2 - 2kx + k + 6$ のグラフが x 軸の $x > 1$ の部分と異なる 2 点で交わるような定数 k の値の範囲は $\boxed{\text{ヒ}} < k < \boxed{\text{フ}}$ である。

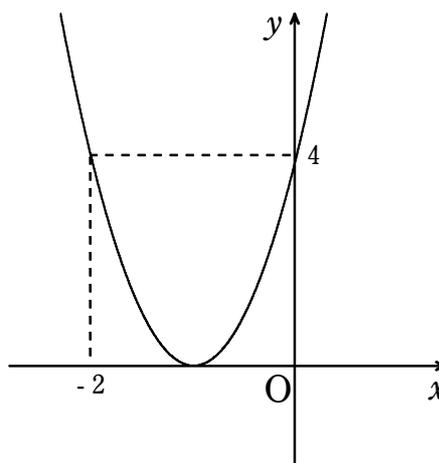
二次関数のグラフと x 軸との位置関係から、二次関数の係数に関する条件を考察する力をみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
12-B	ヒ	3	12.4	69.0	18.6	2 < k < 3 (18.5%), 1 < k < 3 (12.4%) など
	フ	7				

【考察】2 次関数のグラフが x 軸のある特定の範囲で交わるために必要な条件を考えさせる問題である。問題文を正しく読み取り、条件にあったグラフの概形をかき、それをもとに軸や頂点などに関する条件を過不足なく列挙することが必要となる。誤答をみる限り、「 $x = 1$ のときの y 座標が正である」という条件をみつけることが難しかったと推察されるが、生徒がどの部分でつまづいているのか詳しく分析し、弱点を補強しなくてはならない。また、解答にたどり着くまでには連立 2 次不等式を解く必要があり、そのことも正答率を下げた要因の一つと考えられる。

13-B 右の図が 2 次関数のグラフであるとき、

その式は、 $y = \boxed{\text{ヘ}}x^2 + \boxed{\text{ホ}}x + \boxed{\text{マ}}$ である。



グラフから通る点を読み取り、二次関数を求める問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
13-B	ヘ	4	27.1	59.3	13.6	$y = x^2 + 2x + 1$ (7.2%), $y = x^2 + 2x + 4$ (7.2%) など
	ホ	8				
	マ	4				

【考察】グラフから通る点を読み取り，放物線の方程式を求める問題である。放物線の対称性から比較的容易に頂点を求められたのではないだろうか。誤答になった原因としては，方程式を求める際に x^2 の係数を 1 と決めてしまい， $y = (x+1)^2$ としてしまったか，あるいは一度正答にたどりついたものの，すべての項の係数を 4 で割ってしまい $y = x^2 + 2x + 1$ としてしまった可能性が高いと考えられる。また，グラフと y 軸の交点の座標が $(0, 4)$ であることと軸の方程式が $x = -1$ であることだけを用いて， $y = x^2 + 2x + 4$ としたと思われる誤答も多くみられた。グラフから得られる情報を的確に読み取り，式に表現する方法を身に付けさせる指導が必要である。

14 - B 放物線 $y = x^2 + 4x + 7$ を x 軸方向に $\boxed{\text{ニ}}$ ， y 軸方向に $\boxed{\text{ム}}$ だけ平行移動し，さらに， x 軸に関して対称移動すると， $y = -x^2 + 2x - 6$ に重なる。

二次関数の平行移動と対称移動についての理解をみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
14-B	ニ	3	33.5	56.1	10.4	3, 8 (9.3%), 1, 2 (6.9%), 2, 1 (6.5%) など
	ム	2				

【考察】2 次関数のグラフの平行移動，対称移動を頂点の移動から正しく判断する力が求められる問題である。正答率は 1 年次の 29.0% から約 4 ポイント上昇した。上昇した理由としては，グラフの移動を遡って考えるような新たな発想を要求される問題は新鮮で，強く記憶に残った可能性が大きい。最も多い誤答は，移動前の放物線の頂点 $(-2, 3)$ と移動後の放物線の頂点 $(1, -5)$ を単純に比較した誤答であると考えられる。また，移動後の放物線 $y = -x^2 + 2x - 6$ の平方完成を間違えたと思われる誤答も多くみられた。平行移動・対称移動における頂点の移動をグラフの概形をかいいて視覚的に考察することも必要である。

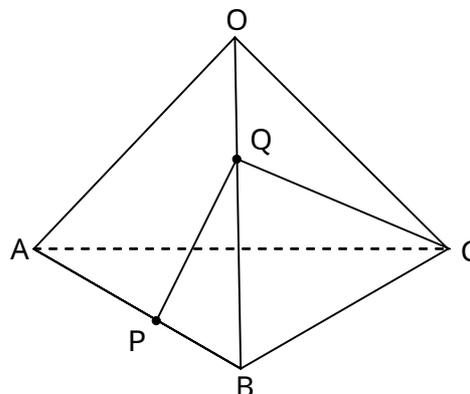
15 - B 2 次関数 $y = -x^2 + ax + a + 2$ が， x 軸と異なる 2 点 P，Q で交わる時，線分 PQ の長さの最小値は $\boxed{\text{メ}}$ である。

二次関数のグラフが x 軸を切り取る長さの最小値を求めることができるかをみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
15-B	メ	2	24.3	49.1	26.6	4 (13.6%), 3 (12.8%) など

【考察】放物線が x 軸から切り取る線分の長さの最小値を，線分の長さを a を用いて表し，2 次関数の性質を用いて求める問題である。線分の長さは， $y = 0$ とした 2 次方程式の解の差として表される。しかし，2 年生になって数学 を学ぶと，解と係数の関係を用いて解の差を求めることに固執する傾向がある。解の公式を用いて解の差を求めることを再指導することも重要であり，生徒には十分に理解してほしい問題である。

16-B 右の図のように一辺が5の正四面体OABCがある。辺ABを3:2に内分する点をPとし、辺OB上に点Qをとる。このとき線分PQと線分QCの長さの和PQ+QCの最小値は $\sqrt{\text{モヤ}}$ である。



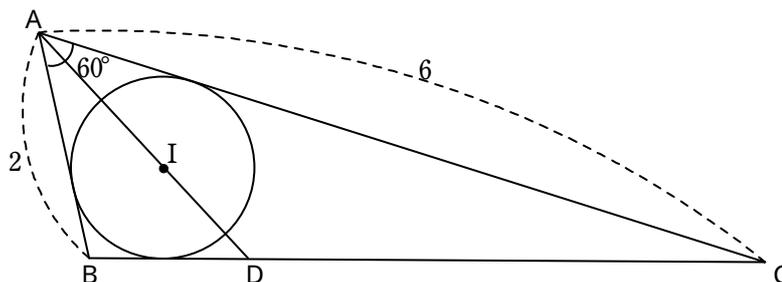
立体の展開図を用いて二つの線分の長さの和の最小値を求めることができるかをみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
16-B	モ	3	11.8	62.5	25.7	$\sqrt{13}$ (15.3%), $\sqrt{29}$ (3.8%) など
	ヤ	9				

【考察】誤答で最も多かった $\sqrt{13}$ や $\sqrt{29}$ と解答した生徒は、展開図でPB=2, BC=3としてPQ+QCが最短となる時は、点Qが直線PC上にあると考えて、PBCにおいて $\angle PBC = 90^\circ$ とし、三平方の定理を利用して求めたものと考えられる。つまり多くの生徒は立体の展開図を正確に用いて解くことができていない。立体に関する問題では展開図を用いるなど平面で考えることが重要であることを理解させたい。

17-B 右の図のような $AB=2$, $AC=6$, $\angle BAC=60^\circ$ の三角形ABCの内心をIとする。また、直線AIと辺BCが交わる点をDとするとき、

三角形ABCの面積 $S = \sqrt{\text{ユ}} \sqrt{\text{ヨ}}$, $AD = \frac{\text{ラ} \sqrt{\text{リ}}}{\text{ル}}$ である。



三角形の面積を用いて角の二等分線の長さが求められるかをみる問題

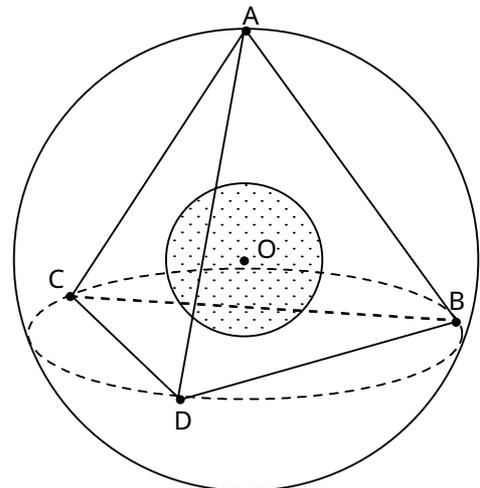
問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
17-B	ユ	3	36.3	42.4	21.3	$2\sqrt{3}$ (6.3%), $6\sqrt{3}$ (4.4%) など
	ヨ	3				
	ラ	3	7.6	55.5	36.9	$\frac{2\sqrt{3}}{3}$ (3.1%), $\frac{2\sqrt{2}}{2}$ (2.9%) など
	リ	3				
	ル	2				

【考察】この問題は、 $\angle BAC = 60^\circ$ より三角形の面積を利用して角の二等分線を求める問題であるが、三角形の面積の公式が定着していないことや、 $\triangle ABC$ を $\triangle ABD$ と $\triangle ADC$ の和になることを利用して解くことが十分に理解できていないと思われる。角の二等分線の長さを求める問題では、このように面積を用いる手法と余弦定理を用いる手法を併せて指導したい問題である。

18-B 右の図のような正四面体 $ABCD$ に内接する球の体積を V_1 、外接する球の体積

を V_2 とするとき、 $V_1 : V_2 = \boxed{\text{レ}}$ である。

レ: 1 : 8 1 : 27 1 : 64
 8 : 27 27 : 64 8 : 125



正四面体に内接する球と外接する球の半径の比から、2つの球の体積比を求められるかをみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
18-B	レ		23.5	57.1	19.4	(16.3%), (12.5%), (9.9%) など

【考察】正四面体に内接する球の半径 r と外接する球の半径 R の比 $r : R = 1 : 3$ であることを求め、球の体積比が $r^3 : R^3$ であることから正答を得る問題である。難易度の高い問題ではあるが、球に内接・外接することを的確に理解し、必要な部分を平面図に置き換えて考えることが必要である。繰り返し取り組むことで、立体図形に関する理解を深めることが今後も必要である。

3 分析のまとめと指導上の改善

<分析のまとめと課題>

(1) 本質的な理解力、活用力・応用力が身に付いていないため、基礎事項の定着率が低い

基礎・基本を問う共通問題の1～6については、1年次にも同じ内容の問題を出題している。問題1, 2, 4では、扱う係数等が複雑になったが、正答率はそれほど下降しなかったことから、1年次とほぼ同程度と考えられ、「数と式」、「方程式」に関する基礎・基本事項については、定着度が高いと考えられる。

問題3, 5, 6や1年次に不出題されていない分野の問題7～10のように、絶対値などの記号の意味を読み取る問題や、グラフを用いて最大・最小を考える問題、三角比の問題は、極端に正答率が低かった。

課題1：2年次の授業や家庭学習において、1年次に学習した基礎・基本を継続的にくまなく復習させる指導が不足している。

(2) 数学を学ぶ楽しさや考える意欲

問題14Bのように、結論から遡って考えるなど、新たな発想で解くことを1年次に経験した問題は、正答率が伸びている。

問題11ABのように複数の文字を扱う問題のときに、1つの文字に着目して整理することのよさや、問題12ABのように、二次関数と x 軸との位置関係が文字の変化によってどのように変わるかをグラフを通して調べることのよさを理解しようとする姿勢が身に付いていないため、正答率が低くなっている。

(3) 論理的な思考力

問題8のように、三角比の定義が用いられるように図を移動して考える問題や、問題9, 10のように正弦定理や余

<指導改善のポイント>

数学を学ぶ意欲を向上させ、基礎事項の定着度を高めるために、数学を学習する楽しさや意義、数学的な見方や考え方のよさを実感させる授業を工夫する。

数学を学習する意義、数学的な見方や考え方のよさ、数学の美しさ、文化や社会生活において数学が果たしている役割などを理解させ、日常生活で体験する事柄を数理化するなど、現実の生活を反映した問題を多く扱い、生徒がその内容の必要性を感じられるような授業展開を考えることにより、数学への興味・関心をもたせ、学習意欲を高めることを大切にして指導する必要がある。

論理的に思考する力を育成するために、思考力を互いに高め合う指導を工夫する。

授業において「公式や定理がなぜ成り立つのか。」という視点を重視するとともに、そのことについてじっくりと思考させる。具体例を一つ説明して、すぐ一般化するのではなく、問題の解法が公式や定理を導く過程と一致している具体例をできるだけ多く扱うことによって、公式や定理が役に立つことに気付かせることや、その途中過程を他の場面に応用できるような指導を工夫する。

発問を工夫し、数学の学習を単に問題を解いて答えを求めるなどの知識の習得や技能の習熟にとどめるのではなく、学習の必要性に気付かせ、数学的な見方や考え方のよさが認識できるようにすることが大切である。

発表や検討(練り合い)などの様々な数学的活動を授業に取り入れて、自分の考えを論理的に思考させ表現させる機会を設定する。自分の考えだけでなく、他の人の意見の中に数学的な見方や考え方のよさを見つけることや、他の人に分かりやすく説明しようとすることによって、自分の思考過程を振り返らせることは、知識・理解を定着させることに有効である。

弦定理など、実生活で活用されている問題に取り組む機会が少ないため、どの公式を用いるかを考える問題の正答率が低い。

問題 17 A のように、三角形の三辺の長さから面積を求めるヘロンの公式を導く過程を問う問題の正答率が低かった。

課題 2：公式や定理がなぜ成り立つのかを考えることや、様々な数学的活動を通して論理的に思考させる機会が少ないため、公式を活用する力や根気強く考える力が身に付いていない。

(4) 問題文の読解力と立式、グラフや図の活用

問題 7 のように、正しい式変形を確実に行えば必然的に基礎的な解き方で解ける問題は、正答率が高く、方程式や不等式については基礎的な問題の反復練習が行われていることが窺える。

問題 18 A の正答率が 30% 弱であったことから、問題文から式を立てる段階での誤りが多く、文章の意味と不等号との関係が正確に把握できていないため、正答率が下がる傾向がある。

問題 16 B などは、立体の図形を展開図で考え、平面上で処理する問題であるが、立体の図形で式を立てようとしたための誤答や無答が多かった。

問題 13 A B のように、求める二次関数が通る点の座標をグラフから読み取り解く問題であるが、頂点の座標が読み取れる問題であるにもかかわらず、正答率は A が約 5%、B が 30% 弱であった。常にグラフや図を考えながら解くことや、図やグラフから必要な情報を読み取る力が不足しているようである。

課題 3：数学の用語や記号を用いて書かれた文章を、式やグラフ・図を用いて表現することや、式やグラフ・図から必要な情報を読み取り、それを活用する力が不足している。

論理的に表現する力を育成するために、用語・記号を丁寧に説明するだけでなく、数学的な表現に慣れさせる工夫をする。

数学の問題を解答する上で、一番大切な立式することの指導を工夫する必要がある。正しく問題文の内容を把握しているか、分析しているかを発問・発表や検討(練り合い)などの様々な形式で確認していく指導案を作成していく必要がある。

数学で用いられる用語や記号については、授業で説明するだけでなく、事象を自分の言葉で表現させ、その表現をさらに数学的な表現に発展させていくことや、逆に、式や記号で表現されていることを、自分の言葉で表現し相手に分かりやすく説明できるような内容を含む授業を工夫する。

数学の用語や記号を用いて書かれた文章などを理解し処理するために、グラフや図を活用しながら、常に具体化させて思考させることを重視する。

文字を含む問題については、文字のまま処理していかないで、常に文字を具体的な数にした場合をいくつか比較し、実感が伴った分析ができるようにする。

I C T を積極的に活用して、文字を含む式で与えられた図形やグラフが、文字の値の変化にともなってどのように変化していくかを視覚的に捉えさせたりするなど、生徒に事象の変化や動きを実感させる様々な工夫が必要である。

式だけが条件として与えられている問題についても、式変形だけで思考させず、グラフを利用して考えるとどうなるのか、表を作って変化の様子や成り立つ関係を予想させる、また、図形を用いて関係を表現し、位置関係や性質理解することによって状況を把握していくなど、様々な方法を用いて思考させる工夫をする。



学習事項を継続的に復習すること、一方的な授業にならないよう数学的活動を工夫して授業を実践することにより、創造性の基礎を培い、数学を活用する能力と態度を育成することが今後求められる。

数 学

学 科 群 別 正 答 率 一 覧

問題 番号	記号	ねらい	全体正答率	数学A				数学B			
				全体	普通科	職業系 専門学科	その 他の 学科	全体	普通科	職業系 専門学科	その 他の 学科
全体平均正答率			38.1	18.8	24.2	12.8	14.2	44.6	44.5	20.2	49.1
1	アイウ	指数法則を用いて式の計算ができる	50.1	38.5	45.0	30.0	28.8	72.0	72.0	45.2	73.9
2	エ	無理数を含む式において分母の有理化ができる	47.5	33.5	43.6	19.5	22.1	73.5	73.4	57.1	76.5
3	オ	絶対値の記号の意味と無理数と整数の大小関係を理解している	42.2	27.6	34.4	22.1	23.4	64.5	64.2	28.6	71.8
4	カ	因数分解を利用して二次方程式を解くことができる	58.2	45.6	55.5	31.4	35.4	82.0	82.2	69.0	81.2
5	キクケコ	二次関数を標準形に変形して、グラフの頂点の座標を求めることができる	35.8	14.5	23.7	1.6	7.5	73.6	74.0	28.6	73.9
6	サ	定義域の意味を理解し、二次関数の最大値及び最小値を求めることができる	26.8	12.2	16.9	5.1	10.9	55.3	55.0	14.3	62.9
6	シ		55.2	45.5	51.7	38.2	40.4	74.2	74.3	52.4	74.7
7	ス	二次不等式を解くことができる	40.1	25.2	32.9	18.7	23.7	62.0	62.2	31.0	62.4
8	セソ	三平方の定理と三角比の定義を理解している	25.3	10.3	15.5	4.5	3.3	51.0	50.9	2.4	57.7
8	タチツ		28.0	12.1	18.5	5.0	3.8	55.0	55.1	2.4	59.5
9	テト	正弦定理を理解している	21.2	8.3	11.2	6.2	5.5	41.5	41.3	4.8	48.0
10	ナニ	余弦定理を理解している	25.4	11.5	14.9	8.7	9.2	48.1	47.5	19.0	58.2
11-A	ヌネノハ	二つの文字を含む整式の因数分解ができる		15.3	20.4	7.9	8.6				
12-A	ヒフ	二次関数のグラフを利用して、係数に関する条件を求めることができる		12.5	18.3	3.3	4.5				
13-A	ヘホマ	グラフから通る点を読み取り、二次関数を求めることができる		5.2	7.4	1.9	3.1				
14-A	ミム	二次関数のグラフの平行移動について理解している		11.8	16.6	3.6	6.9				
15-A	メ	三角形の面積を二次関数を用いて表し、最大となることを求めることができる		22.4	25.4	18.4	16.3				
16-A	モ	三角比の相関関係を用いて残りの三角比の値を求めることができる		18.1	20.0	15.1	16.2				
16-A	ヤ			15.3	15.7	14.2	16.2				
17-A	ユヨ	三辺の長さが与えられた三角形の面積を求めることができる		4.6	6.5	1.9	2.2				
17-A	ヲリル			2.5	3.9	0.6	0.7				
18-A	レ	問題文の内容を理解し、不等式を用いて立式できる		29.6	33.6	24.4	23.7				
11-B	ヌネ	因数分解を利用して、二次方程式を満たす点の集合を求めることができる						28.0	27.6	11.9	35.0
11-B	ノハ							24.8	24.4	11.9	31.3
12-B	ヒフ	二次関数のグラフを利用して、係数に関する条件を求めることができる						12.4	12.1	0.0	16.7
13-B	ヘホマ	グラフから通る点を読み取り、二次関数を求めることができる						27.1	26.5	0.0	36.0
14-B	ミム	二次関数のグラフの平行移動について理解している						33.5	33.3	7.1	39.2
15-B	メ	二次関数のグラフがx軸を切り取る長さの最小値を求めることができる						24.3	24.3	35.7	23.8
16-B	モヤ	立体の展開図を用いて二つの線分の長さの和の最小値を求めることができる						11.8	11.0	0.0	21.9
17-B	ユヨ	三角形の面積を用いて角の二等分線の長さを求めることができる						36.3	35.8	4.8	45.2
17-B	ヲリル							7.6	7.7	0.0	6.8
18-B	レ	二つの球の体積比を求めることができる						23.5	23.6	19.0	23.5

「英語」ペーパーテスト結果と考察

1 出題のねらいと内容

様々な英文に対する理解力・読解力，基礎的な構文を作る表現力を重視しながら，コミュニケーション能力の育成を目指し，その基礎となる英語力の定着をみることをねらいとして，作題した。問題構成は，リスニング問題，語彙・文法問題，整序問題，情報検索問題，長文問題（A・Bより選択）となっている。高校1年生の既習事項をもとにして基礎レベルの問題から，応用的な力を探るものまで幅広く出題している。

2 設問ごとのねらい，結果の分析と考察

① リスニング問題：絵を見ながら英文を聞き，正しい描写を適切に答える問題。

解答記号	正解	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
①	ア	3	33.9	65.3	0.8	「1」26.9%，「2」19.6%，「4」18.7%
	イ	4	47.9	51.4	0.7	「1」27.1%，「2」18.0%，「3」6.3%
	ウ	2	55.2	44.0	0.8	「1」19.9%，「3」13.6%，「4」10.5%

【考察】

問題アは，主部に関係代名詞が用いられており，長い主部と述部の情報をそれぞれきちんと把握する必要がある。正答率と選択肢ごとの誤答率を見る限り，文の構造を正しく把握できなかった生徒が多かったようである。問題イは，1つの文の中に位置情報を表す語句が2つずつ含まれている。その語句が理解できていなかったり聞き取れなければ，回答は困難になるであろう。問題ウは，比較表現を用いた文を聞き，グラフが表す情報と一致するものを選ぶ問題である。英文に用いられている比較表現は中学校でも習った基礎的なものであり，'less'の意味が分かれば回答は比較的容易である。

② リスニング問題：英語による会話を聞き，流れに沿って適切に応答する力を見る問題。

解答記号	正解	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
②	エ	2	64.4	33.8	1.8	「1」12.8%，「3」9.6%，「4」11.4%
	オ	4	22.1	76.7	1.2	「1」20.7%，「2」18.9%，「3」37.0%
	カ	3	28.2	70.8	1.0	「1」9.1%，「2」22.4%，「4」39.3%
	キ	3	24.6	74.1	1.3	「1」18.3%，「2」27.2%，「4」28.5%

【考察】

問題エは，簡単な内容の会話であり，基礎力が試される問題である。時制と最後の文の疑問詞'when'に気をつければ容易に正解を導き出すことができるため，正答率も高かった。問題オは，Aさんの最後の台詞から「見つからないのは財布」であり，「今朝バッグの中に入れた」ということが理解されていることがまず必要となる。次に，選択肢4の'Are you sure...?'の使い方が分かっていたら，正しい回答につながるだろう。時制を意識するあまり，選択肢3のような誤答を選んだケースが多かった。問題カは，'Shall we...?'という勧誘表現に対する自然な応答文を選ぶ問題である。選択肢3の文中の'stop by'の意味が正しく理解されていなければならない。選択肢4の誤答率の高さは，'miss'を「忘れていた」というような意味に誤解したことによるものと思われるが，会話の流れからも選択肢3は不自然である。問題キは，会話の内容から，Aさんが英語のテストのスケジュールについて誤って理解していたことを把握する必要がある。また，選択肢3の否定疑問が正しく理解されていなければ，正解に到達できない。正解の選択肢3の回答率が低かったことから，会話内容の理解，選択肢の意味の把握ともに難しかったようである。

- 3 リスニング問題：まとまった英文と質問を聞き、内容を正しく理解し、適切に答える力をみる問題。

解答記号	正解	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
3	ク	3	35.5	63.3	1.2	「1」21.0%、「2」33.4%、「4」9.1%
	ケ	3	31.3	67.6	1.1	「1」20.8%、「2」23.7%、「4」23.0%
	コ	4	28.6	70.5	0.9	「1」21.2%、「2」29.1%、「3」20.1%

【考察】

問題クは、方角を表す語句を正確に聞き取り、その情報から東北各県の位置関係を的確にイメージできるかがポイントとなる。特に、'by way of the west side of Tohoku region' が具体的に秋田と山形を指しているということを理解できなければ、選択肢2という誤答が生じてしまう。問題ケは、英文と一致しないものを選ぶ形式の問題である。少女が病を持って生まれながらも、多くの人々に囲まれながら、前向きに生きたという内容が理解できれば、正解を導き出せる。しかし、正答率が低く、選択肢ごとの誤答率にあまり差がないところを見ると、英文の内容が把握できなかっただけでなく、英文と一致しないものを選ぶという質問文の意味を理解できなかった生徒もいたのではないかと推測される。問題コは、英文と一致するものを選ぶ形式の問題である。英文は東洋と西洋の倫理観の違いを、日本の例を挙げながら対比している。難しい表現は使われていないが、'all human beings are equal as individuals'の部分に気をとられ、そのあとに続く'before God'の'before'という情報を落としてしまうと、選択肢2のような間違いが生じてしまう。また、英文の内容を選択肢では別の表現で表しており、表現力の豊かさも問われる問題である。

- 4 語彙・熟語・文法問題：英語によるコミュニケーションを図るために必要となる基礎的・基本的表現、語法など、言語に関する知識・理解をみる問題。

解答記号	正解	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
4	サ	2	43.2	56.2	0.6	「1」29.8%、「3」10.3%、「4」16.1%
	シ	1	20.4	78.9	0.7	「2」21.3%、「3」31.2%、「4」26.5%
	ス	4	33.5	65.7	0.8	「1」15.1%、「2」15.8%、「3」34.8%
	セ	3	52.5	46.8	0.7	「1」16.7%、「2」15.4%、「4」14.7%
	ソ	2	46.7	52.6	0.7	「1」20.7%、「3」23.7%、「4」8.1%
	タ	4	39.2	60.0	0.8	「1」27.8%、「2」14.4%、「3」17.8%
	チ	3	31.0	68.4	0.6	「1」41.5%、「2」10.2%、「4」16.6%
	ツ	1	35.9	63.3	0.8	「2」17.4%、「3」36.6%、「4」9.3%
	テ	3	47.0	52.2	0.8	「1」15.9%、「2」18.9%、「4」17.3%
	ト	2	53.6	45.6	0.8	「1」12.7%、「3」15.4%、「4」17.4%
	ナ	4	48.1	50.9	1.0	「1」18.9%、「2」15.9%、「3」16.0%
ニ	1	25.3	73.8	0.9	「2」18.0%、「3」22.2%、「4」33.6%	

【考察】

最も正答率が低かったのは問題シで、正答がすべての選択肢の中で一番少なかった。この問題は、仮定法過去完了と仮定法過去の併用型であることに気付かずに、前半の仮定法過去完了につられて後半も仮定法過去完了と判断したものと思われる。文中の then や now などの時表現に着目しながら論理的に思考する必要がある。次いで、回答数の最も多かった選択肢と正答が一致しなかったのは、問題ス、チ、ツ、ニの4問であった。これらにおいては、助動詞 + have + 過去分詞 の形の中で have を be とした誤答、What is + S + like? の構文で What を How とした誤答、not ~ at all の表現で all を last とした誤答、ask + 人 + if 節 (= 名詞節) の表現で if 節を仮定法表現と解釈した誤答など多く見られた。全体的に見て、正答率が 60% を上回った問題は 1 問も

無く、50%を超えた問題はセとトの2問で、それぞれ接続詞 while の意味や、One ~, the other の表現の定着を問うものであった。また残りの5問(サ、ソ、タ、テ、ナ)はほぼ4割台の正答率で、keep + O + ~ing、受動態の分詞構文、文中の自動詞 come に伴う関係副詞、数字 + a week (1週間あたり~)、no matter + 疑問詞 + S + V という基礎的・基本事項は比較的押さえていると思われる。

5 整序問題：与えられた語句を正しい語順に並びかえて英文を構成することにより、言語に関する知識・理解と表現する力をみる問題。

解答記号	正解	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
5	又	4	45.7	53.2	1.1	「1」23.8%、「2」18.2%、「3」11.2%
	ネ	2	68.8	30.3	0.9	「1」7.7%、「3」13.8%、「4」8.6%
	ノ	1	56.1	43.0	0.9	「2」15.8%、「3」14.1%、「4」13.0%
	ハ	3	62.3	36.8	0.9	「1」11.7%、「2」16.8%、「4」8.3%
	ヒ	4	57.1	41.8	1.1	「1」8.4%、「2」19.1%、「3」14.3%

【考察】

全問の平均正答率が6割弱でやや高めであった。その一因として使用している語彙が易しめだったことが挙げられよう。唯一正答率より誤答率の方が上回ったのは問題ヌで、形式目的語 it を用いた S + V + O(=it) + C + to 原形~ の構文を × I found to solve it difficult this matter. のように it と to 不定詞の関係をよく理解していない誤答が目立ったようだ。最も正答率が高かった(68.8%)のは問題ネで、進行形の受動態の定着をみるものだった。次いで正答率が高かった(62.3%)のは問題ハで、現在分詞の形容詞的用法を問うもので中学校での既習事項である。この2問だけが60%を超える高正答率だった。残りの2問は正答率が両方50%台であり、そのうちの1つである問題ノは倍数を伴う比較表現 ~ is twice as large as ~ において、誤答例として × ~ is as twice large as ... や、× ~ is as large twice as ~ など、選択肢ごとの誤答率がそれぞれ15%前後でばらけ、倍数表現の位置の定着不足が伺えた。もう一方の問題ヒは強調構文を扱ったもので、it と be 動詞と that を除くと元は完全な一文であるという特徴を理解していない生徒が40%ほどいると思われた。

6 美術館に関する「紹介文」をもとに必要な情報を読み取る情報検索問題。

解答記号	正解	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
6	フ	4	26.3	72.3	1.4	「1」43.5%、「2」15.5%、「3」13.2%
	ヘ	2	57.2	41.6	1.2	「1」15.3%、「3」20.5%、「4」5.6%
	ホ	3	54.8	43.7	1.5	「1」17.2%、「2」15.9%、「4」10.6%
	マ	1	24.9	73.3	1.8	「2」20.3%、「3」27.2%、「4」25.7%
	ミ	2	36.6	61.2	2.2	「1」23.7%、「3」21.2%、「4」16.3%

【考察】

センター試験第4問B形式の情報検索力をみるための問題である。問いが先に提示され、次のページに紹介文が掲載されている、通常とは逆の問題提示の仕方。美術館の「紹介文」の読解に時間をかけるのではなく、選択肢を見てどういう情報を読み取るべきかを知った上で「紹介文」の中にその情報を探すという scanning の力が求められる。すべての英文を逐語的に精読していた生徒のなかには、この「紹介文」の読解に時間を使いすぎて、他の問題の解答時間が足りなくなった生徒もいるかもしれない。

設問1~設問6全体の平均正答率が41.8%に対してこの問題の平均正答率は39.9%であり、平均正答率がやや低い結果となった。問題フでは誤答選択率が最も高かった選択肢は、1の the second Monday (43.5%)。質問文の When Monday is a national holiday, what day of the week is the museum closed? の意味は理解できていたと思われ、質問文の該当箇所も見付けることはできたと考えられ

るが、「紹介文」にある'When Monday is a national holiday, the museum is open. It's closed on the following day.' の「言い換え表現」を読めていないことが誤答選択率が高くなった要因であろう。問題マでは誤答選択率は、選択肢2 glasses and wheelchair (20.3%) 3 a collection of books on art (27.2%) 4 exhibition catalogues (25.7%) とほぼ僅差で分散している。質問文 What has this museum been showing? の答えを「紹介文」の【Other services for your convenience】に記載されている情報だけから探し、「紹介文」の冒頭にある英文 'This Sendai Metropolitan Art Museum, ~ has been offering exhibitions of many kinds of Eastern works for over 50 years. Now exhibits oil paintings, sculptures, ~' を理解していなかったことが推測できる。ここでも、「紹介文」での 'has been offering exhibitions' と選択肢に含まれる表現 'has been showing' の「言い換え表現」を読めていないことが分かる。また、'offer' や 'exhibit' の単語の意味が分からなかったことも考えられ、「語彙不足」も正答選択肢1 Eastern works を選択できなかった要因の1つであろう。問題ミは、内容一致問題で「紹介文」の内容と一致する選択肢を選ぶ問題。誤答選択率は問題マと同様に僅差であったが、最も誤答選択率の高かった選択肢1 Visitors can see the exhibitions any time they want. (23.7%) は「紹介文」にある Open 9:30 a.m. - 5:30 p.m. Closed on Monday という英文は理解できていたはずであるから、選択肢の英文（特に 'any time they want'）を理解しきれていなかったことが考えられる。また次に誤答選択率が高かった選択肢3 Visitors can take photos only at the museum shop. は、「紹介文」に Photography is only allowed in a garden with permission. とあるように該当箇所は比較的容易に検索できたはずだから、この英文自体の意味を理解しきれていないため photography という単語があるという理由だけで選択したのではないだろうか。'allow', 'permission' などの意味が分からなかったという語彙力不足と「紹介文」での受動態表現が選択肢では 'take photos' と能動表現が変わっている点での文法力不足も英文を正しく理解することができなかった原因の1つに挙げられるだろう。

正答選択率が高かった問題へ 'How much do an elementary school girl and her father pay altogether to enter the museum?' では、質問の英文が 'How much ~ ?' で始まる入館料を訪ねる簡単な英語であったこと、また「紹介文」の英文からも比較的簡単に該当箇所を見付けることができたこと ('Admission fee' という単語の意味を知らなくても、1,000yen, 500yen 等という単語から正答を導くことが可能であったと推測できる。) また、このタイプの問題でよく見られる2箇所の情報 (Adult: 1,000yen, ~ elementary school students or younger: free) を組み合わせる必要はあったが、「小学生以下は無料」ということから実際は1つの情報で正しい答えを導けたため正答率が高くなったと考えられる。問題ホ 'What are on every floor?' は「紹介文」に Toilets for Wheelchair are on every floor. という英文がそのままあるので、正答選択肢3 toilets for wheelchair を容易に検索できたため正答率54.8% と高くなったようだ。

今後の課題として、読解力の基礎となる語彙力・文法力・構文力を早期に定着させ、正確な読解力のための精読指導に加え、制限時間内に大量の情報を処理する速読力（情報検索力・要点把握力など）を意識して指導していくことが考えられる。

7 長文問題A 説明文を読んで、その概要・要点を理解し、的確に内容を読み取る力をみる問題

解答記号	正解	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
7	△	3	23.9	71.9	4.2	「1」23.7% , 「2」35.6% , 「4」12.6%
	×	3	32.7	63.5	3.8	「1」16.3% , 「2」29.2% , 「4」18.0%
	モ	1	26.0	69.9	4.1	「2」24.9% , 「3」26.4% , 「4」18.6%
	ヤ	2	24.1	71.7	4.2	「1」22.6% , 「3」24.9% , 「4」24.2%
	コ	4	14.4	81.3	4.3	「1」21.8% , 「2」30.0% , 「3」29.5%

【考察】

長文問題Aの正答率は、全体的に低かった。限られた時間である程度の語彙数の英文を読みこなすためには、語彙力を強化すること、基本的な文法事項の定着を徹底すること、日頃から速読に慣

れ親しませること、論理的思考力を養成することが求められる。

最も正答率の高い問題メは、設問とほぼ同じ英文が説明文にあり、時に関する語句だけ確認すればいいので正答率が高かったと考えられる。逆に正答率が 14.4%と最も低い問題ユは、説明文のタイトルを選択させる問題であった。個々の英文の内容を単に理解できるレベルではなく、全体の概要を短時間にしかも正確に読みとることが求められる。日頃から英文を読んだ後でその内容構成や重要ポイントをまとめさせたり、英語で要約させるなど指導に工夫が必要である。

また必要な情報を見付け出す問題ム、空所補充の問題モと問題ヤは、正答率がそれぞれ 23.9%、26.0%、24.1%とほぼ 4 分の 1 の正答率になった。問題ムは設問が現在完了形の疑問文であり、過去から現在も含めて最近の米国の輸出品について答える問題である。選択肢 1 の 'raw materials' の誤答率が高いのは、文中に最初に過去形 'exported' が登場する 19 世紀前半の輸出品を答えた可能性が高い。また選択肢 2 の 'Manufactured goods' の誤答率が最も高いのは、設問の英文の 'in recent years' を頼りに説明文を探し、同じ行にあった選択肢を選んだ可能性が高い。'export' と 'import' の意味の違いも理解が不十分であったと考えられる。問題モについては、'musician' を選んだ誤答率は低く、説明文のテーマと関連性のない選択肢を選ぶ可能性は低い。残りの選択肢では、'researcher' の誤答率が高いが、空所に続く 'in international economy' との関連性を考え 'researcher' を選んだ可能性が高い。また正答の選択肢、'player' の「選手」以外の意味についての理解度も十分ではない。文脈を考えながら適切な意味を推測できるように多義語についても意識的に注意を促し指導していく必要がある。

7 長文問題 B：説明文を読んで、その概要・要点を理解し、的確に内容を読み取る力をみる問題。

解答記号	正解	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
7	ム	4	31.1	66.0	2.9	「1」 28.5 % , 「2」 23.7 % , 「3」 13.6 %
	メ	1	23.6	74.0	2.4	「2」 14.1 % , 「3」 51.7 % , 「4」 8.2 %
	モ	1	39.1	58.2	2.7	「2」 28.3 % , 「3」 16.6 % , 「4」 13.2 %
	ヤ	3	27.4	68.6	4.0	「1」 17.1 % , 「2」 27.6 % , 「4」 23.8 %
	ユ	3	22.5	72.9	4.6	「1」 17.9 % , 「2」 24.3 % , 「4」 30.7 %
	ヨ	2	39.2	55.4	5.4	「1」 13.5 % , 「3」 19.5 % , 「4」 22.3 %

【考察】

選択肢を含めると 800 語程度の英文を限られた時間内にどれだけ正確に読み取れるかを問う問題であった。全体的な正答率は低調で、正答率が 40 % を超えた問いはなかった。45 分のテストの最終問題であり、解答時間が足りなかったことが一番の要因であろう。本文の語彙のレベルも比較的高く、未知の単語を見たらすぐに辞書を引くことに慣れている生徒にとっては本文自体が難しかったと思われる。普段より自分で意味を推察する訓練を行っていないと、意味の分からない単語が何個か出てくるだけで部分的にだけでなく、本文全体の意味を取りそこなうことがある。問の形式は文を完成させるのに最も適当な選択肢を選ぶものだったが、正答率を見ると選択肢における本文の言い換えにてこずった生徒が多数いた。正答率が 20 % 台と低かったメ・ユの 2 つは正答を見極める基準作りが難しく、この正答率も仕方がないといえるが、それ以外の問いも低い正答率であった。倒置が起こり、構文的に解釈しにくい問題ムにおいては問われている 'ayahs' と 'the children's nannies' が同格関係であることや、その直後の文が 'ayahs' の具体説明であることには気付いて欲しい。問題モにおいて本文にある 'labor force' の言い換えが選択肢 1 の 'work' の言い換えであることに気付かないのは明らかな語彙不足であろう。問題ヤでは全く見当違いの選択肢 2 を選んだ生徒と正解の選択肢を選んだ生徒の割合がほぼ等しかった。本文の 'less optimistic'、問題文の 'for' の意味が取りにくかったことで選択肢を選ぶ以前にあきらめてしまった生徒もいるような低い正答率であった。

2 年生のこの時期は構文力も高まり、徐々に読む英文の量を増やす時期でもある。語彙に関しても 1 年生の頃より程度の高い語句の意味をどんどん覚えなければならない。普段の授業で扱う英文の質と量を両立させることは難しいと思われるが、音読のレベルから黙読のレベルまで個々の細かい目標設定が必要になるだろう。2 年生になると教室での音読の声も低くなりがちだが、しかし黙読

の基礎となるのは音読であり、読む力は音読によってまず養われることを再確認すべきである。

3 分析のまとめと指導上の改善

<分析のまとめと課題>

(1) リスニングの力について

中学前半くらいまでに学習する基本的な内容であれば、「英語を聞く力」は概ね身に付いている。しかし、ある程度のまとまりのある文章や、少し複雑な文構造に対しては、理解力が不足している。

簡潔で基礎的な表現については概ねよく理解できている。

中学校後半以降に学習する文法・語法を使った英文、位置関係など情報整理が要求される英文では、内容を理解する力が不足している。

課題1：それぞれの学習段階で英文を聞く機会が足りず、文の構造を理解する力が不足している。

(2) 語彙・熟語・文法の力について

正答率が50%を超えたのは12問中2問のみで、中学校レベルの基本的な文法・語法力を問う問題については、正答率が高かった。一方、高校1年生レベルの学習事項に関しては定着にばらつきがみられ、低正答率のものでは2割台が2問、3割台が4問あり、慣用表現の定着不足や、文法力以外の論理的な思考が求められる問題への不慣れが目立った。

中学レベルの基本的な語彙、文法・語法については、一定の定着が図られている。高校で初めて学習する語彙・熟語・文法を正しく使用できるレベルまで到達していない。

課題2：高校段階で学習する語彙・熟語・文法の知識が正確に身につけていない。

(3) 表現する力について

中学レベルの基本的な語彙・文法・構文は高校で繰り返し復習することによって定着してきている。加えて、高校段階の文法・構文

<指導上の改善ポイント>

聞き取りの力を向上させるため、理解の土台となる語彙や基礎的な文法・語法の定着を図るとともに、英語を聞かせる機会を多く設ける。

生徒のつまずきの段階を把握するとともに、必要に応じて「中学校の学習内容」も含めて、基礎的な語彙や文法・語法の定着を図る。

英語を聞く機会を多く設ける。

聞き取りの際に注意させたい文法・語法または内容など、ポイントやヒントを適宜与え、目的を持ったリスニング活動を多く行う。

正確な聞き取りや情報整理を助けるためのメモの取り方を身に付けさせる。

正確な語彙力、文法・語法力を養うとともに、読む・書く・聞く・話すの4技能をバランスよく使用しながら、反復練習を繰り返してその定着を図る。

練習問題や小テストなどのトレーニングを何度も繰り返すことにより、高校レベルの語彙・文法の知識の定着を図る。

生徒の実態を考慮しながら、オーラル・コミュニケーション以外の授業でも英語使用の機会を増やし、学習内容が運用レベルに到達するよう目指す。

A L Tを活用した会話中心の授業においても、既習の単語・文法事項を仲立ちとして、語彙力・文法力の向上に関連付ける。

語彙力を高めながら表現する力を育成するために、英語で読む・書く・聞く・話すためのタスクの活用を図る。

も大まかには理解しているようだが、語彙や語法レベルを上げたときにも正しく使って表現できるかが問われる。

中学校英語の基本的な定型表現はある程度身に付いている。

高校で初めて学習する文法・構文はある程度活用できつつあるが、語彙・語法レベルを上げながら活用できるレベルまで到達できるかがポイント。

課題3：高校段階で学習する文法や構文を豊富な語彙を用いて英文を構成する力の育成が必要。

(4) 読解する力について

長文読解及び正確な情報処理能力をつけるためには、ある程度の語彙力と基本的な文法事項が定着していることが必要である。また短時間で正確に必要な情報を読みとり、その概要を理解するためには、読解に必要な論理的思考力を日頃から養成していかなければいけない。ただ単に英文を理解できるレベルではなく、必要な情報を正確に読みとり、段落の構成や文脈の展開、書き手の意向について把握する力を養成する必要がある。

基本的な単語から類推し、長文の大まかな内容を把握することはできる。

語彙力や基本的な文法事項の習得が不十分で速読に対応できていないため、短時間で正確に内容を読みとり、必要な情報を整理することができない。

課題4：英文の内容を正確に理解し、必要な情報を読みとり、書き手の意向を理解するために必要な読解力が不足している。



新出の文法や構文は理解させるだけでなく、説明した後に整序作文や自由作文などの練習問題に取り組みせ、実際に使う機会を与える。

コミュニケーション活動において、身に付けさせたい文法・構文を何度も使うようなタスクを工夫する。

単語や熟語はできる限り文または句の単位で練習させ、語法を理解するとともに運用につながるよう図る。宿題や小テストで単語・熟語だけでなく、新出の文法や構文を使った簡単な英文も書かせるなど、より確実な定着を図る。

読解力及び情報処理能力を養成するために、語彙と基本的な文法事項の定着を強化するとともに、言語材料の理解だけにとどめず、内容の把握を重視して指導する。更に文章や段落の構成、文脈の展開などを踏まえて読みとるように指導することが大切である。

語彙指導と文法事項を定着させるための具体的な取り組みを強化する。

Q and A や T or F 等により、日本語を介さず英語による理解を促す。英語特有の論理構造の理解を促すために、スキミングやスキニング、パラグラフ・リーディング等の様々な読解指導を体系的に行う。

英文を読んだ後に要約させたり、意見や感想を書かせる等の情報を整理しまとめさせる活動を取り入れる。精読だけではなく、短時間で必要な情報と概要を把握できるように速読の指導を計画的に行う。

スラッシュリーディングやCDを使用した eye-shadowing を行い、黙読・音読のレベルを向上させる。

英語教育現場では、学んだ事項を実践的に運用する“コミュニケーションレベル”まで到達させることが望まれる。そのためには英語表現の根幹となる語彙・語法・文法・構文の更なる定着を図る必要があるだろう。これらの土台を踏まえて4技能の向上につなげていくことが理想的であるといえる。そして、このような理想を現実化させるために生徒の motivation を高める工夫も同時に不可欠である。例えば、ALTの上手な活用や、英語を使用する様々な場面を設定して“英語を使う機会”をなるべく多くする工夫も大切であろう。

学科群別正答率一覧

問題番号	記号	正答	全体正答率	英語A				英語B				
				全体	普通科	職業系 専門学科	その他 の学科	全体	普通科	職業系 専門学科	その他 の学科	
全体平均正答率			41.8	31.4	33.7	28.8	29.8	50.3	50.0	34.2	57.8	
1 リスニング	(1)	ア	3	33.9	29.7	30.0	29.2	46.4	39.2	38.8	27.8	47.2
	(2)	イ	4	47.9	34.0	36.8	30.4	39.1	65.6	65.1	41.8	77.1
	(3)	ウ	2	55.2	39.0	43.2	34.7	24.0	75.7	75.3	46.8	86.6
2 リスニング	(1)	エ	2	64.4	53.2	56.7	49.2	33.7	78.8	78.5	51.9	88.7
	(2)	オ	4	22.1	14.7	14.5	14.6	12.8	31.5	30.5	20.3	47.9
	(3)	カ	3	28.2	22.2	22.6	21.9	16.5	35.8	35.1	25.3	47.7
	(4)	キ	3	24.6	20.4	19.3	22.4	17.9	29.9	29.4	26.6	37.6
3 リスニング	(1)	ク	3	35.5	33.4	34.4	31.8	23.9	38.2	38.1	30.4	41.8
	(2)	ケ	3	31.3	25.0	25.8	24.5	26.9	39.3	38.7	26.6	49.7
	(3)	コ	4	28.6	27.5	26.9	28.0	26.3	30.0	29.7	39.2	32.0
4 文法・ 語法	(1)	サ	2	43.2	31.7	33.0	29.9	29.2	57.9	57.5	26.6	69.1
	(2)	シ	1	20.4	16.7	18.1	14.7	15.2	25.2	25.4	15.2	25.3
	(3)	ス	4	33.5	26.5	26.6	26.4	24.6	42.3	41.7	27.8	54.4
	(4)	セ	3	52.5	34.8	42.4	26.2	38.1	75.0	74.6	39.2	88.9
	(5)	ソ	2	46.7	32.8	37.3	27.9	38.3	64.4	63.7	38.0	79.9
	(6)	タ	4	39.2	27.8	32.1	22.7	19.4	53.9	53.6	36.7	61.1
	(7)	チ	3	31.0	35.0	33.5	36.4	26.5	25.9	25.7	49.4	23.2
	(8)	ツ	1	35.9	27.0	28.8	24.7	20.1	47.3	47.3	20.3	52.1
	(9)	テ	3	47.0	39.4	42.4	36.2	40.2	56.7	55.7	57.0	70.9
	(10)	ト	2	53.6	43.6	45.7	41.9	31.8	66.4	66.1	25.3	78.6
	(11)	ナ	4	48.1	39.5	41.6	35.9	42.7	59.1	58.7	46.8	68.3
	(12)	ニ	1	25.3	25.5	24.8	26.7	33.1	25.0	24.7	22.8	30.2
5 整序	(1)	ヌ	4	45.7	27.7	35.0	19.1	33.5	68.7	68.2	27.8	84.0
	(2)	ネ	2	68.8	57.1	63.3	50.0	44.1	83.7	83.6	67.1	88.4
	(3)	ノ	1	56.1	44.7	49.6	39.4	30.0	70.6	70.5	40.5	78.4
	(4)	ハ	3	62.3	47.3	55.6	38.4	43.1	81.4	81.1	58.2	89.9
	(5)	ヒ	4	57.1	39.5	46.8	31.1	36.2	79.5	79.3	46.8	89.7
6 紹介文	(1)	フ	4	26.3	13.5	15.5	11.5	26.6	42.5	42.1	15.2	54.1
	(2)	ヘ	2	57.2	45.2	49.1	39.7	42.4	72.5	72.3	49.4	81.2
	(3)	ホ	3	54.8	38.6	45.0	31.2	28.4	75.3	74.8	49.4	88.4
	(4)	マ	1	24.9	17.9	18.0	17.1	21.7	33.8	33.4	7.6	45.1
	(5)	ミ	2	36.6	29.9	30.6	29.4	46.1	45.0	44.8	36.7	50.0
7 選択型 A	(1)	ム	3		23.9	22.6	25.0	34.2				
	(2)	メ	3		32.7	36.5	28.5	22.4				
	(3)	モ	1		26.0	24.7	27.5	26.5				
	(4)	ヤ	2		24.1	23.4	24.7	22.7				
	(5)	ユ	4		14.4	13.1	16.0	17.0				
7 選択型 B	(1)	ム	4						31.1	31.3	12.7	31.7
	(2)	メ	1						23.6	24.0	27.8	16.8
	(3)	モ	1						39.1	39.5	21.5	37.6
	(4)	ヤ	3						27.4	27.2	30.4	29.9
	(5)	ユ	3						22.5	22.7	31.6	17.0
	(6)	ヨ	2						39.2	39.0	36.7	42.5

平成22年度 みやぎ学力状況調査 質問紙調査結果(2学年)

Q1 高校卒業後、進みたいと考えている進路のうち、現在最も強く希望しているのは次のうちどれですか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H21	
18.9%	39.7%	49.9%	24.5%	22.7%	34.1%	34.7%	31.7%	4年制国公立大学
14.5%	21.3%	19.0%	11.6%	11.5%	16.2%	10.6%	16.5%	4年制私立大学
2.9%	2.0%	2.3%	4.4%	3.1%	2.8%	3.3%	3.2%	短期大学
16.7%	13.8%	11.0%	19.5%	21.3%	15.8%	16.2%	15.7%	専修学校・各種学校
32.5%	14.1%	8.6%	27.0%	25.0%	19.1%	15.5%	20.9%	民間就職
3.7%	2.4%	2.7%	4.6%	5.8%	3.7%	4.0%	3.0%	公務員就職
0.3%	0.2%	0.2%	0.2%	0.5%	0.3%	0.3%	0.2%	家業
7.6%	5.4%	4.9%	6.5%	8.4%	6.2%	13.5%	7.2%	未定
1.9%	1.1%	1.0%	1.6%	1.6%	1.4%	1.8%	1.4%	その他
1.0%	0.1%	0.4%	0.2%	0.1%	0.3%	0.1%	0.1%	記入ミス・無答

- ・進学希望者(～)は68.9%で、1年次と比べ4.1ポイント増加。
 - ・4年制大学・短大への進学希望者(～)は53.1%で、1年次と比べ4.5ポイント増加。
 - ・就職希望者(～)は23.1%で、1年次と比べ3.3ポイント増加。
 - ・の未定と のその他を選択した者合わせて7.6%で、1年次と比べ7.7ポイント減少。
 - ・大学進学希望が就職希望に集中し、専修・各種学校への進学希望と未定が減少 卒業後の進路希望がより具体化。
- 進路指導、個人面談、キャリア教育等の充実による進路希望へのサポート、未定者へのアドバイスが行われた結果が未定者の減少につながっていると思われるが、継続した指導が必要と考えられる。**

Q2 自分の進路希望の達成について、どのように考えていますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H21	
62.7%	60.3%	61.9%	59.5%	60.7%	60.9%	52.0%	59.0%	卒業までに絶対達成しようと思っている。
8.6%	8.8%	7.5%	8.8%	9.6%	8.5%	10.3%	8.3%	達成するまで、卒業後1、2年かかってかまわないと思っている。
15.0%	17.2%	16.9%	19.6%	16.5%	17.2%	21.8%	19.6%	卒業までに達成できなければ他の進路に変えてもいいと思っている。
8.6%	9.5%	9.6%	8.0%	8.6%	9.0%	10.2%	8.8%	何とかなるだろうと思っている。
4.3%	4.0%	3.6%	3.8%	4.3%	3.9%	5.5%	4.1%	あまり考えないようにしている。
1.0%	0.2%	0.6%	0.3%	0.3%	0.4%	0.2%	0.2%	記入ミス・無答

- ・進路の達成に向けては、1年次よりも「卒業までに絶対達成しようと考えている者」が8.9ポイントも増加。
 - ・のような進路意識の希薄な層が、1年次よりも2.8ポイント減少して、進路に対しての強いこだわりが表れてきている。
- 今後は、進路に対する強い意志をもつ者がさらに増加するような働きかけが重要である。**

Q3 普段どんな気持ちで勉強していますか。最も強く思っているものを選んでください。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H21	
9.9%	10.6%	11.9%	9.7%	9.0%	10.4%	11.4%	9.6%	分からないことでも自分の力で答えを見つけられるようになりたい。
13.9%	13.4%	12.8%	15.1%	13.9%	13.7%	12.8%	13.6%	多くのことを知り社会に出て役立つ力を身につけたい。
14.1%	16.0%	16.6%	15.0%	15.5%	15.7%	13.0%	16.3%	入学試験や就職試験に備えたい。
1.7%	0.8%	1.1%	1.0%	1.2%	1.1%	1.1%	1.0%	親や先生にほめられたい。
32.3%	34.0%	32.7%	33.5%	32.8%	33.1%	34.2%	33.5%	成績を上げたい。
2.3%	1.9%	2.2%	2.2%	2.2%	2.1%	2.9%	2.3%	先生や家族に言われるから勉強している。
21.6%	20.1%	19.2%	20.2%	22.5%	20.5%	21.1%	21.0%	特に考えていない。
2.5%	2.9%	2.7%	2.7%	2.3%	2.6%	3.1%	2.6%	その他
1.7%	0.2%	0.8%	0.6%	0.7%	0.7%	0.4%	0.3%	記入ミス・無答

- ・1年次同様、 の成績向上を意識して勉強している者が33.1%と高い。
- ・の知的好奇心・探究心や社会で役立つことを意識している者が合わせて24.1%いる。
- ・の進路を意識して勉強している層が1年次と比べ2.7ポイント増加。
- ・の学習に消極的な層は全体の25.2%で、1年次よりは1.9ポイント減少している。

Q4 学校の授業の内容がどの程度理解できますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H21	
6.5%	7.0%	7.3%	6.2%	6.0%	6.7%	6.9%	7.3%	ほとんどの授業がよく理解できる。
32.7%	37.1%	38.1%	36.0%	36.4%	36.6%	38.2%	37.6%	理解できる授業の方が多い。
46.2%	42.1%	40.5%	45.0%	44.2%	43.1%	42.2%	41.4%	理解できる授業と理解できない授業が半分くらいずつある。
11.6%	10.8%	10.5%	9.7%	10.0%	10.4%	9.8%	10.9%	理解できない授業の方が多い。
2.2%	2.8%	3.0%	2.6%	2.6%	2.7%	2.3%	2.4%	ほとんどの授業が理解できない。
0.8%	0.2%	0.6%	0.5%	0.7%	0.5%	0.5%	0.4%	記入ミス・無答

- ・だいたい理解できると回答した者は と を合わせて43.3%で1年次と比べ1.8ポイント減少。昨年と比べ1.6ポイント減少。
 - ・あまり理解できないと回答した者は と を合わせて13.1%で1年次と比べ1.0ポイント増加。
 - ・の理解できる授業と理解できない授業が半々という層が増加しており、全体としては、授業が分かると感じている層が減っている。
- 学年進行に従って分かる授業に向けての各学校での工夫・改善に向けての取組のさらなる充実が必要である。**

Q5 授業で分からないことがあったら、どうすることが多いですか(該当するものをすべて選んでください)。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H21	
51.2%	59.4%	57.9%	55.7%	70.0%	59.3%	58.7%	56.3%	自分で調べる。
36.9%	37.4%	34.0%	39.6%	35.3%	36.4%	34.2%	36.8%	学校の先生に質問する。
67.4%	71.4%	70.0%	74.5%	64.3%	69.9%	74.1%	71.4%	友達に聞く。
14.1%	15.7%	14.2%	13.2%	11.8%	13.9%	20.0%	12.1%	家族に聞く。
9.7%	12.7%	13.1%	9.9%	11.9%	11.8%	13.1%	11.6%	塾・予備校や家庭教師の先生に質問する。
19.9%	21.8%	19.6%	21.2%	18.1%	20.2%	20.6%	20.2%	そのまましておく。
2.9%	3.0%	2.1%	2.5%	3.3%	2.7%	3.8%	3.2%	その他

- ・ は主に学校内で解決を図るものであるが、そのうち最も多いのが「友達同士で解決する」場合である。
 - ・ 3番目の「学校の先生に質問する」は1年次よりも2.2ポイント増加。
 - ・ の「家族に聞く」は1年次より6.1ポイント減少。
- 「そのままにしておく」と回答した者は1年次より0.4ポイント減少しているが、全体の約2割を占めており、生徒の理解度を計画的にチェックする等の教員の工夫が必要である。**

Q6 次の教科のうち、最も得意だと感じる教科はどれですか。また、最も不得意だと感じる教科はどれですか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H21	得意教科
23.6%	18.8%	19.9%	19.0%	19.2%	19.7%	19.3%	19.4%	国語
9.4%	17.4%	16.1%	11.8%	15.3%	14.7%	10.8%	14.0%	地理歴史
1.8%	2.5%	3.0%	2.4%	2.8%	2.6%	4.1%	2.3%	公民
17.9%	20.3%	21.3%	20.1%	18.9%	20.0%	21.2%	21.6%	数学
8.8%	10.3%	10.5%	11.6%	10.8%	10.5%	12.2%	7.9%	理科
14.1%	14.4%	16.9%	14.5%	11.5%	14.5%	15.6%	14.9%	英語
11.9%	7.0%	4.6%	9.2%	10.8%	8.0%	6.7%	8.2%	専門教科
11.1%	8.8%	7.2%	11.0%	10.0%	9.3%	9.3%	11.0%	その他
1.4%	0.5%	0.5%	0.4%	0.7%	0.6%	0.8%	0.6%	記入ミス・無答

- ・ 数学、国語、地理歴史、英語、理科の順番。
- ・ 1年次と比べると、地理歴史が3.9ポイント増加している。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H21	不得意教科
7.6%	14.0%	15.9%	11.9%	13.2%	13.3%	11.9%	12.7%	国語
13.8%	10.5%	7.2%	12.3%	7.3%	9.7%	10.8%	10.2%	地理歴史
3.2%	1.6%	1.4%	2.1%	1.5%	1.8%	3.0%	1.7%	公民
32.6%	31.6%	37.2%	32.3%	35.0%	34.1%	30.6%	31.1%	数学
5.7%	8.3%	8.4%	6.7%	5.9%	7.3%	8.9%	10.7%	理科
27.8%	29.6%	26.2%	28.1%	30.5%	28.3%	28.5%	26.3%	英語
4.8%	2.1%	1.4%	3.9%	3.8%	2.8%	3.5%	3.5%	専門教科
2.1%	1.7%	1.5%	1.9%	1.7%	1.7%	1.9%	2.3%	その他
2.3%	0.7%	0.8%	0.8%	1.2%	1.0%	1.0%	1.5%	記入ミス・無答

- ・ 1年次同様、数学、英語、国語、地理歴史、理科の順番である。
 - ・ 英語を不得意とする回答が、1年次よりわずかながら減少している。
 - ・ 数学、英語は1年次同様不得意が得意を上回っている。
- 数学又は英語を不得意と感じている生徒が6割を超えることから、それらの生徒に対し、学習習慣確立に向けての支援をする等の工夫が必要である。**

Q7 学校からどのくらいの割合で宿題・課題が出されていますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H21	
10.8%	17.9%	20.8%	16.1%	9.9%	16.1%	17.4%	11.9%	ほとんど毎日出ている。
29.6%	36.4%	36.2%	31.1%	28.7%	33.1%	34.4%	28.3%	週に2～3回出ている。
42.0%	35.6%	34.5%	38.9%	42.4%	37.9%	33.9%	39.1%	週に1回くらい出ている。
16.7%	9.9%	8.3%	13.5%	19.0%	12.6%	14.1%	20.4%	ほとんど出していない。
1.0%	0.2%	0.2%	0.4%	0.1%	0.3%	0.2%	0.3%	記入ミス・無答

- ・ を合わせて、週あたり2回以上宿題・課題が出される割合が1年次と比べると2.6ポイント減少している。
- ・ ほとんど宿題が出されない割合は1年次よりも1.5ポイント減少しているものの、昨年度2年生より7.8%激減しており、2年生でも宿題・課題が課されている。

Q10の結果の1年次よりも家庭学習時間が減少していることから、2年次においても家庭学習習慣を確立していくための指導のさらなる工夫が必要であると思われる。

Q8 学校からどのくらいの割合でテスト(小テストや確認テストを含む)がありますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H21	
3.7%	13.1%	12.6%	10.4%	17.1%	12.1%	11.9%	11.1%	ほとんど毎日ある。
30.8%	40.5%	44.1%	34.2%	26.2%	36.6%	31.2%	31.1%	週に2～3回ある。
39.6%	26.8%	32.6%	26.2%	31.4%	30.6%	31.5%	32.6%	週に1回くらいある。
24.0%	19.2%	10.3%	28.9%	25.0%	20.2%	25.1%	24.3%	ほとんどない。
1.9%	0.3%	0.4%	0.2%	0.2%	0.5%	0.2%	0.9%	記入ミス・無答

- ・ を合わせて、週1回以上テストが行われる割合は79.3%である。
- ・ ほとんど実施しない割合は20.2%である。

日常の授業における小テストの実施率は高まっているものの、Q4の結果から、分かる授業に向けての各学校の工夫・改善が求められる。

Q9 あなたが受けた授業はどんな授業ですか、最も近いものを選んでください。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H21	
34.4%	34.2%	32.8%	35.8%	33.7%	34.0%	35.4%	31.2%	基礎・基本からじっくり分かるまで教えてくれる授業
5.6%	6.6%	7.4%	5.1%	5.5%	6.2%	6.3%	6.4%	発展的な内容まで教えてくれる授業
40.2%	38.9%	41.5%	35.8%	37.1%	38.8%	38.9%	40.5%	興味や関心がもてるような授業
11.9%	15.9%	15.4%	15.7%	16.3%	15.4%	13.9%	15.9%	進路希望達成につながる授業
7.0%	4.4%	2.7%	7.2%	7.3%	5.3%	5.3%	5.9%	資格取得につながる授業
1.0%	0.1%	0.2%	0.4%	0.2%	0.3%	0.2%	0.2%	記入ミス・無答

- ・ の基礎・基本からじっくり分かるまで教えてくれる授業を期待する声が前年2年生と比べて2.8ポイント増加している。
 - ・ の進路希望達成につながる授業を期待する声は1年次より1.5ポイント増加。
- 生徒の発達段階・学習進度や学習内容の深まりに合わせ、生徒の探究心を向上させるための授業改善や体制づくり等、各校の取組が望まれる。**

Q10 平日(テスト期間や長期休業中などを除く通常の月曜日から金曜日)に、学校の授業時間以外にどのくらい勉強していますか。(塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含む。)

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H21	
39.9%	34.4%	28.0%	34.3%	41.0%	34.4%	30.4%	37.6%	全く、またはほとんどしない。
13.5%	11.5%	12.9%	12.1%	11.8%	12.3%	12.4%	12.3%	30分より少ない。
13.6%	17.2%	19.0%	16.5%	14.4%	16.7%	17.2%	15.0%	30分～
20.9%	23.5%	25.3%	24.5%	20.4%	23.3%	25.4%	21.5%	1時間～
8.6%	10.4%	11.5%	10.3%	10.0%	10.4%	11.4%	10.3%	2時間～
1.9%	2.1%	2.4%	1.6%	1.6%	2.0%	2.3%	2.4%	3時間～
0.1%	0.5%	0.4%	0.2%	0.2%	0.3%	0.5%	0.5%	4時間～
0.5%	0.3%	0.3%	0.2%	0.4%	0.3%	0.3%	0.3%	5時間以上
1.0%	0.1%	0.2%	0.3%	0.2%	0.3%	0.2%	0.1%	記入ミス・無答

- ・ 平日に家庭学習しない者は34.4%にのぼり、昨年より3.2ポイント減少しているものの、1年次よりも4.0ポイント増加し全体の回答の第1位を占めている。
 - ・ ~ の家庭学習にしっかり取り組んでいる層は13.0%で、1年次とほぼ同程度。30分～1時間前後に回答が集まる傾向。
 - ・ ~ の合計は1年次より1.3ポイント昨年度より0.3ポイント微増。全体の86.7%が2時間未満の家庭学習時間となっている。
- 2年次においても継続的に家庭学習定着のための意識付け及び学習時間増加へのさらなる取組が望まれる。**

Q11 休日に、どのくらい勉強していますか。(塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含む。)

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H21	
39.2%	30.9%	21.9%	34.3%	38.9%	31.4%	28.5%	36.0%	全く、またはほとんどしない。
10.8%	9.3%	8.5%	10.4%	9.6%	9.5%	9.7%	9.0%	30分より少ない。
11.5%	11.8%	11.9%	11.9%	11.5%	11.8%	11.9%	10.6%	30分～
15.9%	19.5%	24.3%	18.9%	17.8%	20.0%	20.5%	17.4%	1時間～
13.2%	16.3%	17.3%	14.4%	12.9%	15.2%	16.0%	14.4%	2時間～
4.6%	6.9%	8.6%	6.1%	5.6%	6.7%	8.1%	7.2%	3時間～
1.5%	3.1%	3.8%	2.2%	1.8%	2.7%	2.7%	3.1%	4時間～
0.9%	1.2%	1.8%	0.7%	0.8%	1.2%	1.4%	1.2%	5時間～
0.3%	0.4%	0.9%	0.4%	0.4%	0.6%	0.6%	0.6%	6時間～
0.2%	0.4%	0.6%	0.2%	0.4%	0.4%	0.4%	0.5%	7時間以上
1.8%	0.2%	0.3%	0.4%	0.3%	0.5%	0.3%	0.2%	記入ミス・無答

- ・ 休日に家庭学習をしない者が1年次より2.9ポイント増加し、平日より3.0ポイント低くなっている。
 - ・ ~ の回答から、休日に2時間以上の家庭学習をしている者の割合は1年次よりも2.4ポイント減少。
- Q10とあわせて、2年次の家庭学習への取組が今後の大きな課題であり、各校での取組の改善が望まれる。**

Q12 家庭学習の仕方に、最も近いものはどれですか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H21	
12.0%	15.4%	18.5%	16.3%	12.1%	15.4%	15.7%	15.0%	ほぼ毎日している。
5.6%	4.4%	4.2%	5.3%	4.7%	4.7%	5.1%	4.4%	主に平日にしている。
6.3%	6.4%	8.1%	5.7%	5.6%	6.6%	7.0%	5.6%	主に休日にしている。
18.9%	18.4%	17.0%	18.5%	20.1%	18.4%	15.5%	19.2%	主に定期考査前にしている。
6.6%	5.6%	6.4%	4.8%	5.0%	5.7%	5.9%	4.8%	主に宿題・課題のあるときにしている。
18.0%	25.7%	23.1%	24.6%	23.2%	23.5%	25.8%	24.9%	主に宿題・課題があるときと定期考査前にしている。
1.5%	1.8%	1.1%	1.0%	1.5%	1.3%	1.5%	1.3%	主に塾・予備校のあるときや家庭教師の先生がくるときにしている。
14.1%	11.1%	11.8%	10.9%	13.2%	12.0%	13.3%	11.4%	気が向いたときにしている。
15.1%	10.4%	8.8%	11.6%	12.5%	11.1%	8.7%	12.1%	家庭学習はほとんどしない。
1.1%	0.8%	0.8%	1.1%	1.8%	1.1%	1.1%	1.2%	その他
0.7%	0.1%	0.2%	0.2%	0.3%	0.3%	0.3%	0.2%	記入ミス・無答

- ・ の毎日学習する層が1年次に比べ0.3ポイント減少しているが、昨年に比べ0.4ポイント増加している。
 - ・ の家庭学習をほとんどしない割合も1年次に比べ2.4ポイント増加、の定期考査前、宿題・課題のあるときにしている者は41.9%で、1年次より0.6ポイントの増加。
- 2年次において学習意欲が低下し、その場しのぎの学習しかしない者が1年次よりも増えているものと思われる。**
- 家庭学習の習慣が身に付いていると考えられるの合計は20.1%で1年次よりも0.7ポイント減少しており、依然約8割の生徒は家庭学習の習慣を身に付けていない。
- 学校と家庭の連携、授業を中心とした学校の体制づくりを通じた、家庭学習の推進が望まれる。**

Q13 次の教科のうち、家庭学習で最も力を入れて取り組んでいる教科はどれですか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H21	
6.0%	4.9%	3.9%	7.3%	4.8%	5.2%	5.2%	4.7%	国語
8.3%	5.3%	6.5%	5.6%	6.8%	6.3%	5.0%	6.2%	地理歴史
0.9%	0.5%	1.1%	0.7%	0.9%	0.8%	1.8%	0.9%	公民
29.9%	45.6%	46.7%	32.8%	33.9%	39.5%	40.0%	37.9%	数学
5.4%	4.2%	3.5%	3.8%	5.6%	4.3%	5.4%	4.1%	理科
17.1%	24.2%	28.9%	26.1%	21.7%	24.6%	25.3%	25.0%	英語
19.5%	7.4%	2.4%	12.7%	13.4%	9.5%	8.5%	10.2%	専門教科
11.6%	7.6%	6.7%	10.6%	12.3%	9.3%	8.4%	10.7%	その他
1.2%	0.3%	0.3%	0.3%	0.6%	0.5%	0.4%	0.3%	記入ミス・無答

- ・1年次同様、数学、英語に力を入れて取り組んでいる割合が高い。
- ・Q6の不得意教科は、数学、英語という回答が多い。

Q14 家庭学習をする上で悩んでいることはありますか。最も近いものを選んでください。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H21	
15.6%	12.4%	14.1%	16.9%	15.2%	14.6%	14.8%	13.4%	家庭学習の方法が分からない。
27.6%	32.2%	31.7%	26.9%	27.8%	29.7%	27.3%	29.5%	家庭学習に集中できない。
14.5%	14.9%	15.5%	15.1%	15.0%	15.1%	15.1%	15.7%	学習の計画を立てても長続きしない。
15.2%	17.2%	16.3%	14.4%	13.9%	15.6%	18.5%	14.8%	家庭学習と部活動の両立が難しい。
6.4%	6.3%	6.2%	7.2%	5.7%	6.4%	6.7%	6.9%	家庭学習を一生懸命やっても成績が伸びない。
2.9%	3.9%	3.5%	3.4%	3.6%	3.5%	3.4%	3.7%	その他
17.0%	13.0%	12.3%	15.7%	18.3%	14.8%	14.1%	15.9%	特に悩みはない。
0.8%	0.1%	0.3%	0.4%	0.3%	0.3%	0.2%	0.1%	記入ミス・無答

- ・8割以上の者が何らかの悩みを抱えていることがわかる。
- ・「家庭学習と部活動の両立が難しい」とする者が1年次よりも減少。「家庭学習に集中できない」とする者が2.4ポイント増加。**集中を阻害する要因を探りながら家庭学習に集中できる環境づくりを保護者に考えてもらうよう、家庭との連携を進めていく必要がある。**また、「家庭学習を一生懸命やっても成績が伸びない」とするものが一定の数で維持されており、**学習意欲がわからないことにも大きく関わるものと考えられる。授業や学習カウンセリング等を通して、具体的な学習方法について指導する必要がある。**

Q15 学校に行く前に朝食をとりますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H21	
68.1%	76.2%	78.0%	72.8%	71.8%	74.3%	77.2%	73.5%	必ずとる。
17.0%	13.9%	13.0%	15.4%	14.8%	14.4%	13.0%	14.3%	たいていとる。
6.7%	4.8%	5.0%	5.6%	6.7%	5.5%	5.1%	6.1%	とらないことが多い。
7.5%	5.0%	3.8%	6.0%	6.4%	5.4%	4.4%	5.9%	全く、または、ほとんどとらない。
0.7%	0.2%	0.3%	0.3%	0.3%	0.3%	0.2%	0.1%	記入ミス・無答

- ・朝食を必ずとる生徒は昨年より0.8ポイント増加しているが、学年進行とともに朝食をとらないことが習慣化する生徒が増加している傾向が見られる。**数学・国語・英語三教科とも、朝食の習慣化と基礎学力定着度との相関関係が明確であり、朝食をとらない習慣が学校生活に及ぼす影響を、生徒だけでなく家庭にも周知していく必要がある。**

Q16 平日に、家の中で最も時間をかけて行っていることは何ですか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H21	
4.4%	6.5%	9.5%	5.5%	4.6%	6.6%	6.4%	6.1%	家庭学習
21.5%	23.4%	23.3%	24.0%	23.2%	23.2%	25.1%	26.3%	テレビやビデオ
14.5%	15.1%	14.5%	14.2%	13.5%	14.4%	14.0%	15.0%	ゲームやパソコン
23.0%	14.8%	14.7%	20.9%	20.0%	17.8%	18.3%	16.0%	電話やメール
3.2%	3.0%	2.8%	3.2%	3.6%	3.1%	3.6%	3.2%	読書
16.3%	17.9%	16.8%	17.0%	17.6%	17.2%	16.1%	16.6%	自分の趣味
3.4%	4.6%	4.4%	3.7%	4.6%	4.3%	4.3%	3.9%	家族との会話
1.3%	1.3%	1.2%	1.5%	1.2%	1.3%	1.3%	1.5%	手伝い
11.2%	13.0%	12.4%	9.6%	11.0%	11.6%	10.7%	11.1%	その他
1.2%	0.4%	0.4%	0.4%	0.6%	0.5%	0.3%	0.4%	記入ミス・無答

- ・「テレビやビデオ」、「電話やメール」、「自分の趣味」の時間が多く、Q14の「家庭学習に集中できない」理由の一端を窺うことができる。この3項目を合わせると58.2%で1年次より1.3ポイント減少している。
- ・「電話やメール」は1年次より0.5ポイント減少しているものの、依然として高い割合である。**これらのことが家庭学習の時間を阻害している原因となっている。今後は一日の学習を計画的に行う習慣の育成が必要である。**

Q17 平日に、だいたいどのくらいテレビやビデオを見ますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次 H21		
7.9%	8.3%	9.8%	8.1%	7.7%	8.5%	6.9%	7.7%	全く、またはほとんど見ない。
7.1%	7.5%	9.2%	6.4%	6.7%	7.6%	6.3%	7.0%	30分より少ない。
10.3%	13.8%	14.1%	10.8%	10.0%	12.2%	10.9%	10.5%	30分～
23.9%	28.3%	30.9%	25.1%	23.9%	27.1%	24.6%	24.4%	1時間～
23.6%	22.2%	19.8%	23.7%	23.5%	22.2%	24.0%	23.4%	2時間～
13.3%	11.8%	9.1%	13.8%	14.8%	12.2%	15.0%	14.8%	3時間～
6.2%	4.4%	3.8%	6.3%	7.0%	5.3%	6.6%	6.7%	4時間～
6.0%	3.3%	2.7%	5.3%	6.1%	4.3%	5.2%	5.2%	5時間以上
1.6%	0.3%	0.6%	0.5%	0.3%	0.6%	0.5%	0.3%	記入ミス・無答

・3時間以上見ている者は21.8%であり、1年次よりも5.0ポイント、昨年度2年生よりも4.9ポイント減少してはいるが、依然として高い割合である。

Q18 平日に、だいたいどのくらいゲームやパソコンをしますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次 H21		
39.4%	40.3%	40.8%	42.3%	40.8%	40.8%	38.1%	38.2%	全く、またはほとんどしない。
12.6%	13.0%	13.9%	11.7%	13.0%	12.9%	12.4%	12.3%	30分より少ない。
11.9%	12.4%	13.4%	11.4%	10.8%	12.2%	13.4%	11.9%	30分～
16.3%	17.5%	16.7%	15.4%	17.0%	16.6%	17.4%	18.0%	1時間～
8.6%	9.1%	8.2%	9.1%	8.8%	8.7%	10.2%	10.3%	2時間～
5.0%	4.2%	3.5%	5.3%	5.0%	4.5%	4.6%	4.8%	3時間～
2.7%	1.6%	1.5%	2.2%	1.3%	1.8%	1.5%	1.7%	4時間～
2.2%	1.7%	1.5%	2.3%	3.1%	2.1%	2.0%	2.4%	5時間以上
1.2%	0.2%	0.5%	0.3%	0.2%	0.4%	0.4%	0.3%	記入ミス・無答

・1時間以上ゲームやパソコンを行っている者が、1年次よりも2.0ポイント、昨年度2年生より3.5ポイント減少しているものの33.7%と高い数値である。

Q19 平日に、だいたいどのくらい電話やメールをしますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次 H21		
16.4%	20.1%	19.2%	17.6%	18.2%	18.6%	14.9%	18.6%	全く、またはほとんどしない。
20.6%	26.1%	26.7%	21.5%	22.0%	24.0%	23.4%	22.7%	30分より少ない。
12.8%	15.3%	15.4%	13.7%	13.8%	14.5%	15.5%	13.3%	30分～
14.9%	13.5%	16.3%	14.4%	14.4%	14.8%	16.2%	14.3%	1時間～
14.7%	10.0%	9.3%	12.2%	10.6%	10.9%	11.2%	10.7%	2時間～
8.5%	6.2%	5.8%	8.6%	8.5%	7.3%	7.9%	8.1%	3時間～
3.5%	2.7%	2.6%	4.5%	3.6%	3.3%	3.8%	3.6%	4時間～
7.4%	5.9%	4.2%	7.0%	8.5%	6.3%	6.5%	7.8%	5時間以上
1.3%	0.2%	0.4%	0.5%	0.4%	0.5%	0.5%	0.9%	記入ミス・無答

・1時間以上電話やメールを行っている者は、1年次よりも3.0ポイント減少はしているが、42.6%を占めている。
「家庭学習に集中できない」大きな要因になっていると思われる。また、Q10での家庭学習を「全く、またはほとんどしない」は34.4%であり、生徒の生活状況が推測できる。

Q20 平日に、だいたいどのくらい読書(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く。)をしますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次 H21		
51.5%	59.6%	57.1%	53.6%	56.3%	56.2%	57.0%	58.8%	全く、またはほとんどしない。
21.6%	17.4%	19.8%	21.4%	17.9%	19.4%	18.4%	18.3%	30分より少ない。
11.8%	11.2%	11.5%	11.7%	10.8%	11.4%	11.3%	10.6%	30分～
8.8%	7.2%	7.0%	7.4%	8.5%	7.6%	7.7%	7.4%	1時間～
2.8%	2.7%	2.6%	3.1%	3.6%	2.9%	2.9%	2.4%	2時間～
1.6%	1.0%	1.0%	1.5%	1.6%	1.3%	1.3%	1.2%	3時間～
0.5%	0.3%	0.4%	0.5%	0.5%	0.4%	0.4%	0.4%	4時間～
0.7%	0.5%	0.3%	0.6%	0.5%	0.5%	0.7%	0.6%	5時間以上
0.7%	0.1%	0.3%	0.3%	0.2%	0.3%	0.3%	0.3%	記入ミス・無答

・1年次よりも0.8ポイント減少しているものの、6割近くの者が「全く、またはほとんどしない」状況である。
平日の読書はなお習慣化されていない状況である。朝読書や小論文指導で読書の時間を取り入れている学校が増加しているものの、読書の楽しさ等を伝える努力とともに、家庭や学校において習慣化を図る工夫が望まれる。

Q21 休日に、家の中で最も時間をかけて行っていることは何ですか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H21	
3.2%	4.6%	7.5%	2.8%	2.9%	4.6%	3.9%	4.1%	家庭学習
18.2%	21.4%	21.2%	22.4%	19.8%	20.9%	19.7%	20.8%	テレビやビデオ
15.6%	17.4%	16.3%	16.7%	16.1%	16.5%	17.8%	18.0%	ゲームやパソコン
15.8%	8.2%	7.7%	13.5%	12.7%	10.8%	11.1%	9.7%	電話やメール
2.7%	2.4%	2.2%	2.8%	2.5%	2.5%	2.6%	2.4%	読書
21.4%	24.8%	23.5%	22.2%	23.8%	23.4%	23.1%	22.6%	自分の趣味
3.1%	3.3%	2.9%	3.3%	2.6%	3.0%	3.1%	2.8%	家族との対話
1.1%	1.4%	1.5%	1.2%	2.0%	1.5%	1.8%	2.0%	手伝い
17.1%	16.2%	17.0%	14.5%	17.1%	16.4%	16.4%	17.2%	その他
1.8%	0.2%	0.3%	0.5%	0.5%	0.5%	0.5%	0.4%	記入ミス・無答

・「電話やメール」の割合は1年次と比べて0.3ポイント減少しているが、「テレビやビデオ」は増加している。本来、平日よりも多い割合になって欲しい「家庭学習」については、Q16の平日と比べると2.0ポイント低くなっている。

Q22 休日に、だいたいどのくらいテレビやビデオを見ますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H21	
6.6%	5.6%	6.8%	5.6%	5.6%	6.1%	4.9%	5.7%	全く、またはほとんど見ない。
4.2%	4.0%	4.5%	3.3%	4.3%	4.1%	2.9%	3.7%	30分より少ない。
4.3%	6.5%	6.0%	5.2%	5.5%	5.7%	4.6%	5.1%	30分～
14.1%	15.9%	19.2%	14.0%	14.1%	15.9%	13.9%	14.2%	1時間～
20.8%	23.1%	24.3%	21.1%	18.7%	22.0%	20.0%	20.6%	2時間～
18.4%	20.0%	18.4%	19.1%	19.6%	19.1%	19.7%	19.3%	3時間～
12.2%	9.8%	9.2%	10.8%	12.0%	10.5%	12.4%	12.2%	4時間～
7.3%	6.8%	5.5%	8.4%	8.6%	7.2%	9.7%	9.0%	5時間～
3.3%	3.6%	2.3%	4.6%	4.2%	3.5%	4.3%	3.7%	6時間～
7.5%	4.6%	3.4%	7.2%	6.7%	5.5%	6.9%	6.1%	7時間以上
1.4%	0.1%	0.4%	0.6%	0.5%	0.5%	0.7%	0.4%	記入ミス・無答

・3時間以上見ている者(～)は1年次よりも7.2ポイント減少し、45.8%である。
 ・5時間以上テレビやビデオを見ている者(～)は16.2%もあり、「家庭学習に集中できない」大きな理由となっていると考えられる。

Q23 休日に、だいたいどのくらいゲームやパソコンをしますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H21	
34.6%	32.2%	32.7%	35.8%	35.1%	33.8%	29.5%	31.3%	全く、またはほとんどしない。
10.2%	9.5%	10.5%	8.9%	9.8%	9.8%	9.3%	9.3%	30分より少ない。
8.5%	10.0%	10.6%	7.4%	9.2%	9.3%	9.5%	8.5%	30分～
15.7%	16.6%	17.6%	16.1%	15.0%	16.4%	16.7%	16.3%	1時間～
12.9%	13.2%	12.7%	12.0%	11.7%	12.5%	14.2%	13.9%	2時間～
7.5%	8.6%	7.5%	8.2%	7.7%	7.9%	9.3%	8.9%	3時間～
3.6%	3.8%	2.6%	4.2%	4.0%	3.5%	4.0%	4.2%	4時間～
2.5%	2.3%	2.6%	3.0%	3.0%	2.7%	2.7%	2.8%	5時間～
1.1%	1.0%	0.6%	0.9%	0.8%	0.8%	1.1%	1.1%	6時間～
2.8%	2.8%	2.3%	3.2%	3.2%	2.8%	3.0%	3.2%	7時間以上
0.8%	0.1%	0.3%	0.5%	0.5%	0.4%	0.6%	0.4%	記入ミス・無答

・Q18の平日と比較してゲームやパソコンを行う時間が長くなっている。
 ・1時間以上行っている者は平日より12.9ポイント多い状況である。

Q24 休日に、だいたいどのくらい電話やメールをしますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H21	
15.8%	18.4%	18.3%	16.1%	17.5%	17.5%	13.0%	17.7%	全く、またはほとんどしない。
16.3%	22.4%	21.7%	18.7%	18.5%	20.1%	19.2%	20.5%	30分より少ない。
11.8%	13.1%	14.2%	11.8%	11.3%	12.7%	13.8%	12.6%	30分～
14.4%	15.0%	15.8%	14.3%	13.9%	14.8%	15.7%	14.4%	1時間～
12.3%	10.2%	11.0%	11.6%	11.6%	11.2%	11.5%	10.7%	2時間～
9.8%	7.1%	7.1%	8.4%	8.1%	7.8%	8.7%	7.7%	3時間～
4.9%	4.2%	3.9%	5.4%	4.7%	4.5%	5.1%	4.9%	4時間～
4.7%	3.3%	3.3%	5.1%	4.4%	4.0%	4.4%	3.8%	5時間～
1.6%	1.5%	1.1%	2.4%	1.8%	1.6%	2.0%	1.8%	6時間～
7.4%	4.3%	3.2%	5.9%	7.6%	5.3%	6.0%	5.7%	7時間以上
0.9%	0.3%	0.4%	0.3%	0.6%	0.5%	0.5%	0.3%	記入ミス・無答

・1年次よりも「全く、またはほとんどしない」「30分より少ない」が合わせて5.4ポイント増加。
 10.9%が5時間以上も電話やメールに時間を割いており、家庭学習時間の確保の妨げになっている。

Q25 休日に、だいたいどのくらい読書(教科書や参考書,漫画や雑誌は除く。)をしますか。

南部 中部南 中部北 北部 東部 全体						1年次 H21		
60.9%	61.9%	59.1%	62.3%	60.2%	60.8%	58.3%	60.7%	全く、またはほとんどしない。
13.0%	12.6%	14.2%	12.6%	12.6%	13.1%	13.5%	12.8%	30分より少ない。
9.0%	9.3%	9.7%	8.8%	9.2%	9.3%	9.4%	9.3%	30分～
9.1%	8.6%	9.3%	8.1%	8.5%	8.7%	9.3%	8.8%	1時間～
3.2%	4.0%	4.2%	3.8%	4.3%	4.0%	4.7%	4.4%	2時間～
1.6%	1.7%	1.6%	1.9%	2.5%	1.8%	2.1%	1.9%	3時間～
0.9%	0.7%	0.6%	0.9%	0.9%	0.8%	0.9%	0.7%	4時間～
0.8%	0.3%	0.3%	0.6%	0.7%	0.5%	0.7%	0.5%	5時間～
0.3%	0.1%	0.2%	0.2%	0.3%	0.2%	0.3%	0.2%	6時間～
0.5%	0.6%	0.4%	0.5%	0.5%	0.5%	0.7%	0.4%	7時間以上
0.8%	0.1%	0.2%	0.3%	0.3%	0.3%	0.3%	0.2%	記入ミス・無答

・30分以内の者が73.9%と1年次よりもさらに読書時間が短くなっており、読書の習慣が身に付いているとは言えない。
 平日の読書時間が確保できない分、休日を利用して読書をする習慣付けなど、各校の指導の工夫が必要である。

まとめ

2年生の特徴として、

- ・1年次よりも進路希望未定者が7.3ポイント減少し進路希望が具体化してきており、その達成についての考えも、「達成するまで、卒業後1、2年かかってもかまわないと思っている」が1.8ポイント減少し、卒業までには実現したいと考えている層が8.9ポイント増えている。
- ・授業については、授業が理解できると回答した生徒が1年次に比べ1.8ポイント減少している。授業に関する点検が望まれる。
- ・週に2回以上宿題・課題が出される割合が1年次と比べると2.6ポイント減少しており、学校から出される宿題が1年次よりも減少している。

2学年においても引き続き家庭学習に取り組ませる方策を各教科で検討することが必要であり、また、1年次から少しずつ自分で課題を見つけ学習する姿勢を身に付けさせることも必要と思われる。

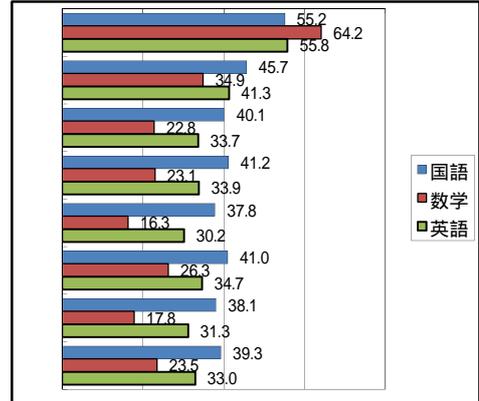
- ・「全く学習しない」者が、1年次より平日は4.0ポイント、休日は2.9ポイントも増加しており、家庭学習時間が平日、休日ともに減少してきている。
- ・どのようなときに学習するかについても「定期考査前」の者が18.4%に増えるなど、学習がその場しのぎの対応になっている。その反面、進路希望は具体化してきており、希望と学習に取り組む姿勢に矛盾が生じている。

希望進路を実現するためには、日頃どのように学習に取り組むかなどを適宜アドバイスし、明確な目標を定めさせ積極的に取り組ませるための指導の工夫が必要である。また、授業が理解できると回答した生徒が減少しており、教科に対する興味・関心をもち、探究心が育まれるような授業改善を行い、普段の授業等を通して「学ぶ喜び」をいかに与えていくか検討が必要である。今後も1年次より引き続き、読書時間を含めた家庭学習時間を計画的に確保し、平日だけでなく休日を効果的に活用する姿勢の育成が必要である。そのためには、過去の学習分野を繰り返し、粘り強く行う等、課題や小テストの実施についてさらなる工夫が求められる。また、学校に行く前に毎日朝食をとることなど、家庭の協力も得ながら、基本的な生活習慣を見直す機会を設け、繰り返し継続的に指導していくような踏み込んだ指導がなお一層求められる。

平成22年度 みやぎ学力状況調査 質問紙調査回答別正答率(教科との関連)(2学年)

Q1 高校卒業後、進みたいと考えている進路のうち、現在もっとも強く希望しているのは次のうちどれですか。

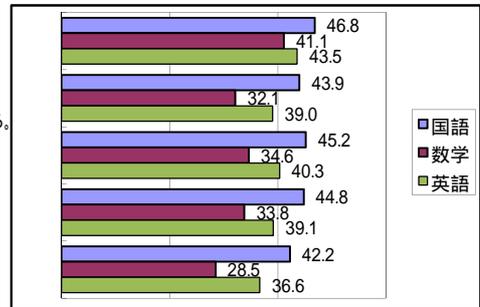
H22	1年次	
34.1%	34.7%	4年制国公立大学
16.2%	10.6%	4年制私立大学
2.8%	3.3%	短期大学
15.8%	16.2%	専修学校・各種学校
19.1%	15.5%	民間就職
3.7%	4.0%	公務員就職
0.3%	0.3%	家業
6.2%	13.5%	未定
1.4%	1.8%	その他
0.3%	0.1%	記入ミス・無答



グラフの数値は、国語、数学及び英語の正答率

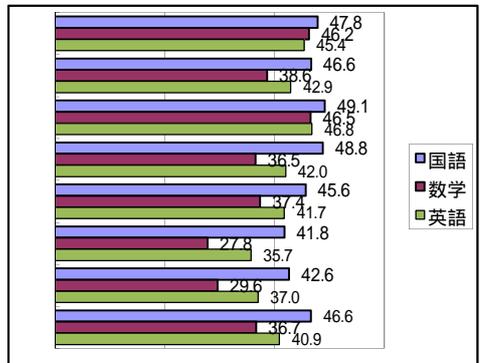
Q2 自分の進路希望の達成について、どのように考えていますか。

H22	1年次	
60.9%	52.0%	卒業までに絶対達成しようと思っている。
8.5%	10.3%	達成するまで、卒業後1,2年かかってかまわないと思っている。
17.2%	21.8%	卒業までに達成できなければ他の進路に変えてもいいと思っている。
9.0%	10.2%	何とかかなるだろうと思っている。
3.9%	5.5%	あまり考えないようにしている。
0.4%	0.2%	記入ミス・無答



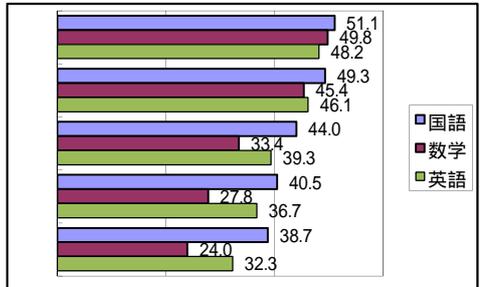
Q3 普段どんな気持ちで勉強していますか、最も強く思っているものを選んでください。

H22	1年次	
10.4%	11.4%	分からないことでも自分の力で答えを見つけられるようになりたい。
13.7%	12.8%	多くのことを知り社会に出て役立つ力を身につけたい。
15.7%	13.0%	入学試験や就職試験に備えたい。
1.1%	1.1%	親や先生にほめられたい。
33.1%	34.2%	成績を上げたい。
2.1%	2.9%	先生や家族に言われるから勉強している。
20.5%	21.1%	特に考えていない。
2.6%	3.1%	その他
0.7%	0.4%	記入ミス・無答



Q4 学校の授業の内容がどの程度理解できますか。

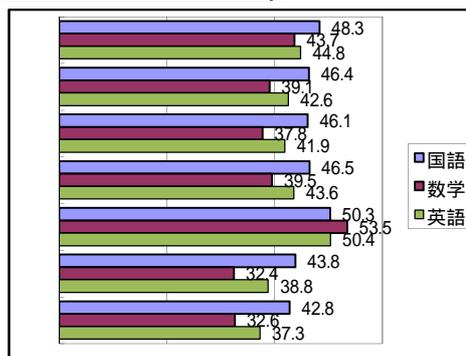
H22	1年次	
6.7%	6.9%	ほとんどの授業がよく理解できる。
36.6%	38.2%	理解できる授業の方が多い。
43.1%	42.2%	理解できる授業と理解できない授業が半分くらいずつある。
10.4%	9.8%	理解できない授業の方が多い。
2.7%	2.3%	ほとんどの授業が理解できない。
0.5%	0.5%	記入ミス・無答



Q5 授業で分からないことがあったら、どうすることが多いですか(該当するものをすべて選んでください)。

H22 1年次

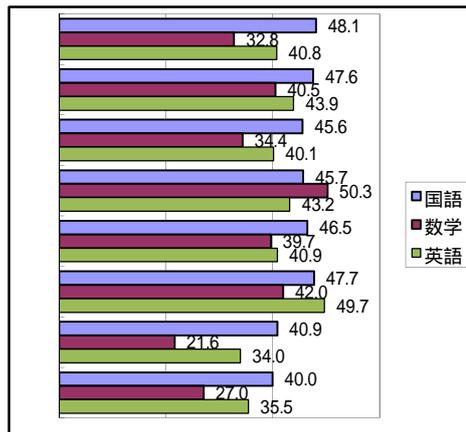
59.3%	58.6%	自分で調べる。
36.4%	34.1%	学校の先生に質問する。
69.9%	73.9%	友達に聞く。
13.9%	19.9%	家族に聞く。
11.8%	13.0%	塾・予備校や家庭教師の先生に質問する。
20.2%	20.6%	そのままにしておく。
2.7%	3.8%	その他
0.2%	0.4%	記入ミス・無答



Q6 次の教科のうち、最も得意だと感じる教科はどれですか。また、最も不得意だと感じる教科はどれですか。

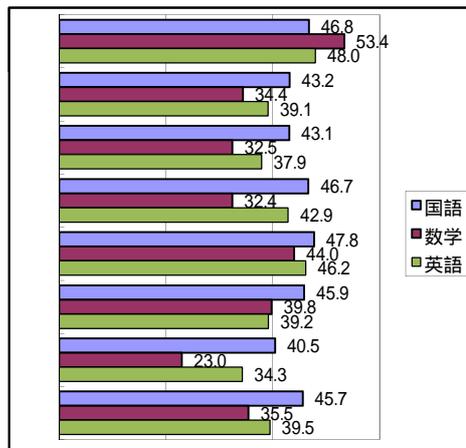
H22 1年次 得意教科

19.7%	19.3%	国語
14.7%	10.8%	地理歴史
2.6%	4.1%	公民
20.0%	21.2%	数学
10.5%	12.2%	理科
14.5%	15.6%	英語
8.0%	6.7%	専門教科
9.3%	9.3%	その他
0.6%	0.8%	記入ミス・無答



H22 1年次 不得意教科

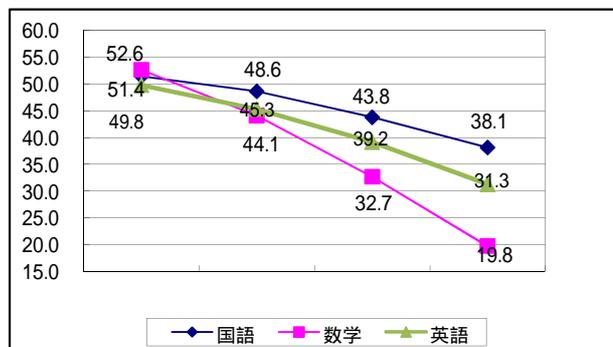
13.3%	11.9%	国語
9.7%	10.8%	地理歴史
1.8%	3.0%	公民
34.1%	30.6%	数学
7.3%	8.9%	理科
28.3%	28.5%	英語
2.8%	3.5%	専門教科
1.7%	1.9%	その他
1.0%	1.0%	記入ミス・無答



Q7 学校からどのくらいの割合で宿題・課題が出されていますか。

H22 1年次

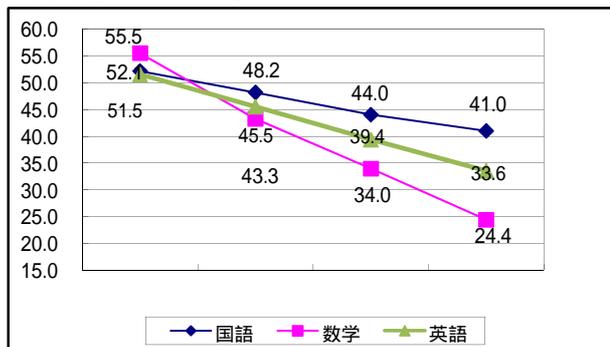
16.1%	17.4%	ほとんど毎日出ている。
33.1%	34.4%	週に2~3回出ている。
37.9%	33.9%	週に1回ぐらい出ている。
12.6%	14.1%	ほとんど出していない。
0.3%	0.2%	記入ミス・無答



Q8 学校ではどのくらいの割合でテスト(小テストや確認テストも含む。)がありますか。

H22 1年次

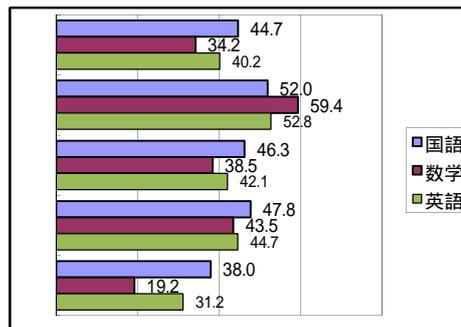
12.1%	11.9%	ほとんど毎日ある。
36.6%	31.2%	週に2~3回ある。
30.6%	31.5%	週に1回くらいある。
20.2%	25.1%	ほとんどない。
0.5%	0.2%	記入ミス・無答



Q9 あなたが受けたい授業はどんな授業ですか。最も近いものを選んでください。

H22 1年次

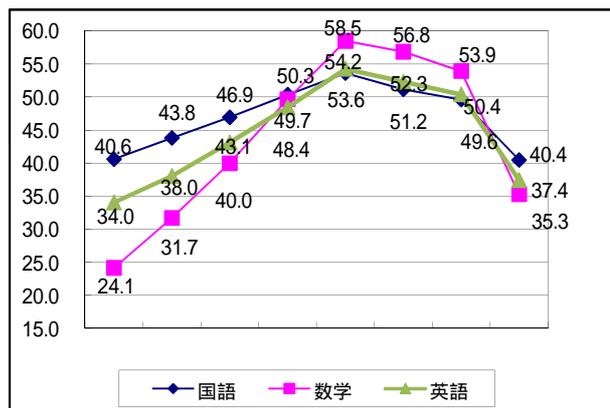
34.0%	35.4%	基礎・基本からじっくり分かるまで教えてくれる授業
6.2%	6.3%	発展的な内容まで教えてくれる授業
38.8%	38.9%	興味や関心をもてるような授業
15.4%	13.9%	進路希望達成につながる授業
5.3%	5.3%	資格取得につながる授業
0.3%	0.2%	記入ミス・無答



Q10 平日(テスト期間や長期休業中などを除く通常の月曜日から金曜日)に、学校の授業時間以外にどのくらい勉強していますか。(塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含む。)

H22 1年次

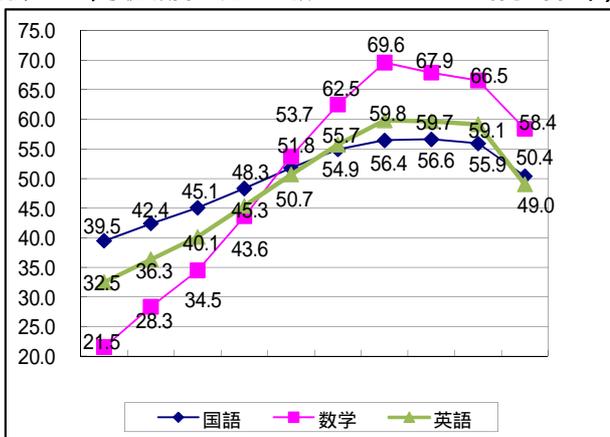
34.4%	30.4%	全く、またはほとんどしない。
12.3%	12.4%	30分より少ない。
16.7%	17.2%	30分~
23.3%	25.4%	1時間~
10.4%	11.4%	2時間~
2.0%	2.3%	3時間~
0.3%	0.5%	4時間~
0.3%	0.3%	5時間以上
0.3%	0.2%	記入ミス・無答



Q11 休日に、どのくらい勉強していますか。(塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含む。)

H22 1年次

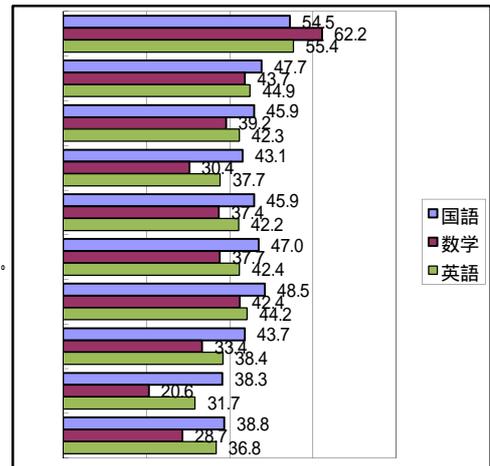
31.4%	28.5%	全く、またはほとんどしない。
9.5%	9.7%	30分より少ない。
11.8%	11.9%	30分~
20.0%	20.5%	1時間~
15.2%	16.0%	2時間~
6.7%	8.1%	3時間~
2.7%	2.7%	4時間~
1.2%	1.4%	5時間~
0.6%	0.6%	6時間~
0.4%	0.4%	7時間以上
0.5%	0.7%	記入ミス・無答



Q12 家庭学習のしかたに、最も近いものはどれですか。

H22 1年次

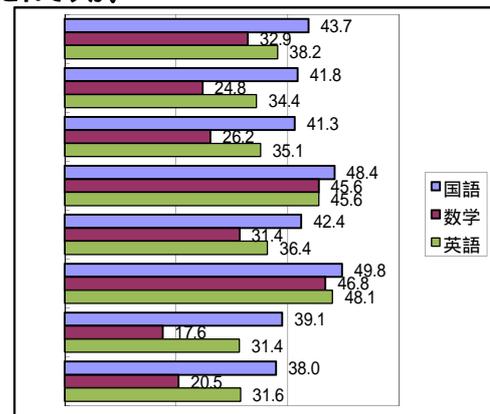
15.4%	15.7%	ほぼ毎日している。
4.7%	5.1%	主に平日にしている。
6.6%	7.0%	主に休日にしている。
18.4%	15.5%	主に宿題・課題があるときと定期考査前にしている。
5.7%	5.9%	主に宿題・課題のあるときにしている。
23.5%	25.8%	主に定期考査前にしている。
1.3%	1.5%	主に塾・予備校のあるときや家庭教師の先生がくるときにしている。
12.0%	13.3%	気が向いたときにしている。
11.1%	8.7%	家庭学習はほとんどしない。
1.1%	1.1%	その他
0.3%	0.3%	記入ミス・無答



Q13 次の教科のうち、家庭学習で最も力を入れて取り組んでいる教科はどれですか。

H22 1年次

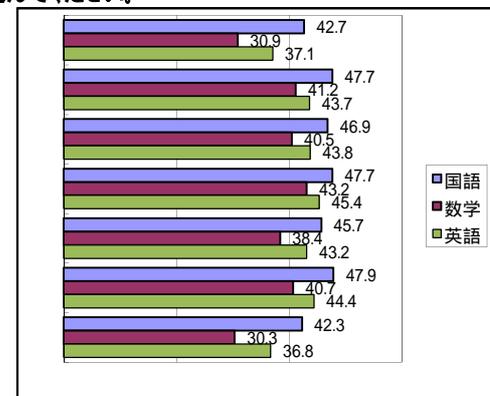
5.2%	5.2%	国語
6.3%	5.0%	地理歴史
0.8%	1.8%	公民
39.5%	40.0%	数学
4.3%	5.4%	理科
24.6%	25.3%	英語
9.5%	8.5%	専門教科
9.3%	8.4%	その他
0.5%	0.4%	記入ミス・無答



Q14 家庭学習をする上で悩んでいることはありますか。最も近いものを選んでください。

H22 1年次

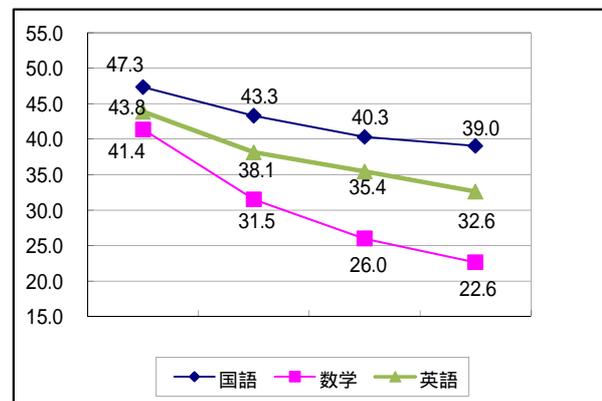
14.6%	14.8%	家庭学習の方法が分からない。
29.7%	27.3%	家庭学習に集中できない。
15.1%	15.1%	学習の計画を立てても長続きしない。
15.6%	18.5%	家庭学習と部活動の両立が難しい。
6.4%	6.7%	家庭学習を一生懸命やっても成績が伸びない。
3.5%	3.4%	その他
14.8%	14.1%	特に悩みはない。
0.3%	0.2%	記入ミス・無答



Q15 学校に行く前に朝食をとりますか。

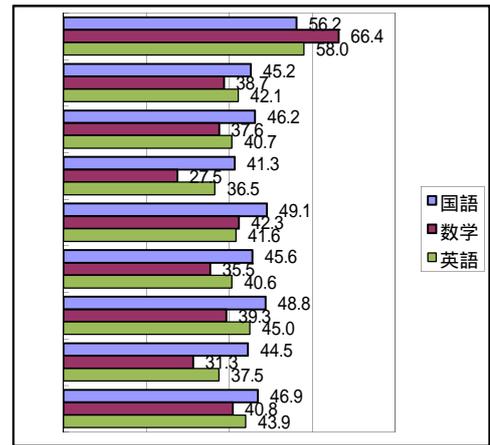
H22 1年次

74.3%	77.2%	必ずとる。
14.4%	13.0%	たいていとる。
5.5%	5.1%	とらないことが多い。
5.4%	4.4%	全く、または、ほとんどとらない。
0.3%	0.2%	記入ミス・無答



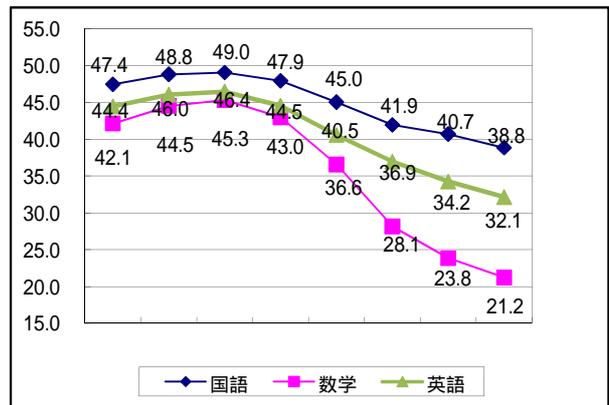
Q16 平日に、家の中で最も時間をかけて行っていることは何ですか。

H22	1年次	
6.6%	6.4%	家庭学習
23.2%	25.1%	テレビやビデオ
14.4%	14.0%	ゲームやパソコン
17.8%	18.3%	電話やメール
3.1%	3.6%	読書
17.2%	16.1%	自分の趣味(, を除く)
4.3%	4.3%	家族との会話
1.3%	1.3%	手伝い
11.6%	10.7%	その他
0.5%	0.3%	記入ミス・無答



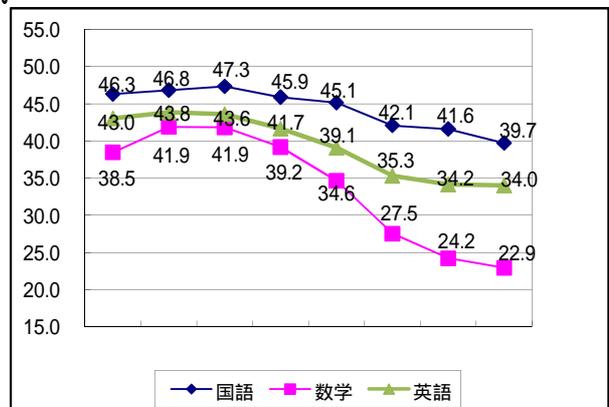
Q17 平日に、だいたいどのくらいテレビやビデオを見ますか。

H22	1年次	
8.5%	6.9%	全く、またはほとんど見ない。
7.6%	6.3%	30分より少ない。
12.2%	10.9%	30分～
27.1%	24.6%	1時間～
22.2%	24.0%	2時間～
12.2%	15.0%	3時間～
5.3%	6.6%	4時間～
4.3%	5.2%	5時間以上
0.6%	0.5%	記入ミス・無答



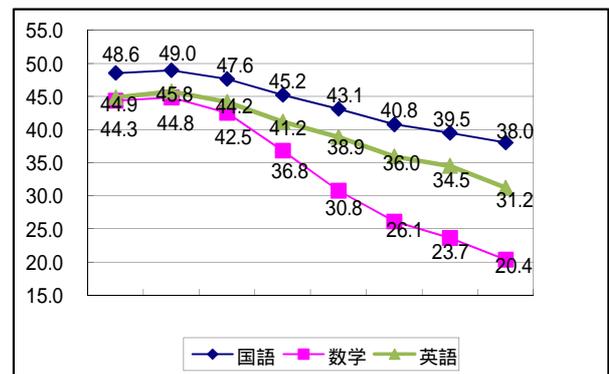
Q18 平日に、だいたいどのくらいゲームやパソコンをしますか。

H22	1年次	
40.8%	38.1%	全く、またはほとんどしない。
12.9%	12.4%	30分より少ない。
12.2%	13.4%	30分～
16.6%	17.4%	1時間～
8.7%	10.2%	2時間～
4.5%	4.6%	3時間～
1.8%	1.5%	4時間～
2.1%	2.0%	5時間以上
0.4%	0.4%	記入ミス・無答



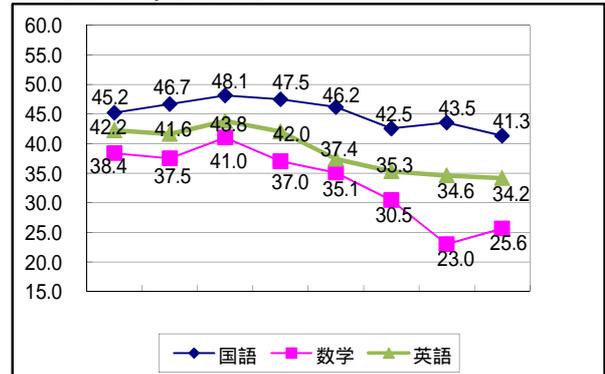
Q19 平日に、だいたいどのくらい電話やメールをしますか。

H22	1年次	
18.6%	14.9%	全く、またはほとんどしない。
24.0%	23.4%	30分より少ない。
14.5%	15.5%	30分～
14.8%	16.2%	1時間～
10.9%	11.2%	2時間～
7.3%	7.9%	3時間～
3.3%	3.8%	4時間～
6.3%	6.5%	5時間以上
0.5%	0.5%	記入ミス・無答



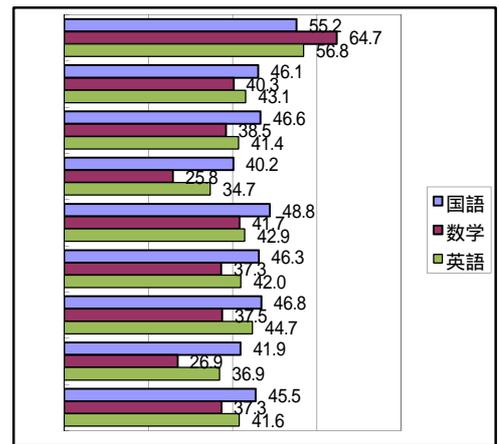
Q20 平日に、だいたいどのくらい読書(教科書や参考書, 漫画や雑誌は除く。)をしますか。

H22	1年次	
56.2%	57.0%	全く、またはほとんどしない。
19.4%	18.4%	30分より少ない。
11.4%	11.3%	30分～
7.6%	7.7%	1時間～
2.9%	2.9%	2時間～
1.3%	1.3%	3時間～
0.4%	0.4%	4時間～
0.5%	0.7%	5時間以上
0.3%	0.3%	記入ミス・無答



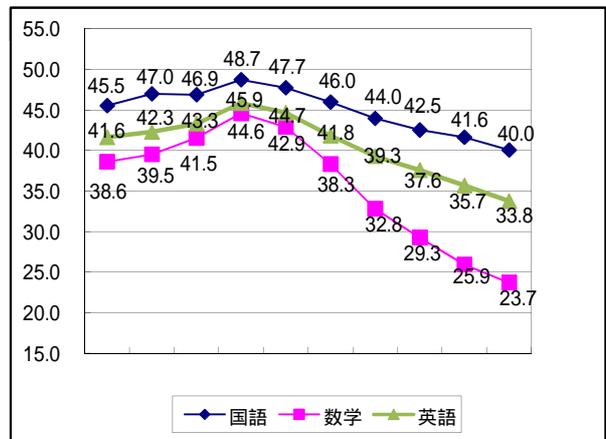
Q21 休日に、家の中で最も時間をかけて行っていることは何ですか。

H22	1年次	
4.6%	3.9%	家庭学習
20.9%	19.7%	テレビやビデオ
16.5%	17.8%	ゲームやパソコン
10.8%	11.1%	電話やメール
2.5%	2.6%	読書
23.4%	23.1%	自分の趣味
3.0%	3.1%	家族との対話
1.5%	1.8%	手伝い
16.4%	16.4%	その他
0.5%	0.5%	記入ミス・無答



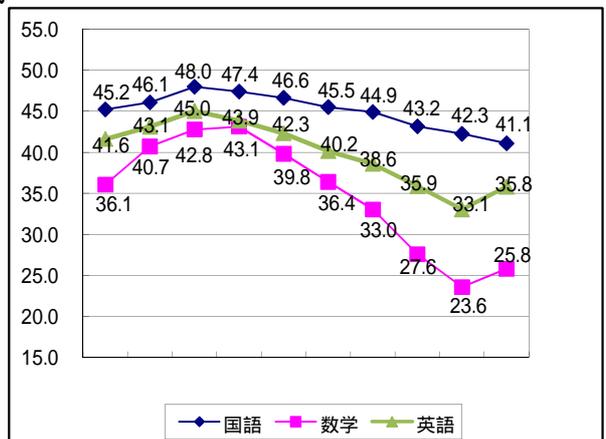
Q22 休日に、だいたいどのくらいテレビやビデオを見ますか。

H22	1年次	
6.1%	4.9%	全く、またはほとんど見ない。
4.1%	2.9%	30分より少ない。
5.7%	4.6%	30分～
15.9%	13.9%	1時間～
22.0%	20.0%	2時間～
19.1%	19.7%	3時間～
10.5%	12.4%	4時間～
7.2%	9.7%	5時間～
3.5%	4.3%	6時間～
5.5%	6.9%	7時間以上
0.5%	0.7%	記入ミス・無答



Q23 休日に、だいたいどのくらいゲームやパソコンをしますか。

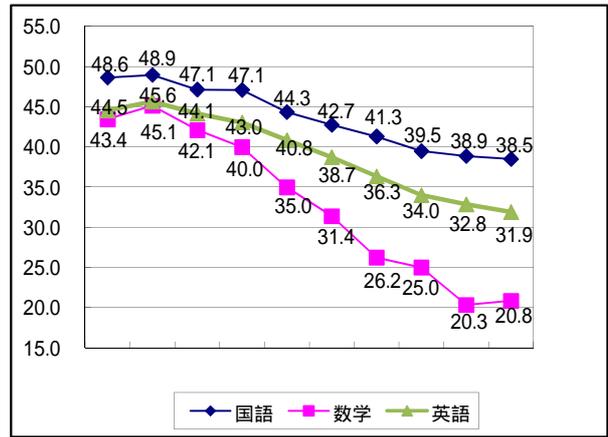
H22	1年次	
33.8%	29.5%	全く、またはほとんどしない。
9.8%	9.3%	30分より少ない。
9.3%	9.5%	30分～
16.4%	16.7%	1時間～
12.5%	14.2%	2時間～
7.9%	9.3%	3時間～
3.5%	4.0%	4時間～
2.7%	2.7%	5時間～
0.8%	1.1%	6時間～
2.8%	3.0%	7時間以上
0.4%	0.6%	記入ミス・無答



Q24 休日に、だいたいどのくらい電話やメールをしますか。

H22 1年次

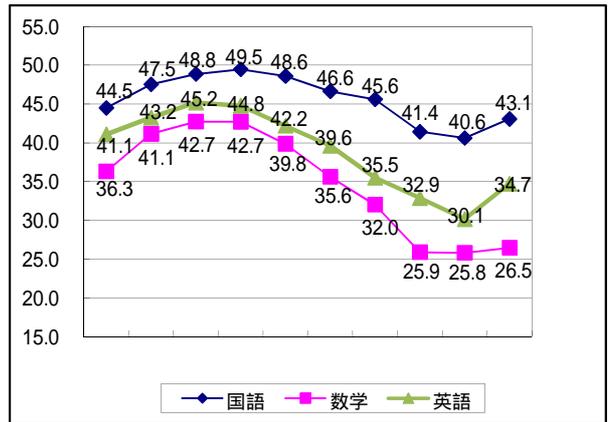
17.5%	13.0%	全く、またはほとんどしない。
20.1%	19.2%	30分より少ない。
12.7%	13.8%	30分～
14.8%	15.7%	1時間～
11.2%	11.5%	2時間～
7.8%	8.7%	3時間～
4.5%	5.1%	4時間～
4.0%	4.4%	5時間～
1.6%	2.0%	6時間～
5.3%	6.0%	7時間以上
0.5%	0.5%	記入ミス・無答



Q25 休日に、だいたいどのくらい読書(教科書や参考書, 漫画や雑誌は除く。)をしますか。

H22 1年次

60.8%	58.3%	全く、またはほとんどしない。
13.1%	13.5%	30分より少ない。
9.3%	9.4%	30分～
8.7%	9.3%	1時間～
4.0%	4.7%	2時間～
1.8%	2.1%	3時間～
0.8%	0.9%	4時間～
0.5%	0.7%	5時間～
0.2%	0.3%	6時間～
0.5%	0.7%	7時間以上
0.3%	0.3%	記入ミス・無答



平成22年度 みやぎ学力状況調査 質問紙調査結果(1学年)

Q1 高校卒業後、進みたいと考えている進路のうち、現在最も強く希望しているのは次のうちどれですか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H21
17.4%	43.8%	52.0%	23.4%	23.2%	35.3%	34.7%
10.4%	15.3%	14.0%	6.7%	7.8%	11.3%	10.6%
2.5%	2.9%	3.2%	5.2%	3.9%	3.6%	3.3%
15.7%	13.5%	11.9%	19.8%	21.8%	16.1%	16.2%
27.7%	11.6%	5.9%	20.6%	20.5%	15.3%	15.5%
5.5%	2.2%	2.4%	5.5%	5.8%	3.9%	4.0%
0.3%	0.1%	0.1%	0.4%	0.5%	0.3%	0.3%
16.6%	9.2%	9.0%	16.6%	15.2%	12.6%	13.5%
3.5%	1.3%	1.2%	1.5%	1.4%	1.6%	1.8%
0.3%	0.1%	0.2%	0.1%	0.0%	0.2%	0.1%
						4年制国公立大学
						4年制私立大学
						短期大学
						専修学校・各種学校
						民間就職
						公務員就職
						家業
						未定
						その他
						記入ミス・無答

・の国公立、の私立大学、の短大進学希望者は、それぞれ0.6、0.7、0.3ポイント増加。

・大学等進学希望者(～)としては、50.2%で、昨年度より1.6ポイント増加。

・の専修学校・各種学校は0.1ポイント減少し、の民間就職も0.2ポイント減少。

Q2 自分の進路希望の達成について、どのように考えていますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H21
54.7%	57.2%	58.1%	54.1%	54.5%	56.1%	52.0%
11.8%	10.9%	9.8%	12.3%	12.2%	11.2%	10.3%
18.6%	20.3%	19.7%	19.6%	19.0%	19.5%	21.8%
8.5%	8.0%	8.0%	8.8%	9.6%	8.5%	10.2%
6.1%	3.5%	4.1%	5.0%	4.7%	4.5%	5.5%
0.2%	0.1%	0.3%	0.1%	0.1%	0.2%	0.2%
						卒業までに絶対達成しようと思っている。
						達成するまで、卒業後1、2年かかってもかまわないと思っている。
						卒業までに達成できなければ他の進路に変えてもいいと思っている。
						何とかなるだろうと思っている。
						あまり考えないようにしている。
						記入ミス・無答

・「卒業までに絶対達成しようと考えている者」及び「卒業後1、2年かかっても達成したいという者」の計が4.1ポイント増加。

・のように進路に対してのこだわりが弱い層が2.3ポイント減少。

・のような進路意識の希薄な層が0.8ポイント減少。

自分の進路を1年時から段階的に考えることができるよう、ライフプランを踏まえたキャリア教育を引き続き体系化して行う必要がある。

Q3 普段どんな気持ちで勉強していますか。最も強く思っているものを選んでください。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H21
11.3%	12.9%	14.7%	11.1%	12.8%	12.8%	11.4%
16.0%	13.7%	13.5%	15.3%	15.8%	14.6%	12.8%
14.9%	14.9%	15.9%	13.0%	12.8%	14.4%	13.0%
1.1%	0.7%	1.0%	0.7%	1.4%	1.0%	1.1%
33.0%	34.5%	33.0%	35.3%	33.8%	33.9%	34.2%
3.3%	2.7%	2.3%	2.9%	2.7%	2.7%	2.9%
18.4%	18.3%	16.8%	19.5%	18.3%	18.1%	21.1%
1.6%	2.2%	2.4%	1.8%	1.9%	2.0%	3.1%
0.4%	0.1%	0.5%	0.3%	0.5%	0.4%	0.4%
						分からないことでも自分の力で答えを見つけれられるようになりたい。
						多くのことを知り社会に出て役立つ力を身につけたい。
						入学試験や就職試験に備えたい。
						親や先生にほめられたい。
						成績を上げたい。
						先生や家族に言われるから勉強している。
						特に考えていない。
						その他
						記入ミス・無答

・の知的的好奇心・探究心や社会で役立つことを意識している者が合わせて27.4%で昨年より3.2ポイント増加。

・の進路に関する動機付けが1.4ポイント増加している。

・～の学習に消極的な層は、昨年度より4.3ポイント減少し22.7%。

学ぶ楽しさを実感させ、学習への意欲を喚起し興味・関心を引き出す授業や教育活動への改善が望まれる。

Q4 学校の授業の内容がどの程度理解できますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H21
7.4%	7.1%	7.3%	7.0%	7.2%	7.2%	6.9%
36.6%	44.3%	42.6%	38.1%	40.4%	41.0%	38.2%
43.4%	39.0%	39.5%	44.0%	41.9%	41.2%	42.2%
9.9%	8.2%	8.3%	9.3%	8.7%	8.7%	9.8%
2.3%	1.2%	1.9%	1.4%	1.3%	1.6%	2.3%
0.5%	0.2%	0.4%	0.2%	0.4%	0.4%	0.5%
						ほとんどの授業がよく理解できる。
						理解できる授業の方が多い。
						理解できる授業と理解できない授業が半分くらいずつある。
						理解できない授業の方が多い。
						ほとんどの授業が理解できない。
						記入ミス・無答

・だいたい理解できると回答した者はとを合わせて48.2%で、昨年と比べ3.1ポイント増加。

・あまり理解できないと回答した者はとを合わせて10.3%で昨年度と比べ1.8ポイント減少。

全体としては、授業がわかりやすいと感じている層が増え、理解できないと感じている層が減少している。分かる授業に向けての各学校での工夫・改善が見て取れる結果であり、引き続き、授業改善に向けて、さらなる充実が求められている。

Q5 授業で分からないことがあったら、どうすることが多いですか(該当するものをすべて選んでください)。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H21	
48.9%	56.4%	56.8%	49.4%	53.0%	53.7%	58.7%	自分で調べる。
36.3%	38.3%	35.1%	36.7%	35.7%	36.4%	34.2%	学校の先生に質問する。
68.1%	72.4%	70.7%	73.3%	72.9%	71.7%	74.1%	友達に聞く。
18.6%	22.0%	19.3%	17.1%	16.6%	18.9%	20.0%	家族に聞く。
10.8%	13.3%	13.2%	10.9%	13.4%	12.5%	13.1%	塾・予備校や家庭教師の先生に質問する。
17.9%	15.1%	15.1%	15.1%	14.0%	15.2%	20.6%	そのまましておく。
3.0%	1.7%	2.2%	3.0%	2.9%	2.5%	3.8%	その他

- ・「自分で調べると」回答した者は5.0ポイント減少。
- ・最も多いのが「友達同士で解決する」場合で、「学校の先生に聞く」は2.2ポイント増加。
- ・「そのままにしておく」と回答した者も5.4ポイント減少したが依然として多い。
- ・**生徒の理解度を計画的にチェックすること、学び合いを取り入れた授業等の工夫が必要である。**

Q6 次の教科のうち、最も得意だと感じる教科はどれですか。また、最も不得意だと感じる教科はどれですか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H21	得意教科
18.9%	20.8%	17.4%	18.9%	17.3%	18.6%	19.3%	国語
11.6%	11.0%	11.3%	10.1%	10.6%	10.9%	10.8%	地理歴史
4.8%	5.0%	5.1%	2.8%	3.5%	4.3%	4.1%	公民
19.2%	20.1%	19.4%	22.5%	21.5%	20.5%	21.2%	数学
12.3%	13.6%	16.6%	13.5%	15.3%	14.6%	12.2%	理科
14.6%	16.8%	18.2%	16.8%	14.4%	16.5%	15.6%	英語
7.4%	6.4%	4.8%	6.5%	7.9%	6.4%	6.7%	専門教科
9.5%	5.6%	7.0%	8.3%	8.4%	7.5%	9.3%	その他
1.9%	0.7%	0.3%	0.6%	1.0%	0.8%	0.8%	記入ミス・無答

- ・数学、国語、英語、理科、地理歴史の順番であり、英語が0.9ポイント理科が2.4ポイント増加、国語が0.7ポイント減少。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H21	不得意教科
7.5%	11.7%	14.8%	9.8%	11.3%	11.6%	11.9%	国語
11.2%	11.0%	9.6%	15.5%	10.6%	11.4%	10.8%	地理歴史
2.4%	2.1%	2.5%	2.8%	4.0%	2.7%	3.0%	公民
30.9%	34.2%	34.0%	27.5%	27.6%	31.2%	30.6%	数学
6.8%	9.3%	8.4%	8.9%	9.2%	8.6%	8.9%	理科
31.6%	26.6%	26.8%	27.5%	30.1%	28.1%	28.5%	英語
5.4%	2.8%	1.4%	3.9%	3.8%	3.1%	3.5%	専門教科
1.6%	1.3%	1.6%	2.7%	1.7%	1.8%	1.9%	その他
2.4%	1.0%	0.8%	1.5%	1.8%	1.4%	1.0%	記入ミス・無答

- ・数学、英語、国語、地理歴史、理科の順番。
- ・昨年度と比べ、国語、公民、理科は0.3ポイント、英語は0.4ポイント減少。
- ・数学及び英語は、昨年と同様に不得意が得意を大きく上回っている。理科については得意が不得意を上回った。
- ・**数学又は英語を不得意と感じている生徒が約6割にのぼることから、それらの生徒に対し基礎的内容の学び直し及び学習習慣確立に向けての支援をする等の工夫が必要である。**

Q7 学校からどのくらいの割合で宿題・課題が出されていますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H21	
14.0%	29.5%	26.8%	18.1%	20.8%	23.1%	17.4%	ほとんど毎日出ている。
39.4%	37.2%	36.8%	35.7%	36.4%	36.9%	34.4%	週に2~3回出ている。
34.2%	25.0%	31.5%	36.7%	35.1%	32.1%	33.9%	週に1回ぐらい出ている。
11.6%	8.2%	4.6%	9.3%	7.6%	7.7%	14.1%	ほとんど出していない。
0.8%	0.1%	0.3%	0.2%	0.1%	0.2%	0.2%	記入ミス・無答

- ・～を合わせて、週あたり1回以上宿題・課題が出される割合が昨年度より6.4ポイントと大幅に増加。
- ・ほとんど宿題が出されない割合は7.7%で昨年度より半減している。
- ・**家庭学習時間確保に向け、宿題・課題を効果的に出していることが窺える。**

Q8 学校からどのくらいの割合でテスト(小テストや確認テストを含む)がありますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H21	
6.7%	21.8%	9.6%	13.6%	12.6%	13.3%	11.9%	ほとんど毎日ある。
33.0%	30.0%	47.3%	37.0%	26.1%	35.9%	31.2%	週に2~3回ある。
41.2%	31.7%	35.2%	29.3%	34.8%	33.9%	31.5%	週に1回ぐらいある。
18.4%	16.4%	7.6%	19.7%	26.3%	16.7%	25.1%	ほとんどない。
0.7%	0.1%	0.3%	0.2%	0.1%	0.3%	0.2%	記入ミス・無答

- ・～を合わせて、週あたり1回以上テストが実施される割合は昨年度より8.5ポイント大幅増。
- ・ほとんどテストが実施されない割合は8.4ポイント激減。
- ・**小テストを通し、生徒の理解度を計画的に調査し、また、学習内容の定着を図ることが、さらに求められる。**

Q9 あなたが受けたい授業はどんな授業ですか。最も近いものを選んでください。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H21
42.4%	35.6%	34.3%	39.4%	38.8%	37.3%	35.4%
5.1%	8.8%	9.5%	5.9%	5.8%	7.5%	6.3%
34.9%	38.6%	39.8%	36.1%	34.9%	37.3%	38.9%
12.1%	13.2%	13.3%	12.9%	14.0%	13.2%	13.9%
4.9%	3.8%	2.8%	5.4%	6.2%	4.4%	5.3%
0.6%	0.0%	0.2%	0.2%	0.3%	0.2%	0.2%
						基礎・基本からじっくり分かるまで教えてくれる授業
						発展的な内容まで教えてくれる授業
						興味や関心がもてるような授業
						進路希望達成につながる授業
						資格取得につながる授業
						記入ミス・無答

・基礎・基本からじっくり分かるまで教えてくれる授業が、興味・関心がもてる授業と並び最も高い。
 ・生徒は基礎・基本からじっくりわかるまで教えてくれる体制を望んでいる。
生徒の期待に応えるこれらの授業や体制を実現する授業改善や体制づくりに向けて、各校のさらなる創意工夫を凝らした取組が望まれる。

Q10 平日(テスト期間や長期休業中などを除く通常の月曜日から金曜日)に、学校の授業時間以外にどのくらい勉強していますか。(塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含む。)

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H21
28.7%	21.0%	19.1%	25.8%	27.3%	23.5%	30.4%
14.1%	12.9%	10.9%	13.4%	12.2%	12.4%	12.4%
18.8%	19.8%	18.5%	21.3%	17.2%	19.1%	17.2%
23.5%	26.6%	29.7%	26.2%	25.0%	26.7%	25.4%
10.9%	15.8%	17.1%	10.0%	14.0%	14.1%	11.4%
2.5%	3.1%	3.7%	2.2%	3.3%	3.1%	2.3%
0.6%	0.6%	0.5%	0.4%	0.6%	0.5%	0.5%
0.4%	0.1%	0.1%	0.3%	0.2%	0.2%	0.3%
0.5%	0.1%	0.3%	0.3%	0.1%	0.3%	0.2%
						全く、またはほとんどしない。
						30分より少ない。
						30分～
						1時間～
						2時間～
						3時間～
						4時間～
						5時間以上
						記入ミス・無答

・の1時間以上が、の全く、またはほとんどしないを上回り26.7%と最も高い割合。
 ・～の家庭学習にしっかり取り組んでいる層は、昨年度より3.4ポイント増加し17.9%。
 ・～の合計は昨年度より3.2ポイント増加し58.2%。全体の81.7%は家庭学習時間が2時間未満。
家庭学習時間1時間以上の者は46.6%（昨年比4.7ポイント増）であるが、中学2年時点での調査（平成18年度宮城県学習状況調査）では、1時間以上の者が52.8%であったことを考えると、家庭学習定着のための意識付け及び学習時間増加に向けて、さらなる取組が望まれる。

Q11 休日に、どのくらい勉強していますか。(塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含む。)

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H21
29.9%	18.1%	15.0%	25.4%	25.8%	21.5%	28.5%
12.1%	9.7%	6.6%	11.4%	10.2%	9.5%	9.7%
13.2%	12.3%	10.3%	14.9%	12.7%	12.4%	11.9%
20.1%	20.5%	20.8%	22.1%	18.9%	20.6%	20.5%
13.7%	18.6%	23.8%	16.5%	17.3%	18.8%	16.0%
6.0%	11.6%	13.5%	6.2%	9.4%	10.0%	8.1%
2.8%	5.0%	5.6%	1.6%	3.6%	4.0%	2.7%
0.9%	2.6%	2.6%	1.0%	1.0%	1.8%	1.4%
0.4%	0.9%	1.2%	0.3%	0.8%	0.8%	0.6%
0.2%	0.4%	0.6%	0.2%	0.2%	0.4%	0.4%
0.5%	0.2%	0.1%	0.3%	0.1%	0.2%	0.3%
						全く、またはほとんどしない。
						30分より少ない。
						30分～
						1時間～
						2時間～
						3時間～
						4時間～
						5時間～
						6時間～
						7時間以上
						記入ミス・無答

・休日に家庭学習をしない者が昨年度より7.0ポイント減少し、平日より低い割合。
 ・2時間以上の回答(～)は35.8%で、6.6ポイント増加。
週末課題等の工夫等、休日の家庭学習時間の増加に向けたさらなる取組が必要である。

Q12 家庭学習の仕方に、最も近いものはどれですか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H21
13.2%	23.6%	25.4%	15.4%	19.5%	20.5%	15.7%
6.4%	5.6%	4.9%	6.9%	5.5%	5.7%	5.1%
9.0%	7.8%	9.1%	8.0%	7.9%	8.4%	7.0%
13.5%	11.9%	9.9%	12.3%	12.3%	11.7%	15.5%
7.5%	7.2%	8.8%	7.4%	8.3%	7.9%	5.9%
19.2%	23.8%	23.8%	23.5%	22.2%	22.9%	25.8%
1.6%	1.4%	1.2%	1.5%	1.0%	1.3%	1.5%
16.2%	12.4%	10.6%	15.1%	12.7%	12.9%	13.3%
11.7%	5.5%	5.4%	8.5%	9.9%	7.6%	8.7%
1.2%	0.7%	0.6%	1.0%	0.7%	0.8%	1.1%
0.5%	0.1%	0.2%	0.3%	0.1%	0.2%	0.3%
						ほぼ毎日している。
						主に平日にしている。
						主に休日にしている。
						主に定期考査前にしている。
						主に宿題・課題のあるときにしている。
						主に宿題・課題があるときと定期考査前にしている。
						主に塾・予備校のあるときや家庭教師の先生がくるときにしている。
						気が向いたときにしている。
						家庭学習はほとんどしない。
						その他
						記入ミス・無答

・ほぼ毎日している割合は20.5%で昨年度より4.8ポイント増加。
 ・家庭学習の習慣が身に付いていると考えられるの合計は26.2%であるが、依然として7割以上の生徒には家庭学習の習慣化がみられない。
授業を中心とした学習計画はもとより、家庭と連携した学習環境整備が望まれる。

Q13 次の教科のうち、家庭学習で最も力を入れて取り組んでいる教科はどれですか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H21
5.0%	4.3%	3.6%	6.1%	4.8%	4.6%	5.2% 国語
5.2%	2.2%	3.7%	5.7%	4.4%	4.1%	5.0% 地理歴史
2.0%	1.2%	1.0%	1.5%	1.7%	1.4%	1.8% 公民
36.5%	58.3%	50.6%	38.6%	40.8%	46.5%	40.0% 数学
6.3%	3.8%	4.2%	7.0%	6.2%	5.3%	5.4% 理科
20.4%	18.6%	29.0%	22.9%	23.6%	23.5%	25.3% 英語
13.7%	6.1%	2.7%	8.9%	9.9%	7.3%	8.5% 専門教科
9.9%	5.1%	5.1%	8.9%	8.4%	7.0%	8.4% その他
0.9%	0.3%	0.2%	0.3%	0.3%	0.4%	0.4% 記入ミス・無答

- ・昨年同様、数学、英語に力を入れて取り組んでいる割合が高い。
- ・一方で、Q6の不得意教科は、数学、英語という回答が最も多い。

Q14 家庭学習をする上で悩んでいることはありますか。最も近いものを選んでください。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H21
16.2%	12.5%	13.3%	16.9%	15.4%	14.5%	14.8% 家庭学習の方法が分からない。
22.9%	29.0%	28.8%	24.3%	25.4%	26.7%	27.3% 家庭学習に集中できない。
16.6%	14.6%	15.4%	15.6%	14.4%	15.2%	15.1% 学習の計画を立てても長続きしない。
18.5%	22.9%	22.1%	19.5%	18.6%	20.7%	18.5% 家庭学習と部活動の両立が難しい。
6.3%	6.4%	6.0%	5.5%	7.5%	6.3%	6.7% 家庭学習を一生懸命やっても成績が伸びない。
2.8%	3.1%	3.8%	2.6%	3.1%	3.2%	3.4% その他
16.1%	11.4%	10.5%	15.2%	15.4%	13.2%	14.1% 特に悩みはない。
0.7%	0.1%	0.2%	0.3%	0.2%	0.2%	0.2% 記入ミス・無答

- ・8割以上の者が何らかの悩みを抱えていることがわかる。中でも「家庭学習に集中できない」、「家庭学習と部活動の両立が難しい」とする者の割合が高い。
- ・の「家庭学習と部活動の両立が難しい」が昨年度より2.2ポイントの増加、「学習の計画を立てても長続きしない」が0.1ポイントと微増。
- ・**昨年度も同様の結果であったが、集中を阻害する要因を探りながら家庭学習に集中できる環境づくりを保護者に考えてもらうよう、家庭との連携を進めていく必要がある。「学習の計画を立てても長続きしない」、「家庭学習を一生懸命やっても成績が伸びない」にも大きく関わるものと考えられる。**

Q15 学校に行く前に朝食をとりますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H21
72.9%	79.2%	80.5%	75.8%	75.0%	77.4%	77.2% 必ずとる。
14.1%	13.2%	12.3%	13.9%	14.2%	13.4%	13.0% たいていとる。
7.0%	4.6%	4.6%	5.7%	6.2%	5.4%	5.1% とらないことが多い。
5.8%	2.9%	2.4%	4.5%	4.6%	3.7%	4.4% 全く、または、ほとんどとらない。
0.2%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.2% 記入ミス・無答

- ・の学校に行く前に朝食を必ず又はたいていとる者が90.8%で、0.6ポイント増加している。
- ・のきちんと朝食をとる習慣のない者の割合は9.1%で、0.4ポイント減少している。

Q16 平日に、家の中で最も時間をかけて行っていることは何ですか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H21
5.9%	12.4%	12.9%	6.5%	7.8%	9.8%	6.4% 家庭学習
21.2%	19.0%	18.9%	20.4%	20.2%	19.7%	25.1% テレビやビデオ
13.1%	11.7%	11.6%	13.0%	13.4%	12.4%	14.0% ゲームやパソコン
22.3%	17.2%	17.3%	25.3%	23.0%	20.5%	18.3% 電話やメール
3.3%	3.9%	3.6%	4.0%	4.8%	3.9%	3.6% 読書
16.8%	15.7%	16.1%	16.5%	16.6%	16.3%	16.1% 自分の趣味(, を除く)
4.2%	5.3%	5.1%	3.8%	3.6%	4.5%	4.3% 家族との会話
1.5%	1.3%	1.2%	1.2%	1.3%	1.3%	1.3% 手伝い
11.0%	13.3%	13.2%	9.1%	9.0%	11.4%	10.7% その他
0.7%	0.2%	0.2%	0.3%	0.3%	0.3%	0.3% 記入ミス・無答

- ・「テレビやビデオ」、「ゲームやパソコン」、「電話やメール」、「自分の趣味」の時間が多く、この4項目を合わせると68.9%で、Q14の「家庭学習に集中できない」理由の一端を窺うことができる。
- ・「電話やメール」の割合が昨年度より2.2ポイント増加した。携帯電話への依存が高まっている可能性がある。
- ・「家庭学習」は3.4ポイント増加。読書も微増。
- ・**家庭での携帯電話の使用については、家庭で考えてもらうよう学校と家庭のさらなる連携が必要である。**

Q17 平日に、だいたいどのくらいテレビやビデオをみますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H21
7.0%	9.9%	9.3%	8.3%	8.2%	8.8%	6.9% 全く、またはほとんど見ない。
7.7%	11.1%	10.5%	8.1%	7.3%	9.2%	6.3% 30分より少ない。
12.1%	15.0%	16.0%	11.1%	11.0%	13.5%	10.9% 30分～
25.2%	27.6%	28.1%	24.6%	24.2%	26.3%	24.6% 1時間～
21.9%	20.7%	21.0%	22.0%	21.5%	21.3%	24.0% 2時間～
13.7%	9.9%	9.6%	14.3%	15.6%	12.2%	15.0% 3時間～
5.7%	3.5%	3.3%	6.0%	6.7%	4.8%	6.6% 4時間～
5.7%	1.9%	1.9%	5.3%	5.2%	3.6%	5.2% 5時間以上
1.0%	0.3%	0.3%	0.3%	0.3%	0.4%	0.5% 記入ミス・無答

・「全く、またはほとんど見ない」と「30分より少ない」者は昨年と比べ4.8ポイント減少しているが、3時間以上見ている者は20%を超えている。
テレビやビデオの視聴が「家庭学習に集中できない」理由の一つになっていると考えられる。

Q18 平日に、だいたいどのくらいゲームやパソコンをしますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H21
36.2%	41.8%	40.5%	41.6%	40.5%	40.5%	38.1% 全く、またはほとんどしない。
13.4%	15.5%	16.0%	12.5%	12.8%	14.3%	12.4% 30分より少ない。
11.6%	14.0%	15.0%	11.9%	11.5%	13.1%	13.4% 30分～
16.9%	16.0%	15.6%	16.7%	16.4%	16.2%	17.4% 1時間～
12.0%	7.5%	7.1%	8.5%	9.7%	8.5%	10.2% 2時間～
4.9%	2.9%	3.4%	4.8%	5.1%	4.1%	4.6% 3時間～
1.9%	1.1%	0.8%	1.5%	1.6%	1.3%	1.5% 4時間～
2.6%	1.0%	1.3%	2.1%	2.2%	1.7%	2.0% 5時間以上
0.5%	0.3%	0.2%	0.3%	0.2%	0.3%	0.4% 記入ミス・無答

・「テレビやビデオ」に比して、平日にゲームを行っている者は少なく、「全く、またはほとんどしない」、「30分より少ない」を合わせると54.8%であり、昨年度より4.3ポイント減少した。
 ・ゲームやパソコンを行っている者を見ると、1時間以上2時間未満の者が17.4%と最も高い。

Q19 平日に、だいたいどのくらい電話やメールをしますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H21
10.9%	12.4%	11.9%	11.9%	12.1%	11.9%	14.9% 全く、またはほとんどしない。
20.1%	26.0%	26.2%	20.1%	21.0%	23.3%	23.4% 30分より少ない。
14.4%	17.7%	18.0%	14.2%	14.9%	16.2%	15.5% 30分～
18.4%	17.4%	17.8%	17.6%	16.0%	17.4%	16.2% 1時間～
13.4%	11.1%	11.1%	13.5%	13.2%	12.2%	11.2% 2時間～
10.0%	7.3%	7.2%	9.3%	9.4%	8.4%	7.9% 3時間～
4.6%	3.1%	3.3%	4.8%	5.2%	4.1%	3.8% 4時間～
7.7%	5.0%	4.3%	8.2%	7.8%	6.3%	6.5% 5時間以上
0.6%	0.1%	0.2%	0.3%	0.4%	0.3%	0.5% 記入ミス・無答

・1時間以上電話やメールを行っている者は、48.4%で、昨年度から2.8ポイント増加。
 ・3時間以上の者は昨年度より0.6ポイント増え、18.8%もおり「家庭学習に集中できない」要因になっている。
 ・Q10での家庭学習を「全く、またはほとんどしない」23.5%の生徒の生活状況が推測できる。

Q20 平日に、だいたいどのくらい読書(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く。)をしますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H21
48.2%	57.3%	55.6%	51.5%	55.0%	54.2%	57.0% 全く、またはほとんどしない。
22.9%	18.2%	21.1%	22.5%	18.1%	20.4%	18.4% 30分より少ない。
12.8%	12.4%	11.8%	11.9%	11.3%	12.0%	11.3% 30分～
9.8%	7.6%	7.0%	8.1%	9.1%	8.1%	7.7% 1時間～
3.0%	2.8%	2.5%	3.2%	3.9%	3.0%	2.9% 2時間～
1.6%	1.0%	1.0%	1.6%	1.6%	1.3%	1.3% 3時間～
0.5%	0.2%	0.4%	0.5%	0.5%	0.4%	0.4% 4時間～
0.8%	0.4%	0.3%	0.6%	0.4%	0.5%	0.7% 5時間以上
0.5%	0.1%	0.2%	0.2%	0.1%	0.2%	0.3% 記入ミス・無答

・半数以上の者が「全く、またはほとんどしない」状況で、平日の読書はあまり習慣化されていない。
 ・1時間以上読書をする者は0.5ポイント増え、13.3%である。
朝読書を取り入れている学校が増加しているものの、読書の楽しさ等を伝える努力とともに、家庭や学校において習慣化を図る工夫が望まれる。

Q21 休日に、家の中で最も時間をかけて行っていることは何ですか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H21	
3.5%	8.0%	9.5%	3.5%	5.0%	6.5%	3.9%	家庭学習
19.0%	19.4%	18.0%	20.0%	17.9%	18.8%	19.7%	テレビやビデオ
16.2%	14.0%	15.1%	17.0%	16.8%	15.6%	17.8%	ゲームやパソコン H18 ゲーム
15.9%	10.2%	9.2%	18.3%	15.7%	13.2%	11.1%	電話やメール
2.2%	3.1%	2.9%	2.0%	3.0%	2.7%	2.6%	読書
22.4%	23.1%	23.1%	21.3%	21.5%	22.4%	23.1%	自分の趣味
2.7%	3.5%	3.3%	2.4%	3.0%	3.1%	3.1%	家族との対話
2.1%	1.2%	1.2%	1.8%	1.8%	1.5%	1.8%	手伝い
15.0%	17.2%	17.4%	13.3%	14.8%	15.8%	16.4%	その他
1.0%	0.3%	0.4%	0.3%	0.5%	0.4%	0.5%	記入ミス・無答

・「自分の趣味」の割合が高くなっており、次いで「テレビやビデオ」の順となっている。
 ・平日と比較すると「自分の趣味」、「ゲームやパソコン」の割合がそれぞれ6.1ポイント、3.2ポイント増加している。
 ・平日と比較すると「電話やメール」、「テレビやビデオ」、「家庭学習」の割合が、それぞれ7.3ポイント、0.9ポイント、3.3ポイント減少している。

Q22 休日に、だいたいどのくらいテレビやビデオを見ますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H21	
5.9%	5.9%	6.0%	5.1%	5.7%	5.7%	4.9%	全く、またはほとんど見ない。
3.7%	4.4%	4.5%	3.2%	3.3%	3.9%	2.9%	30分より少ない。
5.1%	5.9%	6.8%	5.5%	4.9%	5.8%	4.6%	30分～
13.8%	18.4%	19.3%	14.8%	14.2%	16.6%	13.9%	1時間～
20.5%	23.3%	24.4%	19.4%	19.8%	21.9%	20.0%	2時間～
18.7%	17.9%	18.1%	19.3%	18.8%	18.5%	19.7%	3時間～
11.6%	10.9%	8.8%	13.5%	12.5%	11.2%	12.4%	4時間～
10.2%	6.9%	6.5%	8.5%	9.8%	8.0%	9.7%	5時間～
3.8%	2.6%	2.4%	4.2%	4.3%	3.3%	4.3%	6時間～
5.9%	3.2%	2.8%	6.3%	6.2%	4.6%	6.9%	7時間以上
0.8%	0.6%	0.5%	0.3%	0.5%	0.5%	0.7%	記入ミス・無答

・2時間から3時間見ている者が最も多く21.9%であり、次いで3時間から4時間見ているものが多く18.5%である。
 ・3時間以上見ている者は45.6%で、昨年度より7.4ポイント減少している。
 ・6時間以上見ている者は、昨年度より3.3ポイント減少している。
「家庭学習に集中できない」大きな理由となっていると考えられる。

Q23 休日に、だいたいどのくらいゲームやパソコンをしますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H21	
30.8%	32.4%	31.1%	33.3%	34.3%	32.4%	29.5%	全く、またはほとんどしない。
9.8%	11.8%	12.0%	10.7%	10.3%	11.1%	9.3%	30分より少ない。
8.0%	10.4%	11.9%	8.8%	8.1%	9.8%	9.5%	30分～
17.0%	17.3%	18.2%	15.3%	14.9%	16.7%	16.7%	1時間～
12.9%	13.4%	12.4%	13.3%	13.2%	13.0%	14.2%	2時間～
9.5%	7.3%	7.3%	7.3%	8.8%	7.8%	9.3%	3時間～
3.8%	2.8%	2.7%	3.8%	4.4%	3.4%	4.0%	4時間～
3.7%	1.6%	1.9%	3.0%	2.6%	2.4%	2.7%	5時間～
1.0%	0.9%	0.6%	1.1%	0.9%	0.9%	1.1%	6時間～
3.2%	1.8%	1.7%	3.0%	2.3%	2.2%	3.0%	7時間以上
0.4%	0.2%	0.3%	0.5%	0.3%	0.3%	0.6%	記入ミス・無答

・休日でもゲームやパソコンをほとんどしない者は32.4%で、昨年度より2.9ポイント増加している。
 ・ゲームやパソコンを行っている者については、平日と同様に1時間以上2時間未満の者が16.7%と最も高い。
 ・7時間以上ゲームやパソコンを行っている者は2.2%で、昨年度より0.8ポイント減少している。

Q24 休日に、だいたいどのくらい電話やメールをしますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H21	
10.7%	11.8%	11.1%	10.3%	10.5%	10.9%	13.0%	全く、またはほとんどしない。
16.0%	20.0%	20.2%	15.6%	17.0%	18.2%	19.2%	30分より少ない。
11.5%	15.2%	16.9%	12.0%	12.7%	14.2%	13.8%	30分～
16.2%	17.8%	17.3%	15.3%	15.1%	16.5%	15.7%	1時間～
14.9%	12.3%	11.4%	13.6%	12.7%	12.7%	11.5%	2時間～
11.8%	8.4%	9.2%	10.7%	10.1%	9.8%	8.7%	3時間～
5.4%	4.7%	4.5%	6.6%	6.5%	5.4%	5.1%	4時間～
4.5%	4.0%	3.6%	5.7%	5.4%	4.5%	4.4%	5時間～
2.1%	1.6%	1.5%	2.2%	3.0%	2.0%	2.0%	6時間～
6.5%	4.0%	3.9%	7.6%	6.7%	5.5%	6.0%	7時間以上
0.6%	0.2%	0.3%	0.5%	0.3%	0.4%	0.5%	記入ミス・無答

・7.5%の者が1日6時間以上もの長い時間を電話やメールで過ごしている。
 ・30分より少ないと答えた者が最も多く18.2%となっている。
○長時間の電話やメールに対しては生活改善等、早急に対策を講じる必要があると思われる。

Q25 休日に、だいたいどのくらい読書(教科書や参考書, 漫画や雑誌は除く。)をしますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H21
54.6%	57.6%	57.7%	58.8%	57.7%	57.5%	58.3%
15.5%	14.2%	14.9%	13.5%	12.4%	14.1%	13.5%
9.7%	10.3%	10.0%	8.7%	10.0%	9.8%	9.4%
10.4%	9.7%	8.9%	9.1%	9.0%	9.3%	9.3%
4.1%	4.6%	4.5%	4.8%	5.2%	4.7%	4.7%
2.5%	2.3%	1.8%	2.6%	3.1%	2.4%	2.1%
1.3%	0.5%	0.7%	1.1%	1.2%	0.9%	0.9%
0.8%	0.2%	0.6%	0.5%	0.6%	0.5%	0.7%
0.2%	0.1%	0.2%	0.2%	0.1%	0.2%	0.3%
0.5%	0.3%	0.3%	0.4%	0.4%	0.4%	0.7%
0.3%	0.1%	0.2%	0.3%	0.2%	0.2%	0.3%
						全く,またはほとんどしない。
						30分より少ない。
						30分～
						1時間～
						2時間～
						3時間～
						4時間～
						5時間～
						6時間～
						7時間以上
						記入ミス・無答

・30分より少ない者が約7割となっており, 平日と同様に高い割合になっている。
 ・1時間以上の者は18.4%と平日より5.1ポイント増えているものの, 読書の習慣が身に付いているとはいえない。

まとめ

- ・Q1の高校卒業後の進路として4年制国立大学, 4年制私立大学希望者が46.6%であるのに, Q10平日の家庭学習時間について, 2時間以上実施している者の割合は17.9%にとどまっている。
- ・Q2の進路希望の達成についての考えで, 「卒業までに絶対達成しようと考えている」者が56.1%と増加傾向にある, 一方で, 「卒業までに達成できなければ他の進路に変えてもいいと思っている」者が昨年同様約2割もいる。
- ・進路に対する強い意志をもつ者が5割を超え, 高い進路意識を持つ者が認められるものの, 一方で進路に対してのこだわりが弱い層の割合が2割を占める状態で固定化し, 自分なりの確固たる意識や目標を持たない傾向が出てきつつあるとも考えられる。また, このような進路意識が, 普段の学習に対する考えや姿勢に表れているようである。それはQ3の「どんな気持ちで勉強しているか」という問いに対して, 「特に考えていない」者の割合が18.1%であることや, Q10やQ11の「家庭学習を全く, またはほとんどしない」者の割合が20%前後の割合であることから窺える。

学ぶことの楽しさを味わわせるとともに, 進路指導においては単にその意識を持たせるだけではなく, 自分の将来について具体的に考えさせるなどのさらに踏み込んだ指導が必要と思われる。

- ・「理解できない授業が半分以上」という者の割合が, 2.8ポイント減少しているものの51.5%もいる。
- ・「授業で分からないことがあってもそのまましておく」者が, 5.4ポイント減少しているものの15.2%もいる。
- ・生徒は, 「基礎・基本からじっくり分かるまで教えてくれる授業」「興味や関心をもてるような授業」を期待していることから, 基礎・基本でつまずいたまま, 学習に対する意欲を失ってしまう者も少なからずいると思われる。

確固たる進路意識や学習に対する前向きな姿勢を育てるためにも, 学校においては, 生徒の期待に応える魅力ある授業実践を目指して工夫・改善に努める必要がある。

- ・家庭学習の状況を見てみると, 学習時間については年々増加しているが, 残念ながら多くの生徒がまだまだ不十分と思われる。家庭学習に集中できない要因として, テレビやビデオ, 電話やメールなどがあげられる。

特に, 入学時からの家庭学習習慣の定着化に向けた工夫と, 家庭での学習環境の整備について学校からの呼びかけが必要である。

以上のことから, 生徒自らが社会で果たすべき役割を見据え, 主体的に学ぶ姿勢を育むことがなお一層求められる。また, 各校では体験学習, インターンシップ等を効果的かつ円滑に展開できるような工夫が求められる。家庭学習も含めて, 学習環境の整備をさらに推進し, 生徒の学力の向上に結びつけたい。それには学校と家庭との連携を一層深めた教育の実践が不可欠であり, 学校においては, 分かる授業, 興味関心を持てる授業, 学習意識の向上につながる授業等, 生徒へのきめ細やかな対応と指導及び家庭学習習慣の定着に向けた工夫が求められている。